

面上六米以上

三 前二號以外ノ場合ニ於テハ地表上五米以上
四 造營物ノ側面ニ於テハ造營物ト電線トノ距
離一・二米以上

五 造營物ノ上部ニ於テハ造營物ト電線トノ距
離二米以上

低壓架空電線ノ架空引込線ニ隣接スル部分(細
第四十二條)ニシテ其ノ徑間二十米以下ナル場
合ハ前項第三號ノ制限ヲ四米迄ニ短縮スルコト
ヲ得此ノ場合ニ於テ電線ヲ人ノ容易ニ觸ルル虞
ナキ様施設スルトキハ第一項第四號ノ制限ヲモ
六十糎迄ニ短縮スルコトヲ得

第四十四條

同一支持物ニ高壓架空電線ト低壓架
空電線トヲ併架スルトキハ左ノ各號ニ依リ施設
スルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ様取付タル電
線ハ此ノ限ニ在ラズ(細第四十四條)

一 高壓電線ヲ低壓電線ノ上部ト爲シ別箇ノ腕
トヲ得

木ニ架設スルコト

二 高壓電線ト低壓電線トハ五十糎以上離隔ス
ルコト

特殊ノ設計ニ依リ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケテ
前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第四十五條

支持物ヲ共用スルニ事業業者以上ノ架
空電線路ハ前條及左ノ各號ノ制限ニ依リ施設ス
ルコトヲ要ス但シ特殊ノ設計ニ依ルモノハ電氣
廳長官ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコト
ヲ得

一 高壓、低壓毎ニ各所屬ノ腕木ヲ區劃シ色別
其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ所有者ヲ明ニスル事
二 一ノ支持物ヨリ一事業業者ノミ引込線ヲ分歧
スルコト

第四十六條

高壓架空電線ガ道路ト交叉スル場合
又ハ他ノ低壓若ハ高壓架空電線ト其ノ上部ニ於
テ交叉スル場合ニ於テハ其ノ支持物ハ左ノ各號
ニ依リ施設シ且堅牢ニ建設スルコトヲ要ス(細
第四十五條)

一 木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ場
合ニ在リテハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スコト

二 木柱ノ強度ハ人家連檐ノ場所ニ在リテハ丙
種風壓荷重、其ノ他ノ場所ニ在リテハ甲種風
壓荷重ニ對シ安全係數ヲ四以上トシテ計算シ
タルモノナルコト(細第三十八條)但シ木柱ノ
太サハ左ノ制限ニ依ルコト

徑 間 末 口
(イ) 五十米以下ナ (十五糎以上(單柱)
ル場合 (十二糎以上(日柱、△柱)
(ロ) 五十米ヲ超過 (十八糎以上(單柱)
シ百米以下ナ (十五糎以上(日柱、△柱)
ル場合

高壓架空電線ガ鐵道若ハ軌道ト交叉スル場合又
ハ架空電線ト其ノ上部ニ於テ交叉スル場
合ニ於テハ其ノ支持物ハ左ノ各號ニ依リ施設シ
且堅牢ニ建設スルコトヲ要ス(細第四十五號)

一 木柱ノ場合ニ在リテハ其ノ徑間ヲ五十米以
下ト爲シ前項第二號ニ依ルコト
二 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ場合ニ在
リテハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スコト
前二項ノ場合ニ於テ徑間ガ其ノ制限ヲ超過スル
トキハ支持物ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケタル
特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第四十七條

高壓架空電線路ガ川越、谷越其ノ他
特殊ノ事由ニ依リ徑間百米ヲ超過スル場合ハ其
部分ニ限リ五糎ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強
サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ其ノ弛度ヲ第六
十四條ノ規定ニ適合セシメ且支持物ノ強度ハ左
ノ各號ニ適合セシムル事ヲ要ス(細第三十八條)

一 木柱ノ強度ハ其ノ徑間三百米以下ナルトキ
ハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷重氷雪多キ地方(細
第三十二條)ノ場
合ニノ孰レニ對シテモ安全係數ヲ四以上トシ
テ計算シタルモノナルコト但シ木柱ノ太サハ
單柱ニ在リテハ末口十八糎以上、日柱△柱ニ
在リテハ十五糎以上ト爲スコト

二 徑間百米ヲ超過シ百五十米以下ナル場合ニ
於ケル木柱ニハ全架渉線ニ生ズル最大張力ノ
和ノ三分ノ一ニ等シキ平均張力ニ耐フル支
線ヲ設クルコト但シ四糎以上ノ鐵線五條以上
ヨリ成ルモノナルコト

三 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場合
ニ於ケル木柱ニハ全架渉線ニ生ズル最大張力
ノ和ノ三分ノ二ニ等シキ平均張力ニ耐フル
支線ヲ設クルコト但シ四糎以上ノ鐵線七條以

上ヨリ成ルモノナルコト

四 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場合ニ於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ第二號ノ不平均張力ニ耐フル設計ノモノヲ使用シ又ハ之ニ第二號ニ準ズル支線ヲ設ケル事

五 徑間三百米ヲ超過シ五百米以下ナル場合ニ於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ第三號ノ不平均張力ニ耐フル設計ノモノヲ使用シ又ハ之ニ第三號ニ準ズル支線ヲ設ケルコト

六 徑間五百米ヲ超過スル場合ニ於ケル鐵塔ニハ一 架渉線ニ生ズル最大張力ノ二分ノ一ニ等シキ不平均張力ニ耐フルモノヲ使用スルコト此ノ場合ニ於テハ不平均張力ハ鐵塔ノ各部分ニ最大應力ヲ生ズベキ架渉線ノ取付點ニ加ハルモノトシ之ニ因ル水平力及捻力ヲ加算シタルモノナルコト

前項第二號乃至第五號ノ支線ノ強度ハ安全係數ヲ三以上トシテ計算シタルモノナルコトヲ要ス(細第三十三條及第三十六條)
高壓架空電線路ノ徑間ガ第一項ノ制限ヲ超過スルトキハ其ノ支持物ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受

ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第四十八條 架空電線路ガ他ノ低壓又ハ高壓架空電線路ヲ含ムト交又、接近又ハ並行スル場合ニ於テハ電線相互ノ距離距離ヲ一米以上ト爲シ且電線相互ノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第四十六條)

第四十九條 架空電線ト架空弱電流電線トガ交又シ又ハ接近スル場合ニ於テハ其ノ距離距離ヲ一米以上ト爲スコトヲ要ス但シ弱電流電線ニ第四種絶緣電線ヲ使用シタルトキ又ハ其ノ管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ之ヲ六十浬迄ニ短縮スルコトヲ得

第五十條 高壓架空電線ト架空弱電流電線トガ交又、接近又ハ並行スル部分ニ於テハ高壓電線ヲ上部ト爲スコトヲ要ス但シ工地上已ムヲ得ザル場合ニ於テ弱電流電線トノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲適當ニ施設(細第四十七條)ヲ爲ストキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第五十一條

架空電線ガ他ノ低壓若ハ高壓架空電線路ヲ含ム又ハ架空弱電流電線路ノ支持物ト接近スルトキハ其ノ間隔ヲ三十浬以上ニ保持スルコトヲ要ス但シ接觸ノ虞ナキ様適當ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ
架空電線ト植物トノ間隔ハ三十浬以上ニ保持スルコトヲ要ス但シ工地上已ムヲ得ザル場合ニ於テ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ施設ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條

高壓架空電線ガ煙突、放送聽取無線電話用空中線其ノ他之ニ類スル工作物ト其ノ地表上ノ高サニ相當スル距離以內ニ接近スルトキハ接觸ニ因リ生ズル危險ヲ防止スル爲左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
一 高壓電線ト工作物又ハ其ノ支線トハ一・二米以上、放送聽取無線電話用空中線トハ水平距離一・二米以上ヲ離隔スルコト

二 金屬製工作物又ハ工作物ノ支線ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト
高壓架空電線路ニ用フル支線ニシテ高壓電線ト接觸ノ虞アルモノニハ其ノ上部ニ碍子ヲ挿入ス

ルコトヲ要ス

第五十三條

市街地ニ於ケル高壓架空電線路ノ專用敷地内ニ施設スル鐵塔線路ヲ除クニハ其ノ互長一浬以下毎ニ閉閉器ヲ設置シ電路ヲ遮斷スルニ便ナラシムルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
前項ノ閉閉器ヲ設置シタル場所ニハ之ニ接近シ且之ヲ取扱フニ便ナラシムル様適當ナル設備ヲ施スコトヲ要ス

第五十四條

第四十二條第二項ノ規定ニ依ラズシテ高壓架空電線ニ第一種若ハ第二種絶緣電線ヲ使用シ又ハ三百ヅオルトヲ超過スル直流低壓架空電線ニ第一種絶緣電線ヲ使用スルトキハ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス
一 市街地ニ施設スルモノ又ハ道路、鐵道、軌道、他ノ低壓若ハ高壓架空電線、架空弱電流電線又ハ建造物ノ住居又ハ看守スルモノト交又シ若ハ其ノ架空電線ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近スル箇所ニ施設スルモノハ電線ニ五浬ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト

二 低壓架空電線ト架空弱電流電線トガ交叉、接近又ハ並行スル場合ニ於テハ低壓架空電線ヲ上部ト爲スコト但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ弱電流電線トノ混觸ヨリ生ズル危険ヲ防止スル爲適當ノ施設(細第四十七條)ヲ爲ストキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第五十五條 市街地外ニ於テ低壓又ハ高壓架空電線ニ裸電線ヲ使用スルトキハ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 道路、鐵道、軌道、他ノ低壓若ハ高壓架空電線、架空弱電流電線若ハ建造物ト交叉シ又ハ其ノ架空電線ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近スル箇所ニ於テハ電線ニ五耗ノ硬銅撚線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル撚線ヲ使用シ其ノ弛度ヲ第六十四條ノ規定ニ適合セシムルコト

二 前號ノ場合ニ於テハ木柱ノ強度ハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷重(水雪多キ地方(細第三十二條)ノ場合ニ限ル)ノ對シテモ安全係數ヲ四以上トシテ計算シタルモノナルコト(細第三十八條)但シ木柱ノ太サハ左ノ制限ニ依ルコト

ヲ使用スルトキハ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 道路ニ沿ヒ道路上ニ建設スル場合ハ幅員五米以上ノ道路ニ之ヲ建設スルコト
- 二 電線ニハ五耗ノ硬銅撚線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル撚線ヲ使用シ其ノ弛度ヲ第六十四條ノ規定ニ適合セシムルコト
- 三 電線相互ノ間隔ハ特殊ノ場合(細第五十一條)ヲ除クノ外徑間ガ五十米以下ナル場合ハ四十五種以上、五十米ヲ超過スル場合ハ六十種以上ト爲スコト
- 四 木柱ノ強度ハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷重(水雪多キ地方(細第三十二條)ノ場合ニ限ル)ノ對シテモ安全係數ヲ四以上トシテ計算シタルモノナルコト(細第三十八條)但シ木柱ノ太サハ左ノ制限ニ依ルコト

徑	間	末	口
(イ)	五十米以下ナル場合	十五種以上	
(ロ)	五十米ヲ超過シ六十米以下ナル場合	十八種以上(單柱) 十五種以上(日柱、A柱)	

徑 間 末 口

(イ) 五十米以下ナル場合 十五種以上

(ロ) 五十米ヲ超過スル場合 十八種以上(單柱) 十五種以上(日柱、A柱)

三 第一號ノ場合ニ於テ支持物ハ堅牢ニ建設スルコト(細第四十五條)

四 高壓裸電線ガ他ノ高壓架空被覆電線ト交叉スル箇所又ハ低壓裸電線ガ他ノ低壓架空被覆電線ト交叉スル箇所ニ於テハ工事上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外裸電線ヲ上部ト爲スコト

五 架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ裸電線ヲ上部ト爲シ且危險ヲ生ゼシメザル様適當ノ施設ヲ爲スコト(細第五十條)但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ弱電流電線トノ混觸ヨリ生ズル危険ヲ防止スル爲適當ノ施設(細第四十七條)ヲ爲ストキハ裸電線ヲ下部ト爲スコトヲ得

第五十六條 市街地ニ於テ高壓架空電線ニ裸電線土地ノ狀況又ハ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

五 支持物ハ堅牢ニ建設スルコト(細第四十五條)

- 六 徑間ハ木柱ニ在リテハ五十米以下、鐵柱、鐵塔又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ百米以下ト爲スコト但シ木柱ニ依ル場合ニシテ工事上又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ電線路ノ一部ニ限り徑間ヲ六十米迄ニ延長スルコトヲ得
- 七 裸電線ト架空弱電流電線トハ交叉スル場合ヲ除クノ外水平距離一・五米以上ヲ離隔スルコト但シ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ之ヲ一米迄ニ短縮スルコトヲ得
- 八 架空弱電流電線(ケーブル)ト交叉スル箇所ニ於テハ危險ヲ生ゼシメザル様適當ノ施設ヲ爲スコト(細第五十條)

土地ノ狀況又ハ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第五十七條 市街地ニ於テハ土地ノ狀況又ハ特殊ノ事由ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外低壓架空電線ニ裸電線ヲ使用スルコト

トヲ得ズ但シ電氣鐵道ノ專用敷地内ニ施設スル
低壓架空饋電線ニシテ前條第一項ノ規定ニ準ジ
施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第五十八條 高壓架空被覆電線又ハ低壓若ハ高壓
架空裸電線ガ同一電氣事業者ニ屬スル左ニ掲グ
ル架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ接
近スル場合ハ第四十六條、第五十四條及第五
五條ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

- 一 電路ノ一部ヲ接地シタル低壓架空電線
- 二 單線式電氣鐵道ノ架空饋電線又ハ電車線
- 三 電車線路ニ添架シタル弱電流電線
- 四 特別高壓架空電線路ニ添架シタル電話線又
ハ直接ト下接續スル電話線

第五十九條 架空電線路ハ引込線ヲ併セ左ノ絕緣
抵抗又ハ絕緣耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス
一 低壓電線路ノ絕緣部分ト大地トノ間ノ絕緣
抵抗ハ回線ノ全電線ヲ一括シタルモノト大地
トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシ
テ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セシメザル
様保持スルコト

二 高壓電線路ト大地トノ間ノ絕緣耐力ハ最大

ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
第六十四條 特別高壓架空電線ノ弛度ノ計算ハ左
ノ各號ニ依ルコトヲ要ス(細第三十三條及第五
十四條)

- 一 氷雪多カラザル地方ニ在リテハ其ノ地方ノ
最低溫度ニ於テ安全係數ヲ二以上トシ電線ノ
重量ト電線ノ投影面積一平方米ニ付百疋ノ水
平風壓トノ合成荷重ヲ支持シ得ル様計算シタ
ルモノナルコト但シ最大使用電壓六萬ボルト
ト以上ニシテ且電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リ
テハ百二十平方耗以上、鋼心「アルミニウム」
線ニ在リテハ百五十平方耗以上ノ場合ハ安全
係數ヲ二・五以上ト爲スコト
- 二 氷雪多キ地方(細第三十二條)ニ在リテハ前
號ニ依ルノ外更ニ其ノ地方ノ最低溫度ニ於テ
安全係數ヲ二以上トシ電線ノ周圍ニ厚サ六耗
比重〇・九ノ氷雪附着シタルトキ電線及氷雪
ノ重量ト被氷電線ノ投影面積一平方米ニ付五
十疋ノ水平風壓トノ合成荷重ヲ支持シ得ル様
計算シタルモノナルコト但シ最大使用電壓六
萬ボルト以上ニシテ且電線ノ切斷面積硬銅

使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試驗シ十分
間以上之ニ耐フルコト

第六十條 特別高壓架空電線路ハ市街地其ノ他人
家ノ稠密ナル地ニ建設スルコトヲ得ズ但シ特殊
ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ電氣廳長官ノ認可ヲ
受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第六十一條 特別高壓架空電線路ハ特ニ電氣廳長
官ノ認可ヲ受ケタル場合又ハ弱電流電線路管理
者ノ承諾ヲ得タル場合ヲ除クノ外既設架空弱電
流電線路(單線式電話線路ヲ除ク)ニ對シ誘導作用ニ因ル通信上
ノ障害ヲ及ボサザル様離隔シ且適當ニ施設スル
コトヲ要ス(細第五十二條及第五十三條)

前項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶既設弱電流電線
路ニ對シ障害ヲ及ボス虞アルトキハ更ニ適當ナ
ル方法ヲ施スコトヲ要ス
第六十二條 特別高壓架空電線ニハ五耗ノ裸硬銅
線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル裸電
線ヲ使用スルコトヲ要ス(細第三十三條)

第六十三條 特別高壓架空電線ノ地表上ノ高サハ
六米以上トス但シ特殊ノ場所ニ限り電氣廳長官
線ニ在リテハ百二十平方耗以上、鋼心「アルミ
ニウム」線ニ在リテハ百五十平方耗以上ノ場
合ハ安全係數ヲ二・五以上ト爲スコト

特殊ノ構造又ハ強度ヲ有スル電線ヲ使用スル場
合ニ於テハ電線ノ弛度ハ電氣廳長官ノ認可ヲ受
ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第六十五條 木柱ニ依ル特別高壓架空電線路ニ用
フル支持物ハ左ノ各號ニ依リ且堅牢ニ建設スル
コトヲ要ス(細第三十七條、第三十八條及第五
五條)

- 一 木柱ノ強度ハ第六十八條乃至第七十條ノ規
定ニ依ル場合ヲ除クノ外甲種風壓荷重及乙種
風壓荷重(氷雪多キ地方(細第三十二條)ノ場合ニ限ル)ノ執レニ對シテモ
安全係數ヲ左ノ制限ニ依リ計算シタルモノナ
ルコト
- 電 壓 安全係數
- (イ) 一萬五千ボルト 四以上
- (ロ) 一萬五千ボルト以下ノモノ
- (ハ) 一萬五千ボルト以上(注入柱)
ヲ超過スルモノ 五以上(不注入柱)
- 二 木柱ノ太サハ左ノ制限ニ依ルコト

徑 間 末 口

- (イ) 五十米以下ナ 十五種以上
- (ロ) 五十米ヲ超過 (十八種以上(單柱) スル場合) (十五種以上(且柱、A柱))

三 標準徑間ハ百米以下ナルコト

第六十六條 特別高壓架空電線路ニ用フル鐵柱、鐵塔及鐵筋「コンクリート」柱ノ強度ノ計算ニハ

左ノ區別(細第五十六條)ニ依リ平均張力ニ因ル水平荷重ヲモ加算スルコトヲ要ス

一 標準型及角度型

(イ) 鐵塔ニ在リテハ一架渉線ニ生ズル最大張力ノ二分ノ一ニ等シキ平均張力ガ鐵塔ノ各部分ニ最大應力ヲ生ズベキ架渉線ノ取付點ニ加ハルモノトシ之ニ因ル水平力及捻力ヲ加算スルコト但シ平均張力ハ最大使用電壓六萬ヴォルト以上ノ電線路ニシテ電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平方耗以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方耗以上ノモノニ付テハ耐張碍子ヲ用フル場合ハ架渉線ニ生ズル最大張力ノ一

倍以上「ピン」型又ハ懸垂碍子ヲ用フル場合ハ架渉線ニ生ズル最大張力ノ十分ノ六以上トス

(ロ) 鐵柱、可撓鐵塔又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ(イ)ノ平均張力ヲ考慮スルコトヲ要セズ

二 耐張型 左ノ平均張力ガ各架渉線ノ取付點ニ加ハルモノトスルコト

(イ) 第一種耐張型 各架渉線ニ生ズル最大張力ノ三分ノ一ニ等シキ平均張力

(ロ) 第二種耐張型 各架渉線ニ生ズル最大張力ノ三分ノ二ニ等シキ平均張力

(ハ) 第三種耐張型 各架渉線ニ生ズル最大張力ニ等シキ平均張力

三 引留型 各架渉線ニ生ズル最大張力ニ等シキ平均張力ガ其ノ取付點ニ加ハルモノトスルコト

標準鐵柱及標準鐵筋「コンクリート」柱ノ徑間ハ百米以下ナルコトヲ要ス但シ特殊ノ設計ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ヲ百五十米迄ニ延長スルコトヲ得

第六十七條 特別高壓架空電線路ガ川越、谷越其

ノ他特殊ノ事由ニ依リ徑間百米ヲ超過スル場合ハ其ノ部分ニ限り支持物ノ強度ハ左ノ各號ニ適合セシムルコトヲ要ス

一 徑間百米ヲ超過シ百五十米以下ナル場合ニ於ケル木柱ニハ全架渉線ニ生ズル最大張力ノ和ノ三分ノ一ニ等シキ平均張力ニ耐フル線ヲ設クルコト但シ四耗以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ルモノナルコト

二 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場合ニ於ケル木柱ニハ全架渉線ニ生ズル最大張力ノ和ノ三分ノ二ニ等シキ平均張力ニ耐フル支線ヲ設クルコト但シ四耗以上ノ鐵線七條以上ヨリ成ルモノナルコト

三 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場合ニ於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ第一號ノ平均張力ニ耐フル設計ノモノヲ使用シ又ハ之ニ第一號ニ準ズル支線ヲ設クルコト

四 徑間三百米ヲ超過シ五百米以下ナル場合ニ於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ第

二號ノ平均張力ニ耐フル設計ノモノヲ使用シ又ハ之ニ第二號ニ準ズル支線ヲ設クルコト

五 徑間五百米ヲ超過スル場合ニ於ケル鐵塔

最大使用電壓六萬ヴォルト以上、電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平方耗以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方耗以上ノモノトシテ

使用スルコト但シ土地ノ狀況ニ依リ當該徑間ニ隣接スル箇所ニ第二種耐張鐵塔ヲ建設シ本鐵塔ハ標準型ニ準ジ計算シタルモノト爲スコトヲ得

前項第一號乃至第四號ノ支線ノ強度ハ安全係數ヲ三以上トシテ計算シタルモノナルコトヲ要ス

(細第三十三條及第三十六條)

特別高壓架空電線路ノ徑間ガ第一項第二號又ハ第四號ノ制限ヲ超過スルトキハ其ノ支持物ハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第六十八條 特別高壓架空電線ト建造物、道路、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トガ水平距離ニ於テ其ノ特別高壓電線路ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル距離乃至三米迄ニ接近スル部分ニ於テハ左ノ各號ニ依リ施

設シ且適當ニ建設(細第五十八條)スルコトヲ要ス

- 一 特別高壓架空電線ニハ撚線ヲ使用スルコト
- 二 木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ハ其ノ徑間ヲ百メートル以下ト爲スコト
- 三 木柱ノ強度ハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷重(氷雪多キ地方(細第三十二條)ノ場合ニ限ル)ノ執レニ對シテモ安全係數ヲ左ノ制限ニ依リ計算シタルモノナルコト

電 壓 安全係數

(イ) 一萬五千ヴォルト以下

六

(ロ) 一萬五千ヴォルトヲ超過スルモノ

六(注入柱) 七・五(不注入柱)

四 一萬五千ヴォルトヲ超過スル電線ト建造物トノ離隔距離ハ五米以上ニ保持スルコト

前項ノ場合ニ於テ徑間ガ百メートル超過スルトキハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第六十九條 二萬五千ヴォルト以下ノ特別高壓架空電線ト建造物、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トガ水平距離三米以內ニ接近スルトキ又ハ一萬五千ヴォルト以下ノ

特別高壓架空電線ト道路トガ水平距離三米以內ニ接近スルトキハ前條第一號及第三號ニ依リ施設シ且危險ヲ生セシメザル様適當ニ施設(細第五十九條)スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ徑間ハ木柱ニ在リテハ五十米以下、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ百メートル以下、鐵塔ニ在リテハ百五十米以下ト爲スコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザル場合ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
第一項ノ電壓ヲ超過スル特別高壓架空電線ト建造物、道路、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トガ水平距離三米以內ニ接近スルトキハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス
第七十條 特別高壓架空電線ガ道路、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線 電線 又ハ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ左ノ各號ニ依リ施設シ且危險ヲ防止スル爲適當ニ施設(細第六十條)スルコトヲ要ス
一 木柱ハ其ノ徑間ヲ百メートル以下トシ且其ノ強度ハ第六十八條第一號第三號ニ依ルコト
二 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ハ其ノ徑間ヲ百メートル以下ト爲スコト
三 電線相互間ノ離隔距離ハ常ニ左ノ制限ニ依ルコト
(イ) 六萬ヴォルト以下ノモノハ二米以上
(ロ) 六萬ヴォルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端數毎ニ二十纏ヲ加フ
四 下部ノ特別高壓架空電線路ニ架空地線アル場合ハ電線ト架空地線トノ離隔距離ハ前號ニ依ルコト
特殊ノ設計ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
第七十二條 特別高壓架空電線ガ同一電氣事業者ニ屬スル左ニ掲グル架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ接近スル場合ハ第六十八條乃至

二 木柱ハ其ノ徑間ヲ鐵道、軌道又ハ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ在リテハ五十米以下、道路又ハ低壓若ハ高壓架空電線ト交叉スル箇所ニ在リテハ百メートル以下トシ且其ノ強度ハ第六十八條第一號第三號ニ依ルコト

三 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ハ其ノ徑間ヲ百メートル以下ト爲スコト
四 低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ特別高壓電線ヲ上部ト爲シ且電線相互間ノ垂直距離ハ常ニ左ノ制限ニ依ルコト
(イ) 六萬ヴォルト以下ノモノハ二米以上
(ロ) 六萬ヴォルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端數毎ニ二十纏ヲ加フ
特殊ノ設計ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第七十一條 特別高壓架空電線ト他ノ特別高壓架空電線トガ水平距離ニ於テ其ノ電線路ノ支持物地表上ノ高さニ相當スル距離以內ニ接近スル部分及特別高壓架空電線ガ他ノ特別高壓架空電線

ノ上部ニ於テ之ト交叉スル部分ニ於テハ撚線ヲ使用シ左ノ各號ニ依リ施設シ且危險ヲ防止スル爲適當ニ施設(細第六十條)スルコトヲ要ス
一 木柱ハ其ノ徑間ヲ百メートル以下トシ且其ノ強度ハ第六十八條第一號第三號ニ依ルコト
二 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ハ其ノ徑間ヲ百メートル以下ト爲スコト
三 電線相互間ノ離隔距離ハ常ニ左ノ制限ニ依ルコト
(イ) 六萬ヴォルト以下ノモノハ二米以上
(ロ) 六萬ヴォルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端數毎ニ二十纏ヲ加フ
四 下部ノ特別高壓架空電線路ニ架空地線アル場合ハ電線ト架空地線トノ離隔距離ハ前號ニ依ルコト
特殊ノ設計ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
第七十二條 特別高壓架空電線ガ同一電氣事業者ニ屬スル左ニ掲グル架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ接近スル場合ハ第六十八條乃至

第七十條 第一項第四ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

- 一 電路ノ一部ヲ接地シタル低壓架空電線
- 二 單線式電氣鐵道ノ饋電線又ハ電車線
- 三 電車線路ニ添架シタル弱電流電線
- 四 特別高壓架空電線路ニ添架シタル電話線又ハ直接之ヲ接續スル電話線

特別高壓架空電線ガ同一事業者ニ屬スル鐵道若ハ軌道ト交叉シ又ハ其ノ特別高壓電線ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル距離以內ニ接近スル場合ハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケテ第六十八條及第七十條ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第七十三條 特別高壓架空電線ト低壓又ハ高壓架空電線トハ同一支持物ニ添架スルコトヲ得ズ但シ一萬五千ヰオルト以下ノ特別高壓架空電線ト同一事業者ニ屬スル低壓又ハ高壓架空電線トノ場合ニシテ電線相互ノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲適當ニ施設(細第六十一條)スルトキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

特別ノ設計ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
第七十四條 特別高壓架空電線ト植物トノ間隔ハ

風雪其ノ他如何ナル場合ニ於テモ左ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス

- 一 六萬ヰオルト以下ノモノハ二米以上
- 二 六萬ヰオルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヰオルト又ハ其ノ端數毎ニ三十種ヲ加フ

第七十五條 特別高壓架空電線ト他ノ架空電線路(電車線路)又ハ架空弱電流電線路ノ支持物トハ常ニ左ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス

- 一 六萬ヰオルト以下ノモノハ二米以上
- 二 六萬ヰオルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヰオルト又ハ其ノ端數毎ニ三十種ヲ加フ

特別ノ設計ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
第七十六條 特別高壓架空電線ガ煙突其ノ他之ニ類スル工作物ト其ノ地表上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近スルトキハ接觸ニ因リ生ズル危險ヲ防止スル爲左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

第四節 地中電線路

第七十八條 道路ニ施設スル地中電線路ハ左ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ工事以上ムヲ得ザルトキ又ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

- 一 道路ヲ橫斷スルモノヲ除クノ外道路ノ兩側ニ跨ラズシテ其ノ一側ノミニ施設スルコト
- 二 道路ノ一側ニ地中弱電流電線路アルトキハ其ノ同一側ニ施設セザルコト
- 三 道路ノ一側ニ地中電線路アルトキハ其ノ同一側ニ施設スルコト

前項ノ規定ハ地中引込線及屋外照明用地中電線路ニ之ヲ適用セズ

第七十九條 地中電線ヲ藏ムル暗渠、管又ハ管路ハ堅牛ニシテ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ニ耐ヘ且瓦斯又ハ水ノ成ルベク浸入セザル様築造スルコトヲ要ス

地中電線ヲ直接埋設式ニ依リ敷設スルトキハ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ヲ受ケル虞アル場所ニ於テハ土冠ヲ一・二米以上、其ノ他ノ場所ニ於テハ土冠ヲ六十種以上ト爲シ石又ハ樋ノ類ヲ以テ

(ロ) 六萬ヰオルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヰオルト又ハ其ノ端數毎ニ三十種ヲ加フ
二 金屬製工作物又ハ工作物ノ支線ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト
第七十七條 特別高壓架空電線路ト大地トノ間ノ絶緣耐力ハ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルモノナルコトヲ要ス

最大使用電壓 試驗電壓	
一 五萬ヰオルト未滿	最大使用電壓ノ一・五倍
二 五萬ヰオルト以上	最大使用電壓ニ二萬五千ヰオルトヲ加ヘタルモノ

特別高壓架空電線路ニシテ電路ノ中性點ヲ一定限度ヲ超過セザル「インピーダンス」類ヲ除クヲ通ジテ接地シタル場合ニ限り前項ノ試驗電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕減スルコトヲ得

最大使用電壓 試驗電壓	
一 五萬ヰオルト未滿	最大使用電壓ノ一・二五倍
二 五萬ヰオルト以上	最大使用電壓ニ一萬三千ヰオルトヲ加ヘタルモノ

電纜ノ上部及側面ヲ掩ヒ他動的損傷ヲ防止スルコトヲ要ス但シ低壓電線ヲ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ヲ受ケル虞ナキ場所ニ敷設スル場合ハ幅二十糎以上ノ堅牢ナル石又ハ木板ノ類ヲ以テ電線ノ上部ノミヲ掩ヒテ施設スルコトヲ得

第八十條 地中電線ニハ引入式又ハ暗渠式ニ依ル場合ハ鉛被電纜又ハ鉛裝電纜、直接埋設式ニ依ル場合ハ鉛裝電纜ヲ使用スルコトヲ要ス但シ前條第二項但書ノ場合ハ左ノ電線ヲ使用スルコトヲ得

- 一 切斷面積五平方糎以下ノモノ 鉛被電線
 - 二 切斷面積五平方糎ヲ超過「ヂユート」捲シ十五平方糎以下ノモノ 鉛被電線
- 土地ノ狀況又ハ特殊ノ設計ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第八十一條 地中電線路ハ漏洩電流又ハ誘導作用ニ因リ既設地中弱電流電線ニ對シ通信上ノ障害ヲ及ボサザル様離隔シ又ハ其ノ他ノ適當ナル防止方法ヲ施スコトヲ要ス

シ又ハ接近スル場合ニ於テ其ノ間隔ガ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ三十糎以下、特別高壓電線ニ在リテハ六十糎以下ナルトキハ成ルベク其ノ部分ヲ短縮シ且相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁ヲ設ケルコトヲ要ス

第八十三條 高壓地中電線ト低壓地中電線トハ相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁アル場合ヲ除クノ外三十糎以上離隔スルコトヲ要ス但シ地中函内ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

特別高壓地中電線ト低壓又ハ高壓地中電線トノ場合亦前項ニ同ジ

第八十四條 地中電線ヲ藏ムル金屬製ノ暗渠、管、電線接續函及地中電線ノ被覆ニ用フル金屬體ハ電氣的接續ヲ爲シ且之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

第八十五條 地中函ハ電氣事業專用ノモノトシ且二以上ノ事業者之ヲ共用スルコトヲ得ズ但シ特殊ノ設計ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八十六條 地中函ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 地中函ハ堅牢ニシテ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ニ耐フル様築造スルコト
 - 二 地中函ニハ水ノ浸入ヲ防止シ又ハ函内ノ滯水ヲ排除スル裝置ヲ施スコト
 - 三 爆發性又ハ燃燒性瓦斯ノ侵入スル虞アル場所ニ設ケル地中函ニシテ其ノ大サ一立方米以上ノモノニハ之ヲ放散セシムベキ通風其ノ他ノ裝置ヲ施スコト
 - 四 地中函ノ蓋ニハ事業者ノ外容易ニ開披シ能ハザル設備ヲ施スコト
 - 五 地中函ノ蓋ニハ事業者名又ハ其ノ記號ヲ表示スルコト
- 地中函ハ時々點檢シ瓦斯ノ存在ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ放散セシメ且其ノ旨ヲ瓦斯管ノ管理者ニ通知スルコトヲ要ス
- 第八十七條 地中電線路ハ左ノ絶緣抵抗又ハ絶緣耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

過セシメザル様保持スルコト

二 高壓電線路ニ在リテハ其ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶緣耐力ハ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト

三 特別高壓電線路ニ在リテハ其ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶緣耐力ハ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル交流電壓又ハ直流電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト

(イ)	二萬ウオ	最大使用電壓ノ一・五倍	最大使用電壓ノ三・五倍
(ロ)	五萬ウオ	最大使用電壓ノ二倍ニ三萬ウオ	最大使用電壓ノ二倍ニ三萬ウオ
(ハ)	五萬ウオ	最大使用電壓ノ二倍ニ三萬ウオ	最大使用電壓ノ二倍ニ三萬ウオ

電路ノ中性點ヲ一定限度ヲ超過セザル「インピ

「ダンス」類ヲ除クヲ通ジテ接地シタル場合ニ
限リ前項第三號ノ試驗電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕
減スルコトヲ得

最大使用電壓 交流電壓 直電壓

(イ) 二萬ヴオルト未満 最大使用電壓ノ三倍

(ロ) 二萬ヴオルト以上五萬ヴオルト未満 最大使用電壓ノ二倍ニ加ヘタルモノ

(ハ) 五萬ヴオルト以上 最大使用電壓ノ一倍ニ加ヘタルモノ

第五節 隧道其ノ他之ニ類スル場所ヲ通過スル電線路

第八十八條 鐵道又ハ軌道ノ專用隧道内ノ電線路ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ特殊ノ設計ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

若ハ五耗ノ裸硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上二・五米以上ノ高サニ保持スルコト
二 高壓電線ハ左記イ又ハロニ依リ施設スルコト
(イ) 鎧裝電纜ヲ使用スルコト但シ他動の損傷ヲ防止スル裝置ヲ施ストキハ鉛被電纜ヲ使用スルコトヲ得
(ロ) 四耗ノ第三種絕緣硬銅線若ハ五耗ノ裸硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上三米以上ノ高サニ保持スルコト
三 特別高壓電線ニハ鎧裝電纜ヲ使用スルコト但シ他動の損傷ヲ防止スル裝置ヲ施ストキハ鉛被電纜ヲ使用スルコトヲ得
第八十九條 人ノ常ニ通行スル隧道内ノ電線路ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
一 低壓電線ハ第三百三十四條第一號ノ規定ニ準ジ施設スルコト
二 高壓電線ニハ鎧裝電纜ヲ使用シ且人ノ觸ル

ル虞アル箇所ニ施設スルモノニハ他動の損傷ヲ防止スル裝置ヲ施スコト

第九十條 前二條ノ電線路ノ絕緣抵抗又ハ絕緣耐力ニ關シテハ第五十九條又ハ第八十七條ノ規定ヲ準用ス

第六節 保安通信設備

第九十一條 送電ノ連絡ヲ有スル發電所及變電所相互間ニハ保安通信用電話ヲ施設スルコトヲ要ス

左ニ掲グル箇所相互間ニ於テモ保安上必要ト認ムルトキハ保安通信用電話ノ施設ヲ爲スベシ
一、發電所、其ノ水路及水路工作物保安ノ爲必要ナル量水所
二 同一送電系統ニ屬スル發電所、變電所、蓄電所、開閉所及技術員駐在所

特別高壓架空電線路ニ依リ送電スル場合ニ在リテハ携帶電話機ニ依リ通話スル設備ヲ爲シ且電話線ヲ架空電線路ニ添架スル場合ハ電線路ノ互長約四料毎ニ携帶電話機接續箇所又ハ電話機設置箇所ヲ設クルコトヲ要ス
第九十二條 架空電線路ニ添架スル保安通信用電

話線以下單ニ電線ト稱スニハ特殊ノ場合(細第六十二條)ヲ除クノ外二・六耗ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス

第九十三條 架空電線路ニ添架スル電話線ハ架空電線ノ下部ニ架設シ電線ト電話線トノ垂直距離ハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

一 架空電線ガ低壓又ハ高壓電線ナルトキハ六十糎以上
二 架空電線ガ特別高壓電線ナルトキハ一・二米以上

第九十四條 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ノ地表上ノ高サハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス
一 鐵道又ハ軌道ヲ橫斷スル場合ニ於テハ軌條面上六米以上
二 前號以外ノ場合ニ於テハ地表上五米以上

第九十五條 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ガ道路、鐵道、軌道、架空電線又ハ他ノ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 道路、鐵道又ハ軌道ト交叉スル箇所ニ於テハ四耗ノ第三種絕緣硬銅線若ハ五耗ノ鐵線又

ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト

二 他ノ特別高壓架空電線ト交叉スル箇所ニ於テハ特殊ノ設計ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外其ノ下部ニ架設シ且危險ヲ防止スル爲適當ニ施設スルコト(細第六十三條)

三 低壓架空電線又ハ他ノ架空弱電流電線特別高壓電線路ニ添架スル保安通信用電話線ヲ除クト交叉スル箇所ニ在リテハ其ノ上部ニ施設シ四耗ノ第三種絕緣硬銅線若ハ五耗ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ工事已ムヲ得ザル場合ニ於テ低壓電線若ハ他ノ弱電流電線ニ第四種絕緣電線若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スル場合ハ電話線ノ下部ト爲スコトヲ得

四 電話線ト他ノ架空弱電流電線トノ垂直距離ヲ一米以上ト爲スコト

第九十六條 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線及之ニ接續スル電話線ハ之ヲ市街地ニ施設スル電話線ト接續スルコトヲ得ズ但シ特殊ノ施設

施設スルコトヲ要ス

一 電線ニハ二・六耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ徑間二十米以下ノ場合ニ限り二耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ得

二 電線ニハ第四號口、第七號及第八號ノ場合ヲ除クノ外使用電壓三百ヴォルト以下ナルトキハ第一種絕緣電線、三百ヴォルトヲ超過スル直流低壓ニ在リテハ第二種絕緣電線ヲ使用スルコト

三 電線地表上ノ高サハ左ノ制限ニ依ルコト

(イ) 道路ヲ横斷スル場合ハ地表上六米以上但

使 用 電 壓

(イ) 交流百五十ヴォルト以下中性點ヲ接地シタル場合ハ二百五十ヴォルト以下又ハ直流三百ヴォルト以下

(ロ) (イ)以外ノモノ

(細第六十四條)ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第九十七條 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ニ直接接續スル電話線ハ第九十二條、第九十四條及第九十五條ノ規定ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

第九十八條 架空電線路ニ添架スル電話線及直接ニ接續スル電話線ニ接續スル屋内電話機ノ設置箇所ニハ其ノ架空電線ノ最大使用電壓ニ從ヒ適當ナル保安裝置(細第六十五條)ヲ施スコトヲ要ス

二萬五千ヴォルト以上ノ特別高壓電線路ニ添架スル電話線ニ接續スル屋外電話機ノ接續箇所ニハ適當ナル保安裝置(細第六十六條)ヲ施スコトヲ要ス

第九十九條 保安通信用ニ供スル電信線其ノ他ノ弱電流電線ノ工事ニ關シテハ第九十二條乃至前條ノ規定ヲ準用ス

第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

第一節 屋外工事

第一百條 低壓架空引込線ハ第三十二條、第四十八條及第五十一條ノ規定ニ準ジ且左ノ各號ニ依リ

シ市街地外ニ於テハ交通ニ支障ナキ様施設シタルモノニ限り地表上五米以上

(ロ) 鐵道、軌道ヲ横斷スル場合ハ軌條面上六米以上

(ハ) (イ)以外ノ場合ハ地表上五米以上但シ第四十三條第二項ニ依ル電線ノ支持物ヨリ分歧スル場合ハ地表上四米以上

四 工事已ムヲ得ザル場合ハ需用場所ノ取付點ニ於テ前號イ及ハノ制限ヲ交通ニ支障ナキ限り左ノ高サ迄ニ輕減スルコトヲ得但シ此ノ場合ハ配電線路ニ取付クル點ノ高サハ前項ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

取付點ノ高サ 電 線 ノ 種 類

二・五米 第一種絕緣電線

(二) 二・五米 第三種又ハ第四種絕緣電線
(三) 三・五米 第一種又ハ第二種絕緣電線

五 電線ト造營物トノ間隔ハ左ノ制限ニ依ルコ

(イ)ト 造營物ノ側面ニ於テハ一・二米以上
(ロ) 造營物ノ上部ニ於テハ二米以上

工事上已ムヲ得ザル場合ニシテ危險ノ虞ナク且人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様施設スルトキハ電線ヲ直接引込ミタル造營物ニ付テハイ(ロ)ノ制限、其ノ他ノ造營物ニ付テハイノ制限ニ依ラザルコトヲ得

六 電線ト架空弱電流電線トガ交叉シ又ハ接近スル場合ニ於テハ其ノ離隔距離ヲ一米以上ト爲スコト但シ弱電流電線ニ第四種絕緣電線ヲ使用シタルトキ、弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ工事上已ムヲ得ザルトキハ之ヲ六十種迄ニ短縮スルコトヲ得

七 使用電壓交流百五十ヴオルト、直流三百ゾオルトヲ超過スル電線ガ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ水平距離一米以内ニ於テ接近スル場合ニ於テハ左ノ電線ヲ使用スルコト

(イ) 電線ガ弱電流電線ノ上部ニアル場合ハ第三種若ハ第四種絕緣電線又ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノ
(ロ) 電線ガ弱電流電線ノ下部ニアル場合ハ第三種若ハ第四種絕緣電線
使用電壓交流二百五十ヴオルト以下ニシテ中性點ヲ接地シタル場合ハ本號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

八 配電線路又ハ他ノ引込線ヨリ分岐シテ直ニ百五十ヴオルト以下ノ一ノ屋外電燈ニ至ル電線ヲ金屬線ニ依リ吊架スル場合ハ第四種絕緣電線ヲ使用シ且第四百條第一項第六號ニ準ジ施設スルコト
連接引込線ハ屋內ヲ通過セズ且引込線ヨリ分岐スル點ヨリ六十米ヲ超ユル地域ニ互リ施設スルコトヲ得ズ
連接引込線ハ道路ヲ横斷セズ且第四百二條ノ規定ニ依リ施設スル場合ヲ除クノ外第一項ニ準ジ之ヲ施設スルコトヲ要ス

高壓架空引込線ニハ四耗ノ第三種絕緣硬銅線若

ハ五耗ノ第一種絕緣硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ且第三十二條、第四十三條及第四十八條乃至第五十二條ノ規定ニ準ジ施設スルコトヲ要ス但シ第四十三條第一項第四號及第五號ノ制限ハ危險ノ虞ナク且工事上已ムヲ得ザル場合ニ限リ引込線ト之ヲ直接引込メル造營物ニ付之ヲ適用セズ

第百一條 屋外電燈ノ引下線ニシテ地表上ノ高サ二・五米未満ノ部分ニハ電纜工事ニ依リ施設スル場合ヲ除クノ外第四種絕緣電線ヲ使用シ且人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル場合ハ他動的損傷ヲ防止スル爲適當ニ施設スルコトヲ要ス

第百二條 軒下其ノ他家屋ノ外面ニ沿ヒ引込線、連接引込線其ノ他ノ低壓電線ヲ施設スル場合又ハ家屋ノ外側ニ低壓電線ヲ露出セズシテ施設スル場合ハ一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ碍子引工事人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ展開シタル場所及點檢シ得ル掩蔽場所(細第七十六條)ニ限ル金屬管工事又ハ電纜工事ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第六十七條)
前項ノ屋外工事ガ看板燈其ノ他家屋ノ外面ニ於

ケル電氣使用ヲ目的トスルモノナルトキハ該電路ノ電線相互間及至電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ノ絕緣抵抗ハ電球及附屬物ヲ含ミ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシメザルコトヲ要ス但シ白熱電燈ノミニ電氣ヲ供給スル回路ニ在リテハ電球承口一箇ニ對シ一メグオーム以上タラシムルコトヲ要ス

第百三條 「ネオン」管燈其ノ他之ニ類スル放電管燈ハ左ノ各號ニ依リ且人ノ觸ルル虞ナキ場所ニ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第六十八條)
一 管燈回路ニ使用スル變壓器ハ二次無負荷電壓一萬五千ヴオルト以下ニシテ二次短絡電流五十ミリアマペア以下ノモノナルコト
二 管燈回路ニ使用スル電線ニハ管極間ノ短小ナル接續線ヲ除クノ外特殊ノ絕緣耐力ヲ有スル一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用スルコト

第百四條 電壓百五十ヴオルト以下ノ屋外照明明用架空電線路ハ第三十二條、第四十九條、第五十一

條及左ノ各號ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設(細第六十九條)スルコトヲ要ス

一 他ノ配電線路又ハ引込線ヲ分岐セザルコト

二 他ノ架空電線路又ハ架空弱電流電線路トノ交叉數ヲ最小ナラシメルコト

三 市街地ノ道路上ニ施設スル場合ハ幅員二十米ヲ超過スル道路ニ施設セザルコト但シ道路ノ中央ニ電燈列ヲ架設スル場合ハ幅員十米ヲ超過スル道路ニ施設セザルコト

四 電線ニハ二・六耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ電線ヲ金屬線ニテ吊架スル場合又ハ道路外ニシテ人ノ容易ニ立入ラザル場所ニ三十米以下ノ徑間ヲ以テ施設スル場合ハ二耗ノ硬銅線ヲ使用スルコトヲ得

五 電線ニハ左ニ掲グル絶緣電線ヲ使用スルコト

- (イ)ト 金屬線ニテ吊架シタル電線
- (ロ) 道路上ニ於テ地表上五米未満ノ高サニ施設シタル架空電線
- 第四種絶緣電線
- 第三種絶緣電線

(ハ) (イ)及(ロ)以外ノ場合ニ於ケル電線 第一種絶緣電線

六 電線地表上ノ高サハ五米以上ト爲スコト但シ道路ノ一側又ハ兩側ニ於テ道路ヲ横斷セズ且交通ニ支障ナキ様施設シタルモノ及道路外ニシテ人ノ容易ニ立入ラザル場所ニ施設シタルモノニ限り三米以上ト爲スコトヲ得

第五條 弧光電燈用ノ架空電線ハ往復線ヲ同一支持物ニ並行シテ架設スルコトヲ要ス但シ他ニ障害ヲ及ボス虞ナキ場合ニ於テハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第二節 屋内工事

第六條 屋内ニ供給スル電壓ハ特殊ノ工事方法(細第七十條)ニ依ル場合又ハ特ニ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外直流ニ在リテハ五百ヅオルト、交流ニ在リテハ二百五十ヅオルト以下トス但シ乾燥シタル場所ニ限り此ノ制限以上ノ低壓ニ依リ供給スルコトヲ得

白熱電燈及家庭用電氣器具 電氣扇、電熱器、小型電動電氣機械器具ヲ謂フ以下之ニ同ジ

ニ供給スル電路ニ在リテハ電線ノ大地ニ對スル電壓ハ特殊ノ場合(細第七十一條)ヲ除クノ外百五十ヅオルト以下ト爲スコトヲ要ス

「ネオン」管燈其ノ他之ニ類スル放電管燈ヲ第百三條ノ規定ニ準ジ施設スル場合又ハ特殊ノ事由ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第七條 屋内配線 電線及移動シテ使用スルニハ鉛裝電纜、鉛被電線又ハ金屬管、金屬線繩若ハ木製線繩内ニ藏メタル電線ヲ使用スル場合ヲ除クノ外耐火耐水質ノ碍子ヲ用ヒ人ノ容易ニ觸レザル様施設スルコトヲ要ス

第八條 屋内ニ施設スル低壓電線ニハ技術上已ムヲ得ザルモノ(細第七十二條)ヲ除クノ外裸電線ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ特殊ノ設計ニ依リ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第九條 低壓屋内配線ニハ一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使

用スルコトヲ要ス但シ特殊ノ場合(細第七十三條)ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 屋内ニ施設スル低壓用電纜及鉛被電線ハ第四種絶緣電線ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第十一條 屋内ニ施設スル電纜ノ被覆ニ用フル金屬體及鉛被電線ノ鉛被ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

第十二條 屋内ニ施設スル低壓電線ニハ引込口ニ近キ場所ニ開閉器及自動遮斷器ヲ各極ニ裝置スルコトヲ要ス

第十三條 屋内ニ施設スル低壓電線ハ左ノ各號ニ依リ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路ニ開閉器及自動遮斷器ヲ裝置スルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アルモノハ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

- 一 白熱電燈用電線ハ一キロワット以下毎二分岐スルコト但シ一回路ノ承口ノ總數十五箇ヲ超過セザル場合ニ限り此ノ制限ヲ三キロワットト爲スコトヲ得
 - 二 白熱電燈ト家庭用電氣器具トニ併セ供給スル電線ハ三キロワット以下毎二分岐スルコト但シ一回路ノ承口ノ總數十五箇ヲ超過スル場合ハ白熱電燈ノ總ワット數ヲ一キロワット以下ト爲スコト
 - 三 家庭用電氣器具其ノ他ノ屋内電氣機械器具用電線ハ三キロワット以下毎二分岐スルコト但シ一回路ノ承口ノ總數三箇ヲ超過セザル場合ニ限り此ノ制限ヲ五キロワットト爲スコトヲ得
 - 四 一箇ノ容量五キロワットヲ超過スル家庭用電氣器具其ノ他ノ屋内電氣機械器具用電線ハ各機械器具毎二分岐スルコト
- 前項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ分岐回路ノ總ワット數ガ前項第一號乃至第三號ノ制限ヲ超過セザルトキハ之等各回路ニ共同ノ開閉器及自動遮斷器ヲ使用スルコトヲ得

- 前二項ノ開閉器及自動遮斷器ハ特殊ノ場合(細第七十五條)ヲ除クノ外各極ニ之ヲ裝置スルコトヲ要ス
- 第百十四條** 屋内ニ施設スル低壓用ノ開閉器及自動遮斷器ハ前二條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外一キロワット以下ノ低壓二線式屋内電路ニ使用スルモノニ限り單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得
- 第百十五條** 低壓屋内配線ハ其ノ施設場所ニ從ヒ左ニ掲グル工事ニ依リ施設スルコトヲ要ス
- 一 展開シタル場所
 - (イ) 碍子引露出工事 以下單ニ露出工事ト稱ス
 - (ロ) 木製線樋工事及金屬線樋工事 乾燥シタル場所ニ限ル
 - (ハ) 金屬管工事及電纜工事
 - 二 點檢シ得ル掩蔽場所(細第七十六條)
 - (イ) 碍子引隱蔽工事 以下單ニ隱蔽工事ト稱ス
 - (ロ) 木製線樋工事及金屬線樋工事 乾燥シタル戸棚又ハ押入内ニ限ル

(ハ) 金屬管工事及電纜工事

- 三 點檢シ能ハザル掩蔽場所(細第七十六條)
 - (イ) 隱蔽工事 乾燥シタル場所ニ限ル
 - (ロ) 金屬管工事及電纜工事

金屬管工事又ハ電纜工事ヲ施スベキ場合ニ於テ他動的損傷ヲ受クル虞ナキ場所ニ限り工事上已ムヲ得ザルトキハ鉛被電線ヲ使用シテ施設スルコトヲ得

第百十六條 屋内ニ於テ低壓電線ガ造營材ヲ貫通スル部分ニ於テハ金屬管工事ニ依ル場合ヲ除クノ外之ヲ碍管内ニ藏ムルコトヲ要ス但シ乾燥シタル場所ニ限り工事上已ムヲ得ザルトキハ「ゴム」管又ハ「ゴムテープ」ヲ以テ碍管ニ代用スルコトヲ得(細第七十七條)

第百十七條 露出工事ニ依ル低壓屋内配線ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 電線ニハ第二種絕緣電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ人ノ觸ルル虞アル

場所ニ施設スル電線ニハ第三種絕緣電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ得

- 二 電線相互間ハ三種以上ヲ離隔スルコト
 - 三 電線ト造營材トハ六耗以上ヲ離隔スルコト
- 第百十八條** 隱蔽工事ニ依ル低壓屋内配線ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 電線ニハ第二種絕緣電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ點檢シ能ハザル掩蔽場所(細第七十六條)ニ施設スル電線ニハ第三種絕緣電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ使用スルコト
- 二 工事上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外電線ヲ造營材ノ側面又ハ下面ニ取付クルコト
- 三 造營材ノ面ニ沿ヒテ電線ヲ取付クルトキハ電線支持點間ノ距離ヲ一米以下ト爲スコト
- 四 電線相互間ノ距離及電線ト造營材トノ距離ハ左記ニ依ルコト

(イ) 第二種絕緣電線ヲ造
 管材ノ側面又ハ下面
 二取付クルトキ
 十二種 三種以上

(ロ) 第二種絕緣電線ヲ造
 管材ノ上部ニ取付ク
 十二種 十種以上

(ハ) 第三種絕緣電線又ハ
 之ト同等以上ノ効力
 有スル電線ヲ使用
 六種以上 三種以上

第一百十九條 木製線樋工事ニ依ル低壓屋内配線ハ
 左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス(細第七十
 八條)

- 一 電線ニハ第四種絕緣電線ヲ使用スルコト
- 二 電線相互間ハ十二耗以上、電線ト線樋ヲ取
 付クル造管材トハ六耗以上及電線ト線樋ヲ取
 付クル木「ネジ」トハ六耗以上ノ距離ヲ離隔ス
 ルコト
- 三 線樋内ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコ
 ト

第二十條 金屬管工事(細第七十九條)及金屬線
 樋工事(細第八十條)ハ左ノ各號ニ依リ施設スル

- 三 隱蔽工事ニ依ル電線ト露出
 工事ニ依ル電線トノ場合 十五種以上
 - 四 碍子引工事ニ依ル電線ト線
 樋工事ニ依ル電線トノ場合 十五種以上
- 前項第二號又ハ第四號ノ場合ニ於テ碍子引工事
 ニ依リ施設シタル一方ノ回路ノ電線ヲ充分ナル
 長サノ碍管ニ藏ムルトキハ工事前上已ムヲ得ザル
 場合ニ限リ前項ノ距離以內ニ於テ交叉スルコト
 ヲ得

第二十二條 屋内ニ施設スル低壓電線ト弱電流
 電線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體トハ十五種以
 上ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス但シ第三種地線
 工事ニ依リ接地シタル金屬管工事若ハ金屬線樋
 工事又ハ鐵裝電纜ヲ用フル電纜工事ニ依リ施設
 スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ金屬管、金屬線樋又ハ
 電纜ハ弱電流電線又ハ瓦斯管ニ直接接觸セザル
 様施設スルコトヲ要ス

碍子引工事ニ依ル電線ガ弱電流電線、水管、瓦斯
 管其ノ他ノ金屬體ト工事前上已ムヲ得ズ十五種以
 內ニ於テ交叉シ又ハ接近スルトキハ相互間ニ堅

- 一 電線ニハ第四種絕緣電線ヲ使用スルコト
- 二 電線ニハ燃線ヲ使用スルコト但シ短小ナル
 管若ハ樋内ニ藏ムルモノ又ハ二耗以下ノモノ
 ハ此ノ限ニ在ラズ
- 三 管又ハ樋ノ接續ハ電氣的完全ナラシムルコ
 ト
- 四 管又ハ樋ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地
 スルコト但シ短小ナル管又ハ樋ニシテ乾燥シ
 タル場所ニ施設シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 五 管又ハ樋内ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザ
 ルコト

第二十一條 同一ノ屋内ニ施設スル二箇以上ノ
 低壓屋内配線ガ之ニ供給スル事業者ヲ異ニスル
 トキハ各回路ニ屬スル電線相互間ノ距離ヲ左ノ
 區別ニ依リ離隔スルコトヲ要ス

- 一 各回路ノ電線ガ隱
 蔽工事ニ依ル場合 一・二米以上
- 二 各回路ノ電線 隔壁アルトキ 十五種以上
 ガ露出工事ニ 隔壁ナキトキ 三十種以上
 依ル場合

固ニ取付ケタル絶緣性ノ隔壁ヲ設ケ又ハ電線ヲ
 充分ナル長サノ碍管内ニ藏ムルコトヲ要ス

第二十三條 電球線又ハ移動シテ使用スル低壓
 電線移動シテ使用スル家庭用電氣器具ニ附ニハ其ノ施設
 場所又ハ使用方法ニ從ヒ左ニ掲グル電線又ハ之
 ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコト
 ヲ要ス

- 一 乾燥シタル場所ニ施設スル場合
- (イ) 電球線ニハ第二種可撓紐線ヲ使用スルコ
 ト但シ長サ床面ニ達セザル電球線ニシテ移
 動セザルモノニ在リテハ第一種可撓紐線、
 長サ床上二米以下ニ達セザルモノ又ハ電球
 ヲ移動セザル場合ノモノニ在リテハ一耗以
 上ノ第四種絕緣軟銅線ヲ使用スルコトヲ
 得
- (ロ) 移動シテ使用スル電線ニハ第二種可撓紐
 線ヲ使用スルコト但シ輕小ナル家庭用電氣
 器具ニ取付ケル場合ニ限リ第四種可撓紐線
 ヲ使用スルコトヲ得
- 二 濕氣アル場所(細第八十三條)ニ施設スル場

合

(イ) 電球線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ長サ床面ニ達セザル電球線ニシテ移動セザルモノニ在リテハ第三種甲可撓紐線、長サ床上二米以下ニ達セザルモノ又ハ電球ヲ移動セザル場合ノモノニ在リテハ一耗以上ノ第四種絶緣軟銅撓線ヲ使用スルコトヲ得

(ロ) 移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト

第二百二十四條 電球線及移動シテ使用スル低壓電線ノ接續ハ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第八十一條)

第二百二十五條 濕氣アル場所(細第八十三條)魚屋、八百屋等ノ水ヲ取扱フ土間又ハ洗場ノ如キ場所ヲ除クニ施設スル低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 碍子引工事ニ依ルトキハ第四種絶緣電線ヲ使用シ電線相互間六種以上、電線ト造管材トノ間三種以上ヲ離隔スルコト
- 二 開閉器、自動遮斷器、電球承口、紐線接續器

施設スルコトヲ要ス

第二百二十八條 爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生、製造又ハ貯藏スル場所(細第八十七條)ニ施設スル低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設(細第八十八條)スルコトヲ要ス

- 一 配線ハ金屬線樋工事、金屬管工事又ハ鍍裝電纜ヲ用フル電纜工事ニ依リ施設スルコト
 - 二 移動シテ使用スル電線ハ之ヲ可撓金屬管ニ藏メ又ハ之ニ強靱ナル外裝ヲ施ス場合ヲ除クノ外之ト同等以上ノ效力ヲ有スル特殊ノ電線ヲ使用スルコト
 - 三 自動遮斷器、開閉器、點滅器、紐線接續器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度過昇ノ虞アル器具ハ之ヲ場内ニ施設セザルコト但シ堅牢ナル氣密函又ハ油中ニ藏ムル如キ方法ニ依リ保安置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
 - 四 電球承口ニハ無鍵承口ヲ使用スルコト
- 第二百二十九條 火藥ヲ製造スル建物内ニ施設スル電氣工作物ハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

其ノ他ノ器具ニハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

第二百二十六條 塵埃アル場所(細第八十四條)ニ施設スル低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設(細第八十五條)スルコトヲ要ス

- 一 配線ハ碍子引工事、金屬管工事又ハ電纜工事ニ依ルコト
- 二 碍子引工事ニ依ルトキハ第三種絶緣電線ヲ使用シ電線相互間六種以上、電線ト造管材トノ間三種以上ヲ離隔スルコト
- 三 開閉器、自動遮斷器、紐線吊其ノ他ノ器具ニハ適當ナル防塵裝置ヲ施スコト
- 四 電球承口ニハ無鍵承口ヲ使用スルコト

第二百二十七條 腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所(細第八十六條)ニ施設スル低壓電氣工作物ハ瓦斯若ハ溶液ノ爲侵サレザル様適當ノ塗料ヲ施シ又ハ他ノ適當ナル豫防方法ヲ施スコトヲ要ス絶緣物ヲ害スル瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於テ低壓電線ヲ使用スルトキハ展開シタル場所ニ於テ操業者ノ外人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様

第二百三十條 興行場劇場、映畫館其ノ他之ニ類スル常設興行場ヲ謂フ以下之ニ同ジニ施設スル低壓電氣工作物ハ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第八十九條)

第二百三十一條 屋内ニ使用スル家庭用電氣器具ハ適當ノ構造ノモノトシ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第九十條)

- 一 第一種「エツクス」線發生裝置 「エツクス」線管、「エツクス」線管用變壓器、陰極加ハ左ノ四種トシ熱用變壓器其ノ他附屬裝置及配線ヲ謂フハ左ノ四種トシ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設(細第九十條ノ二)スルコトヲ要ス
- 一 第一種「エツクス」線發生裝置 露出セル充電部分ヲ有セズ且「エツクス」線管ニ絶緣性被覆ヲ施シ之ヲ金屬體ヲ以テ包ミタルモノ
- 二 第二種「エツクス」線發生裝置 取扱者ノ外出入シ得ザル様設備シタル場所ニ施設スル部分ヲ除クノ外露出セル充電部分ヲ有セズ且「エツクス」線管ニ絶緣性被覆ヲ施シ之ヲ金屬體ヲ以テ包ミタルモノ
- 三 第三種「エツクス」線發生裝置 取扱者ノ外出入シ得ザル様設備シタル場所及床上ノ高

サ二・二米ヲ超ユル場所ニ施設スル部分ヲ除クノ外露セル充電部分ヲ有セズ且「エツクス」線管ニ絶縁性被覆ヲ施シ之ヲ金屬體ヲ以テ包ミタルモノ

四 第四種「エツクス」線發生裝置 前各號以外ノモノ第二種、第三種及第四種「エツクス」線發生裝置ハ操作上必要ナル部分ヲ除クノ外移動シテ使用スルコトヲ得ズ

第三百三十二條 屋内ニ施設スル低壓電線ノ絶縁抵抗ハ第三百三十三條ノ分岐回路ニ付左ノ各號ニ適合セシムルコトヲ要ス

- 一 白熱電燈ノミニ供給スル場合
電線相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ電球及附屬物ヲ含ミ電球承口一箇ニ付二メガオーム以上ナルコト
- 二 白熱電燈ト家庭用電氣器具トニ併セ供給スル場合

(イ) 電線相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ電氣器具ヲ除キタルトキ電球及附屬物ヲ含ミ電球及電氣器具承口一箇ニ付二メガオーム以上ナルコト

(ロ) 電線ニ電氣器具瞬時温水器ノ如ク大地ヨリ絶縁セズシテ使用スルモノヲ除クヲモ接續シタルトキ其ノ絶縁抵抗ハ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ電球及電氣器具承口一箇ニ付一メガオーム以上ナルコト

三 家庭用電氣器具其ノ他ノ屋内電氣機械器具ノミニ供給スル場合

(イ) 絶縁抵抗ハ電線相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ機械器具ヲ除キタルトキ最大供給電流ノ二萬分ノ一ヲ超過セシメザルコト

(ロ) 電線ニ家庭用電氣器具瞬時温水器ノ如ク大地ヨリ絶縁セズシテ使用スルモノヲ除ク其ノ他ノ屋内電氣機械器具ヲ接續シタルトキ其ノ絶縁抵抗ハ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ一萬分ノ一ヲ超過セシメザルコト

興行場ノ舞臺、奈落、音樂室及映寫室ニ施設シタル低壓電線ノ絶縁抵抗ハ前項各號ノ數値ノ二倍

以上ナルコトヲ要ス

前二項ノ絶縁抵抗ハ興行場ニ於テハ毎年二回以上、其ノ他ノ場所ニ於テハ毎年一回以上試験シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス但シ興行場、病院又ハ濕氣若ハ塵埃ノ充チ易キ箇所ヲ除クノ外線間ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

第三節 隧道、坑道其ノ他之ニ類スル場所ノ工事

第三百三十三條 鐵道又ハ軌道ノ專用隧道内ノ電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 低壓電線ニハ一・六耗ノ第二種絶縁軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及効力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上二米以上ノ高さニ保持スルコト
- 二 高壓電線ハ左記(イ)又ハ(ロ)ニ依ルコト

- (イ) 鎧裝電纜ヲ使用スルコト但シ他動的損傷ヲ防止スル裝置ヲ施ストキハ鉛被電纜ヲ使用スルコトヲ得
- (ロ) 四耗ノ第三種絶縁硬銅線若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及効力ヲ

有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上三米以上ノ高さニ保持スルコト

特殊ノ事由アル場合ハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第三百三十四條 人ノ常ニ通行スル隧道内ノ低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 金屬管工事又ハ電纜工事ニ依リ施設スル場合ヲ除クノ外電線ニハ一・六耗ノ第二種絶縁軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及効力ヲ有スルモノヲ使用シ碍子引工事ニ依リ路面上二・五米以上ノ高さニ施設スルコト
- 二 電線ニハ隧道引込口ニ於テ開閉器ヲ裝置スルコト

第三百三十五條 鑛山其ノ他ノ坑道内ノ電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 低壓電線ニハ電纜ヲ使用スル場合ヲ除クノ外一・六耗ノ第四種絶縁軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ碍子ヲ以テ之ヲ支持シ且岩石又ハ木材ト接觸セザル様施設スルコト但シ電車ノ專用坑道内ニ施設シ軌條面上ノ高さヲ一・五米以上ニ保持ス

ル饋電線ニハ第二種絕緣電線、大地ニ對スル電壓五十五ボルト以下ノ電線ニハ第三種絕緣電線ヲ使用スルコトヲ得

- 二 低壓電線ヲ他動的損傷ヲ受クル虞アル場所ニ施設スルトキハ鎧裝電纜ヲ使用スル場合ヲ除クノ外之ニ適當ナル防護裝置ヲ施スコト
- 三 高壓電線ニハ鎧裝電纜ヲ使用スルコト
- 四 坑道ノ引込口ニ近キ場所ニ於テ開閉器ヲ設置スルコト

特殊ノ事由アル場合ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
特別高壓電線ヲ施設セントスル場合ハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第三百三十六條

石炭坑ニ於テ爆發ヲ生ズル程度ニ瓦斯又ハ炭塵ノ發生スル虞アル場所ノ電氣工作物ハ第三百二十八條ノ規定ニ準ジ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス

第三百三十七條

金屬管工事ニ用フル金屬管及電纜ノ被覆ニ用フル金屬體ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

第三百三十八條

電球線又ハ移動シテ使用スル低壓

電線ニハ左ニ掲グルモノヲ使用スルコトヲ要ス
一 電球線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ長サ路面ニ達セザル電球線ニシテ移動セザルモノニ在リテハ第三種甲可撓紐線、長サ路面上ニ二米以下ニ達セザルモノニ在リテハ一耗以上ノ第四種絕緣軟銅撓線ヲ使用スルコトヲ得

- 二 移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ著シク外傷ヲ受クル虞アル場合ハ之ヲ可撓金屬管ニ藏メ又ハ之ニ強靱ナル外裝ヲ施ス場合ヲ除クノ外之ト同等以上ノ效力ヲ有スル特殊ノ電線ヲ使用スルコト

第三百三十九條

電線ト弱電流電線、水管其ノ他ノ金屬體トガ接近シ又ハ並行スル場合ハ左ノ距離ヲ保持シテ施設スルコトヲ要ス

- 一 低壓電線ニ在リテハ十五種以上但シ電線ヲ充分ナル長サノ碍管内ニ藏ムル場合、電線ヲ厚サ一耗以上ノ金屬管ヲ用フル金屬管工事ニ依リ施設スル場合又ハ鎧裝電纜ヲ用フル電纜工事ニ依リ施設スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 高壓電線ニ在リテハ鎧裝電纜ヲ用フル場合

第三百四十條

電線路ハ左ノ絕緣抵抗又ハ絕緣耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

- 一 低壓電線路ノ絕緣部分ト大地トノ間ノ絕緣抵抗ハ回線ノ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セシメザル様保持スルコト
- 二 高壓電線路ト大地トノ間ノ絕緣耐力ハ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト但シ多心電纜ノ場合ニ在リテハ其ノ心線相互間ノ絕緣耐力ヲモ試驗スルモノトス

第四節 臨時工事

第四百一十一條

第四百一十二條乃至第四百一十四條ノ規定ニ依リ施設シタル電氣工作物ハ施設後一月ヲ限り使用スルコトヲ得但シ第四百一十三條ノ規定ニ依ル工事ニシテ第二種絕緣電線ヲ使用スベキ場合ニ第三種絕緣電線、第三種絕緣電線ヲ使用スベキ場合ニ第四種絕緣電線ヲ使用スルトキハ施設後四月ヲ限り使用スルコトヲ得

第四百一十二條

屋内ノ乾燥シタル展開場所ニ臨時施設スル使用電壓二百五十ボルト以下ノ電線ハ電線相互間及電線ト造管材トノ間ヲ離隔セズシテ之ヲ施設スルコトヲ得

- 前項ノ場合ニ於テハ電線ニハ第三種絕緣電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スル電線ヲ使用シ特ニ電線ヲ損傷スル虞ナク且電球ト造花、飾幕其ノ他燃焼シ易キ物ニ接觸セザル様施設スルコトヲ要ス

第四百一十三條

使用電壓百五十ボルト以下ノ電線ヲ軒下其ノ他家屋ノ外面ニ沿ヒ臨時施設スル場合ニ於テハ左記各號ニ依ルコトヲ要ス

- 一 電線ニハ一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シ碍子引上ノ強サニ依リ施設スル場合ハ電線相互間及電線ト造管材トノ間ヲ左ノ區別ニ依リ離隔スルコト

電線ノ種類

電線相互ノ距離
電線ト造管材トノ距離

(イ) 第二種絶縁電線

六種以上

三種以上

(ロ) 第三種絶縁電線

三種以上

六種以上

第四種絶縁電線ヲ雨露ニ曝露セズ且外物ノ爲損傷スル虞ナキ様適當ニ施設スル場合ハ電線相互間及電線ト造管材トノ間ヲ離隔セズシテ施設スルコトヲ得

二 工地上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外電線ヲ造管材ノ側面又ハ下面ニ取付ケ且支持點間ノ距離ヲ一米以下ト爲スコト但シ二耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シ且電線ト造管材トガ接觸ノ虞ナキ様充分離隔スル場合ニ限り電線支持點間ノ距離ヲ一米以上ト爲スコトヲ得

三 開閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ屋内ニ裝置シ又ハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

四 家屋ノ外面ニ於ケル電氣使用ヲ目的トシテ施設スル電路ハ工地上已ムヲ得ザルモノヲ除

クノ外一キロワット以下毎ニ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路毎ニ各極ニ開閉器及自動遮斷器ヲ裝置スルコト
五 前號ノ開閉器及自動遮斷器ハ専用ノモノトシ屋内電路用ノモノト兼用セザルコト
六 電球承口其ノ他ノ承口ニハ陶器又ハ絶縁性耐火質物ヲ以テ製作シタル防水型ノモノヲ使用スルコト

第四百四十四條 樹木、裝飾塔、線門其ノ他之ニ類スルモノニ使用電壓百五十ヴォルト以下ノ電線ヲ臨時施設スル場合ニ於テハ第四種絶縁電線ヲ使用シ電線相互間及電線ト之ヲ取付ケタルモノトノ間ヲ離隔セズシテ施設スルコトヲ得但シ樹木ノ如キ動搖ノ爲電線ヲ損傷スル虞アルモノニ取付ケル場合ニ於テハ其ノ損傷ヲ防止スル爲適當ノ施設ヲ爲スコトヲ要ス

第四百四十五條 臨時工事ヲ施設シタルトキハ其ノ使用開始前ニ電線ノ絶縁抵抗ヲ測定シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス

前項ノ記録書類ノ保存期間ハ第七條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ一年間トス

第四章 電氣鐵道

第一節 通則

第四百四十六條 電車線ニ使用スル電壓ハ直流低壓トス但シ専用敷地内ニ施設スル電氣鐵道ノ電車線ニ限り直流高壓ヲ使用スルコトヲ得
特殊ノ設計ニ依ル場合ハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第四百四十七條 直流單線式電氣鐵道用架空電線路ガ架空電線電線路ヲ除クト並行スル場合ニ於テハ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ボサザル様電線相互間ノ距離ヲ四米以上離隔スルコトヲ要ス但シ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ距離ヲ六十浬迄ニ短縮スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶既設架空弱電流電線路ヲ除クニ對シ障害ヲ及ボス虞アルトキハ更ニ之ヲ除却スベキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第九十一條)

第四百四十八條 電氣鐵道用直流電線路及歸線ハ磁力觀測所ニ對シ觀測上ノ障害ヲ及ボサザル様離

隔シ又ハ其ノ他ノ適當ナル防止方法ヲ施スコトヲ要ス

第二節 電車線路及第三軌條

第四百四十九條 道路ニ施設スル電車線ハ市街地ニ在リテハ一料以下毎、市街地外ニ在リテハ適當ノ長サニ之ヲ區劃シ且各區劃部分ニ對スル送電ヲ獨立ニ遮斷シ得ル施設ヲ爲スコトヲ要ス但シ市街地ニ在リテハ土地ノ狀況ニ依リ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
第五百十條 電車線ニハ高壓ニ在リテハ十耗、低壓ニ在リテハ八耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ場合ハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第五百十一條 電車線路ノ支持物ニハ事業者名又ハ略稱、支持物番號及建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス但シ電氣鐵道ノ専用敷地内ニ建設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第五百十二條 道路ニ施設スル電車線支持物ノ徑間ハ四十米以下トス但シ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ此ノ制限ヲ六十米迄ニ延

長スルコトヲ得

特殊ノ事由アル場合ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第二百五十三條 高壓電車線ハ「カテナリー」式ニ依リテ架設シ其ノ垂吊子ノ間隔ヲ四・五米以下ニ保持スルコトヲ要ス但シ隧道内、橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二百五十四條 電車線ノ軌條面上ノ高サハ五米以上トス但シ隧道内、橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スルモノハ工事上已ムヲ得ザル場合ニ限リ三・五米迄ニ短縮スルコトヲ得
鑛山ノ坑道内ニ施設スル電車線ノ軌條面上ノ高サハ工事上已ムヲ得ザル場合ニ限リ前項ノ規定ニ依ラズ二・五米迄ニ短縮スルコトヲ得
土地ノ狀況其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケテ前二項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第二百五十五條 電車線及之ニ接続スル吊架用線ト架空電線トが交叉シ又ハ接近スル部分ニ於テハ相互ノ電氣的接觸ヨリ生ズル危険ヲ防止

スル爲電氣鐵道事業者ニ於テ適當ノ施設（細第九十三條）ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五十六條 饋電線ヨリ分岐シテ電車線ニ達スル電線ハ之ヲ吊架スル金屬線ヨリ碍子ヲ以テ絶縁シ且金屬線ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

電車線ノ張線ハ電車線間及電車線ヨリ六十浬以内ニ在ル部分ヲ除クノ外第三種地線工事ニ依リ之ヲ接地スルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アル場合（細第九十四條）ハ此ノ限ニ在ラズ
市街地ニ於ケル電氣鐵道ノ專用敷地内又ハ市街地外ニ於テ電車線路ニ接近シテ弱電流電線ノ架設シアラザル場所ニ在リテハ其ノ架設セラルル迄前二項ノ施設ヲ省略スルコトヲ得

第二百五十七條 第三軌條ハ地下鐵道、高架鐵道其ノ他人ノ容易ニ立入ラザル専用敷地内ノ鐵道ニ限リ之ヲ施設スルコトヲ得
特殊ノ設計ニ依ル場合ハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第二百五十八條 第三軌條ハ人ノ容易ニ接觸セザル様之ヲ防護スルコトヲ要ス

第二百五十九條

饋電線ト第三軌條トノ接続線及第三軌條相互ヲ接続スル電線「ボンド」ニハ鉛裝電纜又ハ鉛被電纜ヲ使用スルコトヲ要ス

第六十條 電車線路又ハ第三軌條ノ絶緣部分ノ絶緣抵抗ハ其ノ最大使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ軌道ノ延長一杆ニ付電車線ニ在リテハ十ミリアマペア、第三軌條ニ在リテハ百ミリアマペアヲ超過セザル様保持スルコトヲ要ス

前項ノ絶緣抵抗ハ架空複線式電車線ニ在リテハ兩電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ之ヲ測定スルモノトス

第一項ノ漏洩電流ガ軌道ノ延長一杆ニ付電車線ニ在リテハ二百五十ミリアマペア、第三軌條ニ在リテハ一アマペアヲ超過シ二十四時間ヲ過グルモノ之ヲ除去スルコト能ハザルトキハ送電ヲ繼續スルコトヲ得ズ

第三節 歸線

第六十一條 歸線 架空單線式若ハ第三軌條式電氣鐵道ノ軌條又ハ其ノ軌條ニ接続スル電線ヲ謂

以下之ハ軌條間及軌條ノ外側三十浬以内ニ敷設スル部分ヲ除クノ外總テ之ヲ大地ヨリ絶緣スルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第六十二條 架空絶緣歸線ハ架空饋電線路ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

第六十三條 歸線タル軌條ハ熔接（目板ノ熔接）ニ依ル場合ヲ除クノ外適當ナル「ボンド」ヲ以テ電氣的接觸ヲ爲スコトヲ要ス
特殊ノ事由アル場合ハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケテ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第六十四條 直立式電氣鐵道ノ歸線ノ不絶緣部分ト金屬製地中管路トが接近シ又ハ交叉スル場合ニ於テハ相互間ノ距離ヲ二米以上ト爲スコトヲ要ス但シ工事上已ムヲ得ズ特殊ノ施設（細第九十五條）ニ依ル場合又ハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

歸線及金屬製管路ヲ同一鐵橋ニ敷設スル場合ハ歸線ト橋材トノ間ノ漏洩抵抗ヲ充分大ナラシムル様適當ニ施設スルコトヲ要ス

第六十五條 直立式電氣鐵道ノ歸線ノ不絶緣部

分ト金屬製地中管路トガ一杆以內ニ接近スルト
キハ第六十六條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外
障害ヲ防止スル爲當該區間ノ歸線ハ左ノ各號ニ
依リ施設スルコトヲ要ス

一 歸線ハ隔日ニ其ノ極性ヲ轉換シ又ハ常ニ負
極性ト爲スコト

二 軌條ノ繼目ノ抵抗ノ和ハ當該區間ノ軌條ノ
ミノ抵抗ノ二割ヲ超過セシメズ且一ノ繼目ノ
抵抗ハ當該軌條ノ長サ五米ノ抵抗ニ相當スル
値ヲ超過セシメザルコト

三 「ボンド」ヲ以テ電氣的接續ヲ爲ス軌條ニ在
リテハ八耗ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力
ヲ有スル補助線ヲ敷設シ軌條ノ繼目二個以下
毎ニ八耗ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ
有スル接續線ヲ以テ之ヲ軌條ト接續スルコト
但シ軌條ノ接續ガ大部分熔接ニ依リ其ノ他ノ
部分ニ獨立シタル「ボンド」二箇以上ヲ使用ス
ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

四 歸線ノ不絶緣部分ニ其ノ一年間ノ平均電流
通スルトキ生ズル電位ノ差ハ當該區間内ノ執
レノ二點間ニ於テモ二ゾオルトヲ超過セシメ
ザルコト(細第九十六條)

五 歸線ノ不絶緣部分ニ生ズル最大電位差ヲ自

トヲ要ス

一 軌條ノ接續ハ熔接繼目板ノ熔接ヲ含ム又ハ特殊ノ方法
(細第九十七條)ニ依リ之ヲ爲スコト但シ軌條
ノ繼目五箇以下毎ニ一回ノ割合ヲ以テ兩軌條
ヲ八耗ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有
スルモノヲ以テ接續スルトキハ此ノ限ニ在ラ
ズ

二 歸線ノ不絶緣部分ニ其ノ一年間ノ平均電流
通ズルトキ生ズル電位ノ差ハ軌道ノ互長一杆
ニ付二・五ゾオルトヲ超過セシメズ且當該區
間内ノ執レノ二點間ニ於テモ十五ゾオルトヲ
超過セシメザルコト(細第九十六條)

前項ニ於テ當該區間トハ一變電所ノ饋電區域内
ニ於テ當該地中管路ヨリ二杆以內ノ距離ニ在ル
一ノ連續シタル歸線ノ部分ヲ謂フ

第一項ノ場合ニ於テハ前條第三項及第四項ノ規
定ヲ準用ス
第一項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶障害ヲ及ボス
虞アルトキハ更ニ適當ナル防止方法ヲ施スコト
ヲ要ス

第六十七條 歸線ハ其ノ不絶緣部分及之ト大地

三篇一類三款 電氣工作物規程

動的ニ記錄スル裝置ヲ施スコト

前項ノ當該區間トハ一變電所ノ饋電區域内ニ於
テ當該地中管路ヨリ一杆以內ニ在ル一ノ連續シ
タル歸線ノ部分ヲ謂フ但シ歸線ト地中管路トガ
百米以內ニ於テ二回以上接近スルトキハ其ノ接
近部分ノ中間ニ於テ離隔距離ガ一杆ヲ超過スル
コトアルモ其ノ全部ヲ一區間トス
地中管路ノ種類ニ依リ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケ
タルトキ又ハ地中管路管理者ノ承諾ヲ得タルト
キハ第一項ノ施設ヲ省略スルコトヲ得

第一項第二號ノ抵抗ハ毎年一回以上之ヲ測定シ
其ノ成績ヲ記錄スルコトヲ要ス
第一項各號ノ施設ハ金屬製地中管路ガ電氣鐵道
敷設後ニ接近スル場合ト雖モ電氣鐵道事業者ニ
於テ之ヲ爲スベシ

第六十六條 專用敷地内ニ歸線ノ不絶緣部分ト
土壤トノ間ヲ砂利厚サ三十枕木等ヲ以テ充分ニ離
隔シテ敷設スル直流式電氣鐵道ノ軌道ト金屬製
地中管路トガ一杆以內ニ接近スルトキハ障害ヲ
防止スル爲當該區間ノ歸線ハ前條第一項第一
號、第二號、第五號及左ノ各號ニ依リ施設スルコ

トノ間ニ生ズル最大電位ノ差ニ依リ踏切其ノ他
公衆ノ通行スル場所ニ於テ人畜ニ危險ヲ及ボス
虞アルトキハ之ヲ防止スル爲適當ナル施設(細
第九十八條)ヲ爲スコトヲ要ス

第六十八條 地中管路管理者ノ承諾アリタルト
キハ電氣廳長官ノ認可ヲ受ケテ歸線ト地中管路
トノ電氣的接續ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ電氣的接續ヲ爲シタルトキハ
三月毎ニ一回以上其ノ接續點ヲ試驗シ其ノ成績
ヲ記錄スルコトヲ要ス

第四節 電車

第六十九條 電車内ノ電路ト大地トノ間ニ於ケ
ル絶緣抵抗ハ漏洩電流ヲシテ低壓ノ場合ハ規定
電流ノ五千分ノ一、高壓ノ場合ハ規定電流ノ一
萬分ノ一ヲ超過セシメザル様保持スルコトヲ要
ス

前項ノ絶緣抵抗ハ毎月一回以上最大使用電壓ヲ
以テ試験シ其ノ成績ヲ記錄スルコトヲ要ス
第七十條 車輛内ニ於テ電流ノ通ズル部分ハ操
業者ノ外人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様施設スルコ
トヲ要ス

第二編 細則

第一章 總則

第一節 機械及器具

第一條 低壓又ハ高壓用ノ器具ヲ取付クル盤ハ不可燃質物又ハ耐水性不易燃質ノ塗料ヲ施シタル堅緻ナル木材ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス但シ低壓三十アムペア以下ノ需用者屋內配電盤ハ此ノ限ニ在ラズ

特別高壓用ノ器具ヲ取付クル盤ハ絶縁性不可燃質物ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス

第二條 配電盤ニ取付クル器具及接續電線管内ニ藏線及鎖裝電線ヲ除クハ容易ニ點檢シ得ル様施設スルコトヲ要ス但シ低壓三十アムペア以下ノ需用者屋內配電盤ニシテ造管材ト三種以上ヲ離隔シテ施設シ且其ノ裏面ノ接續電線ニ第四種絶縁電線ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

盤ノ裏面ニ高壓若ハ特別高壓用器具又ハ接續電線ヲ施設スルトキハ取扱者ニ危険ヲ及ボサザル様盤ノ裏面ト對壁トノ間ニ充分ナル通路ヲ設クルコトヲ要ス
特別高壓用ノ器具及接續電線ヲ取付クル盤ノ前

方ニ取扱者ノ爲適當ナル絶縁臺ヲ設置スルコトヲ要ス

第三條 開閉器、自動遮斷器、抵抗器其ノ他充電スル導體ニ接スル器具ハ不易燃質物ヲ以テ絶縁シタルモノナルコトヲ要ス

第四條 開閉器、自動遮斷器、抵抗器其ノ他之ニ類スル器具ニハ其ノ使用電流及電壓ヲ表示スルコトヲ要ス但シ細則第十一條第一號ノ可熔片ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 本則第九條第一項ノ特殊ノモノトハ「ネオン」管燈用變壓器、「エツクス」線管用變壓器ノ如キモノヲ謂フ

第六條 本則第十一條第一項ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
一 特別高壓側ニ開閉器及自動遮斷器ヲ設置スルコト

二 變壓器ノ二次電壓ガ高壓ノ場合ハ變壓器ヲ設置シタル場所ニ隣接シテ監視人ヲ常置スル詰所ヲ設置シ高壓側ノ檢漏器ヲ其ノ内ニ取付クルコト
三 變壓器ノ二次電壓ガ高壓ノ場合ハ高壓側ニ

地上ヨリ容易ニ開閉シ得ル油入開閉器ヲ設備スルコト

第七條 本則第十二條第三項ノ適當ニ施設シタル場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 需用者ノ構内ニ設置スル架空線用變壓器ニシテ人ノ接觸ヲ防止スルニ充分ナル藩籬ヲ設クル場合

二 地中線用變壓器ヲ變壓器塔上ニ施設スル場合ニシテ變壓器及其ノ高壓側ノ充電部分ヲ地表上三米以上ノ高サニ保持シ且變壓器ノ外函竝ニ電纜及附屬物ヲ藏メタル金屬體ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スル場合

第八條 本則第十三條ノ特殊ノ場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 電氣爐又ハ之ニ類スルモノニ供給スル爲使
用スル場合
二 發電所、變電所、開閉所等ニ於テ所内用トシテ使用スル場合

本則第十三條但書ノ適當ニ施設ストハ使用電壓一萬ヴォルト以上ノ變壓器ニ在リテハ變壓器内
部ノ故障ニ因リ自動的ニ變壓器ヲ電路ヨリ遮斷

シ得ル保安裝置ヲ設備スル如キヲ謂フ

第九條 本則第十四條第一項但書ノ適當ノ施設ヲ爲シタル場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 鐵臺又ハ外函ノ周圍ニ作業者ノ絶縁臺ヲ設置シタル場合
二 高壓用柱上變壓器ヲ人ノ觸ルル處ナキ様施設シタル場合
三 低壓用ノ機械器具ヲ乾燥シタル木製ノ床其ノ他之ニ類スル絶縁性ノ物ノ上ヨリ取扱フ様施設シタル場合

第十條 本則第十七條第一項ノ非包裝可熔片ハ左ノ試驗使用場所ニ取付テ試驗ニ適合スルモノトス
一 低壓ニ使用スル定格電流二百アムペア以下ノ非包裝可熔片ハ之ヲ水平ニ取付ケテ板狀可熔片ハ板面ヲ水平ト試験シ五分間以上定格電流ノ一・四五倍ノ電流ニ耐ヘ一分間以内ニテ二倍ノ電流ニ依リ熔斷スルコト

二 高壓ニ使用スル非包裝可熔片ハ二分間以内ニ定格電流ノ二倍ノ電流ニ依リ熔斷スルコト

第十一條 本則第十七條第二項ノ特殊ノモノトハ左ノ如キモノヲ謂フ

- 一 紐線吊内ニ裝置スル定格電流五アムペア以下ノ非包裝可熔片
- 二 硬キ金屬製ニシテ其ノ兩端ヲ端片ニ代用シ得ル板狀可熔片
- 三 硬キ金屬製ニシテ左記ノ長サ以上ノ非包裝可熔片

定格電流	長サ(端子間)
十アムペア未滿	十糎
二十アムペア未滿	十二糎
三十アムペア未滿	十五糎

第二節 電線、電路及附屬設備

第十二條 第一種絕緣電線ハ電線ヲ良質且強靱ナル撚綿絲其ノ他之ト同等以上ノ物質ヲ以テ一回緊密ニ編組シ且絶緣性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノニシテ其ノ被覆物ノ厚サ〇・七五糎以上ノモノトス

第十三條 第二種絕緣電線ハ電線ヲ良質且強靱ナル撚綿絲其ノ他之ト同等以上ノ物質ヲ以テ二回緊密ニ編組シ且絶緣性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノニシテ其ノ被覆物ノ厚サ一・五糎以上ノモノトス

混合物ノ上ヲ左表ノ厚サ以上ノ「ゴム」引綿「テーパー」ヲ以テ重複纏捲シタル後完全ニ硫化ヲ施シ其ノ上ニ編組ヲ施スモノトス

第三種絶緣電線ハ一卷ノ儘十二時間浸水シ直流百ゾオルト以上ノ電壓ヲ以テ一分間充電ノ後試験シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ左表ニ示ス値以上ノ絶緣抵抗ヲ有スルモノトス

第三種絶緣電線ハ一卷ノ儘十二時間浸水シタル後左表ニ示ス交流電壓ヲ以テ絶緣耐力ヲ試験シ一分間以上之ニ耐フルモノトス

第一項ノ「ゴム」混合物ハ左ノ各號ニ依ル化學的及物理的性質ヲ有スルモノトス

一 「アセトン」ニテ浸出シタルトキ其ノ浸出量十パーセント以下ニシテ遊離硫黄一パーセント以下ナルコト

二 供試験ヨリ「ゴム」混合物ヲ約百耗抽出シ其ノ中央ニ五十耗ノ長サヲ印シ之ヲ二倍ノ長サニ伸長シ其ノ儘一分間支持シタル後放置シ十分間經過後ニ於テ永久伸長率二十五パーセント以下ナルコト

第十六條 第四種絶緣電線ニ使用スルモノハ電線

第十四條 第一種及第二種絶緣電線ハ左ノ各號ノ試験ニ適合スルモノトス

- 一 供試験ヲ白色艶紙上ニ載セ攝氏六十度ノ空氣中ニ三十分間放置スルモ紙面上ニ油狀ノ斑點ヲ印セザルコト
- 二 供試験ヲ攝氏零下十五度ノ生寒劑中ニ三十分間浸漬スルモ混和物ハ其ノ表面ニ罅裂ヲ生ゼザルコト
- 三 五糎以下ノ單線ニ在リテハ攝氏十度乃至三十度ノ溫度ニ於テ之ヲ其ノ仕上リ外徑ノ三倍ノ直徑ヲ有スル圓嚙上ニ緊密ニ十回以上纏捲スルモ其ノ編組被覆物ニ異狀ナク混和物ハ粉末狀ヲ呈セズ且離脱セザルコト

第十五條 第三種絶緣電線ハ電線ヲ純「ゴム」二十パーセント以上ヲ含有スル品質均一ナル「ゴム」混合物ヲ以テ左表ノ厚サ以上ニ被覆シ更ニ〇・五糎以上ノ厚サニ撚綿絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シタル後完全ニ硫化ヲ施シ且絶緣性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス但シ導體ガ撚線又ハ三・二糎以上ノ單線ナル場合ニ於テハ「ゴム」

ヲ純「ゴム」三十パーセント以上ヲ含有スル品質均一ナル白黒二層ノ「ゴム」混合物ヲ以テ左表ノ厚サ以上ニ被覆シ更ニ左表ノ厚サ以上ノ「ゴム」引綿「テーパー」ヲ重複纏捲シタル後完全ニ硫化ヲ施シ更ニ〇・五糎以上ノ厚サニ撚綿絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シ且絶緣性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス

第四種絶緣電線ハ一卷ノ儘十二時間浸水シ直流百ゾオルト以上ノ電壓ヲ以テ一分間充電ノ後試験シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ左表ニ示ス値以上ノ絶緣抵抗ヲ有スルモノトス

第四種絶緣電線ハ一卷ノ儘十二時間浸水シタル後左表ニ示ス交流電壓ヲ以テ絶緣耐力ヲ試験シ一分間以上之ニ耐フルモノトス

第一項ノ「ゴム」混合物ハ左ノ各號ニ依ル化學的及物理的性質ヲ有スルモノトス

一 「アセトン」ニテ浸出シタルトキ其ノ浸出量六パーセント以下ニシテ遊離硫黄一パーセント以下ナルコト

二 供試験ヨリ「ゴム」混合物ヲ約百耗抽出シ其

第三種絶縁電線(撚線ノ部)

導體 公稱切 斷面積 (平方耗)	體 構造 (耗)	「ゴム」 混合物 ノ厚サ * (耗)	「テープ」 ノ厚サ (耗)	絶縁抵抗 15°C メガオーム/耗	試験電壓 (ヴォルト)
1000	127/3.2	4.0	0.5	160	3500
850	127/2.9	3.8	〃	〃	〃
725	91/3.2	3.6	〃	〃	〃
600	91/2.9	3.5	〃	〃	〃
500	61/3.2	3.3	〃	〃	〃
400	61/2.9	3.2	〃	〃	〃
325	61/2.6	3.1	〃	〃	〃
250	61/2.3	2.8	〃	〃	3000
200	37/2.6	2.6	0.35	〃	〃
150	37/2.3	2.4	〃	〃	〃
125	19/2.9	2.2	〃	〃	〃
100	19/2.6	2.1	〃	250	2500
80	19/2.3	1.9	〃	〃	〃
60	19/2.0	1.8	〃	〃	〃
50	19/1.8	1.7	〃	〃	〃
38	7/2.6	1.5	〃	300	2000
30	7/2.3	1.5	0.25	〃	〃
22	7/2.0	1.4	〃	〃	〃
14	7/1.6	1.2	〃	〃	〃
8	7/1.2	1.1	〃	400	1500
5.5	7/1.0	1.1	〃	〃	〃
3.5	7/0.8	1.1	〃	〃	〃
2.0	7/0.6	1.1	〃	〃	〃
1.4	7/0.5	1.0	〃	〃	〃
0.9	7/0.4	1.0	〃	〃	〃

*「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サノ十パーセントトス

第三種絶縁電線(單線ノ部)

導體ノ 直徑 (耗)	「ゴム」 混合物 ノ厚サ * (耗)	「テープ」 ノ厚サ (耗)	絶縁抵抗 15°C メガオーム/耗	試験電壓 (ヴォルト)
12.0	2.0	0.35	250	2500
10.0	1.8	〃	〃	〃
9.0	1.7	〃	〃	〃
8.0	1.6	〃	〃	〃
7.0	1.5	0.25	〃	〃
6.5	1.4	〃	〃	〃
6.0	1.4	〃	300	2000
5.5	1.3	〃	〃	〃
5.0	1.3	〃	〃	〃
4.5	1.2	〃	〃	〃
4.0	1.2	〃	〃	〃
3.5	1.1	〃	400	1500
3.2	〃	〃	〃	〃
2.9	〃	〃	〃	〃
2.6	〃	〃	〃	〃
2.3	〃	〃	〃	〃
2.0	〃	〃	〃	〃
1.8	〃	〃	〃	〃
1.6	〃	〃	〃	〃
1.4	〃	〃	〃	〃
1.2	1.0	〃	〃	〃
1.0	1.0	〃	〃	〃

*「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サノ十パーセントトス

ノ中央ニ五十耗ノ長サヲ印シ之ヲ二倍ノ長サニ伸長シ其ノ儘一分間支持シタル後放置シ十

分間經過後ニ於テ永久伸長率二十パーセント以下ナルコト

第四種絶縁電線(撚線ノ部)

導 體 公稱切 斷面積 (平方耗)	體 構 造 (耗)	「ゴム」「テープ」 混合物 ノ厚サ * (耗)		絶縁抵抗 15°C メガオーム/軒 (ヴォルト)	試験電壓 (ヴォルト)
		ノ厚サ *	ノ厚サ		
1000	127/3.2	4.0	0.5	400	3500
850	127/2.9	3.8	〃	〃	〃
725	91/3.2	3.6	〃	〃	〃
600	91/2.9	3.5	〃	〃	〃
500	61/3.2	3.3	〃	〃	〃
400	61/2.9	3.2	〃	〃	〃
325	61/2.6	3.1	〃	〃	〃
250	61/2.3	2.8	〃	〃	3000
200	37/2.6	2.6	0.35	〃	〃
150	37/2.3	2.4	〃	〃	〃
125	19/2.9	2.2	〃	〃	〃
100	19/2.6	2.1	〃	500	2500
80	19/2.3	1.9	〃	〃	〃
60	19/2.0	1.8	〃	〃	〃
50	19/1.8	1.7	〃	〃	〃
38	7/2.6	1.5	〃	600	2000
30	7/2.3	1.5	0.25	〃	〃
22	7/2.0	1.4	〃	〃	〃
14	7/1.6	1.2	〃	〃	〃
8	7/1.2	1.1	〃	800	1500
5.5	7/1.0	1.1	〃	〃	〃
3.5	7/0.8	1.1	〃	〃	〃
2.0	7/0.6	1.1	〃	〃	〃
1.4	7/0.5	1.0	〃	〃	〃
0.9	7/0.4	1.0	〃	〃	〃

*「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サノ十パーセントトス

第四種絶縁電線(單線ノ部)

導體ノ 直 徑 (耗)	「ゴム」「テープ」 混合物 ノ厚サ * (耗)		絶縁抵抗 15°C メガオーム/軒 (ヴォルト)	試験電壓 (ヴォルト)
	ノ厚サ *	ノ厚サ		
12.0	2.0	0.35	500	2500
10.0	1.8	〃	〃	〃
9.0	1.7	〃	〃	〃
8.0	1.6	〃	〃	〃
7.0	1.5	0.25	〃	〃
6.5	1.4	〃	〃	〃
6.0	1.4	〃	600	2000
5.5	1.3	〃	〃	〃
5.0	1.3	〃	〃	〃
4.5	1.2	〃	〃	〃
4.0	1.2	〃	〃	〃
3.5	1.1	〃	800	1500
3.2	〃	〃	〃	〃
2.9	〃	〃	〃	〃
2.6	〃	〃	〃	〃
2.3	〃	〃	〃	〃
2.0	〃	〃	〃	〃
1.8	〃	〃	〃	〃
1.6	〃	〃	〃	〃
1.4	〃	〃	〃	〃
1.2	1.0	〃	〃	〃
1.0	1.0	〃	〃	〃

*「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サノ十パーセントトス

第十七條 第一種可撓紐線ハ錫鍍シタル〇・一八
 耗ノ軟銅線三十五本以上又ハ〇・二三耗ノ軟銅
 線八十四本以上ヨリ成ル導體ヲ細キ綿絲又ハ紙
 帶ニテ纏捲シ更ニ純「ゴム」三十パーセント以上
 ヲ含有シ且一・五以上ノ比重ヲ有スル品質均一
 ナル「ゴム」混合物ヲ以テ導體ノ太サニ從ヒ左表
 ノ厚サ以上ニ被覆シ更ニ紙帶ヲ重複纏捲シ完全
 ニ硫化ヲ施シ其ノ上ヲ綿絲「カタン」絲、絹絲又
 ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シタル

導 構	體	
	切斷面積 (平方耗)	「ゴム」混 合物ノ最 小厚サ (耗)
133/0.23	5.5	1.00
84/0.23	3.5	1.00
79/0.18	2.0	0.80
55/0.18	1.4	0.80
35/0.18	0.9	0.65

モノトス
 第一種可撓紐線ハ左ノ各號ノ試験ニ適合スルモ
 ノトス
 一 一卷ノ儘浸水セザル状態ニ於テ兩導體間ノ
 絶縁耐力ヲ交流三千ヴォルトノ電壓ヲ以テ試
 験シ一分間以上之ニ耐フルコト
 二 長サ一米ノ供試線ヲ二十四時間浸水シタル
 後交流千ヴォルトノ電壓ヲ以テ試験シ一分間
 以上之ニ耐フルコト

第十八條 第二種可撓紐線ハ前條ニ規定シタル構
 造ヲ有スル線心ニ更ニ「ゴム」引綿「テープ」ヲ纏
 捲シ(此ノ場合ハ「ゴム」被覆上ノ紙帶ヲ省略ス
 ルコトヲ得)又ハ綿絲ヲ以テ下打編組ヲ施シタ
 ルモノニ條ヲ綿絲其ノ他ノ軟性纖維物質ト共ニ
 撻合セ圓嚢形ニ仕上ゲ之ニ綿絲「カタン」絲、絹
 絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ上打編
 組ヲ施シタルモノニシテ前條第二項ノ絶縁耐力
 試験ニ適合スルモノトス

第十九條 第三種甲可撓紐線ハ第一種可撓紐線
 綿絲ノ編組ヲノ編組被覆ニ絶縁性耐水質混和物ヲ
 施シタルモノノ編組被覆ニ絶縁性耐水質混和物ヲ
 充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノ

トス

第二十條 第三種乙可撓紐線ハ第二種可撓紐線
 綿絲ノ編組ヲノ編組被覆ニ絶縁性耐水質混和物ヲ
 施シタルモノノ編組被覆ニ絶縁性耐水質混和物ヲ
 充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノ
 トス

第二十一條 第四種可撓紐線ハ錫鍍シタル〇・一
 六耗ノ軟銅線二十本ヨリ成ル導體ヲ細キ綿絲ニ
 テ纏捲シ更ニ純「ゴム」三十パーセント以上ヲ
 含有シ且一・五以上ノ比重ヲ有スル品質均一ナ
 ル「ゴム」混合物ヲ以テ〇・五耗以上ノ厚サニ被
 覆シ完全ニ硫化ヲ施シタル線心二條ヲ撻合セタ
 ル後純「ゴム」二十五パーセント以上ヲ含有シ
 且一・五以上ノ比重ヲ有スル「ゴム」混合物ヲ以
 テ線心二條ノ間隙ヲ充分ニ填充シ且〇・五耗以
 上ノ厚サニ被覆シテ圓嚢形ニ仕上ゲ完全ニ硫化
 ヲ施シタル後之ニ綿絲「カタン」絲、絹絲又ハ之
 ト同等以上ノモノヲ以テ緊密ニ上打編組ヲ施シ
 タルモノトス

第四種可撓紐線ハ外部ノ「ゴム」被覆ト線心及線
 心相互間ヲ容易ニ離別シ得ルモノトス

第四種可撓紐線ハ細則第十七條第二項ノ絶縁耐
 力試験ニ適合スルモノトス

第二十二條 細則第十七條、第十八條及前條ノ「ゴ
 ム」混合物ハ供試線ヨリ「ゴム」混合物ヲ約百耗
 抽出シ其ノ中央ニ五十耗ノ長サヲ印シ之ヲ二倍
 ノ長サニ伸長シ其ノ儘一分間支持シタル後放置
 シ十分間經過後ニ於テ永久伸長率二十パーセン
 ト以下ナルモノトス

第二十三條 本則第二十條ニ依ル絶縁銅線及可撓
 紐線ノ安全電流ハ左表ヲ以テ標準トス

第二十四條 電線ニ接續點ヲ設クルトキハ左ノ各
 號ニ依ルコトヲ要ス

- 一 電線ノ電氣抵抗ヲ増加セシメザルコト
- 二 電線ノ強サヲ二割以上減少セシメザルコト
- 三 接續管又ハ特殊ノ方法ニテ接續スル場合ヲ
 除クノ外接續部分ヲ鐵着スルコト

第二十五條 本則第二十三條ノ檢漏器ハ漏電ノ程
 度ヲ常ニ自動的ニ表示スルモノナルコトヲ要ス
 但シ千ヴォルト以下ノ電路ニ於テ一時間ニ六回
 以上漏電ヲ檢スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 本則第二十三條ノ必要ナル箇所トハ左ノ如キ箇

備考
 一、「ゴム」絶縁銅線ヲ碍子引工事ニ用フルトキハ其ノ安全電流ハ前表ノ數値ノ二割以内ヲ限リ增加スルコトヲ得
 二、第四種絶縁銅線ヲ同一線樋又ハ管内ニ四本以上施設スル場合ハ其ノ安全電流ハ前表ノ數値ヲ適當ニ減少スルコト
 三、特ニ周圍温度高キ場所ニ施設スル電線ニ在リテハ其ノ安全電流ハ前表ノ數値ヲ適當ニ減少スルコト

單 線		安全電流 (アムペア)	
太 太 (平方耗)	サ (耗)	第一種及 第二種絶 縁銅線	第三種及 第四種絶 縁銅線
		12.0	300
10.0	230	165	
9.0	200	145	
8.0	170	120	
7.0	140	100	
6.5	130	90	
6.0	115	80	
5.5	105	75	
5.0	90	65	
4.5	80	55	
4.0	65	50	
3.5	55	40	
3.2	50	35	
2.9	45	32	
2.6	40	30	
2.3	35	25	
2.0	30	20	
1.8	25	18	
1.6	21	15	
1.4	18	12	
1.2	15	10	
1.0	12	8	
可 撓 紐 線			
太 太 (平方耗)	サ (平方耗)	心線構成 (耗)	安全電流 (アムペア)
		5.5	133/0.23
	3.5	84/0.23	20
	2.0	79/0.18	15
	1.4	55/0.18	12
	0.9	35/0.18	8

絶縁銅線及可撓紐線安全電流表

撓 線		安全電流 (アムペア)	
公稱切斷 面 積 (平方耗)	撓線構成 (耗)	第一種及 第二種絶 縁銅線	第三種及 第四種絶 縁銅線
		1000	127/3.2
850	127/2.9	1340	840
725	91/3.2	1210	770
600	91/2.9	1050	670
500	61/3.2	900	580
400	61/2.9	790	510
325	61/2.6	670	440
250	61/2.3	570	370
200	37/2.6	470	320
150	37/2.3	400	270
125	19/2.9	340	240
100	19/2.6	290	200
80	19/2.3	250	170
60	19/2.0	210	145
50	19/1.8	175	120
38	7/2.6	145	100
30	7/2.3	120	85
22	7/2.0	100	75
14	7/1.6	75	55
8	7/1.2	50	35
5.5	7/1.0	40	30
3.5	7/0.8	30	20
2.0	7/0.6	22	15

所ヲ謂フ

- 一 發電所又ハ變電所ノ引出用母線
- 二 本則第十一條ノ特別高壓變壓器設置箇所ノ高壓側電路
- 三 他ヨリ供給ヲ受クル受電點

前項第三號ノ受電點ガ之ニ供給スル發電所、變電所等ニ隣接スルトキ又ハ受電シタル電氣ヲ受電點ニ隣接スル場所ノ變壓器若ハ電動發電機ニ依リ變成スルトキ又ハ受電シタル電氣ヲ受電點ニ隣接スル場所ニ於テ使用スルトキハ該受電點ノ檢漏器ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十六條 本則第二十四條第一項ノ必要ナル箇所トハ左ノ如キ箇所ヲ謂フ

- 一 發電所又ハ變電所ノ架空電線引込口若ハ引出口又ハ母線
- 二 本則第十一條ノ特別高壓變壓器ノ特別高壓側及高壓側但シ一萬ヴォルト未満ノモノニ限リ特別高壓側ノ避雷器ヲ省略スルコトヲ得
- 三 架空電線ト電線トノ接續箇所
- 四 高壓架空電線路ニ依リ供給スル百キロワツト以上ノ需用場所ノ引込口又ハ母線

五 特別高壓架空電線路ニ依リ供給スル需用場所ノ引込口又ハ母線

六 雷災多キ地方ニ在リテハ前各號以外ノ場所ト雖モ避雷器ヲ必要トスル箇所

前項第一號乃至第五號ノ箇所ニ直接接續スル架空電線若ハ電線短キ場合其ノ他特殊ノ事由アル場合ハ避雷器ノ設置ヲ省略スルコトヲ得

第二十七條 本則第二十六條第一項ノ保安裝置ヲ二箇以上ノ變壓器ニ共通ニ使用スル爲メ架空共同電線ヲ設クルトキハ左ノ各號ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

- 一 架空共同電線ニハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル金屬線ヲ使用スルコト但シ各變壓器ニ電線工事ヲ施ス場合ハ四耗ノ金屬線ヲ使用スルコトヲ得
- 二 電線工事ハ變壓器ヨリ二百米以内ノ地域ニ於テ二箇所以上ニ施設シ其ノ合成電氣抵抗ハ其ノオーム數ニ其ノ地線ニ接續スル變壓器ノ總容量ノ四割ニ相當スル一次電流ノアムペア數ヲ乗ジタル積ガ百五十以下ナル様保持スルコト但シ此ノアムペア數ハ其ノ地線ニ接續シ

セザル場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

- 一 直流單線式電氣鐵道ノ歸線、試驗用變壓器又ハ「エツクス」線發生裝置等ノ如ク電路ノ一部ヲ大地ヨリ絶緣セズシテ使用スル場合
- 二 溫水器、電氣爐、電氣汽罐、電解槽等ノ如ク大地ヨリ絶緣スルコト困難ナルモノヲ危險ノ虞ナキ様施設スル場合

第三十一條 本則第三十條第一項ノ接地線ニハ第一種及第三種地線工事ニ在リテハ二・六耗以上ノ銅線、第二種地線工事ニ在リテハ變壓器容量ニ從ヒ左ノ太サヲ有スル銅線^{特別高壓ノ場合ハ摺線}ヲ使用スルコトヲ要ス

變壓器容量		接地線ノ太サ	
		特別高壓ノ場合	高壓ノ場合
二十キロヴォルト	トアムペア未滿	四耗以上	二・六耗以上
二十キロヴォルト	トアムペア以上	五耗以上	五耗以上
第一種及第二種地線工事ニ用フル接地線ヲ人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル場合ニ於テハ地板			

タル變壓器中最大容量ノモノノ一次側ニ於ケル自動遮斷器ノ動作電流^{非包裝可熔片ニ在リテハ其ノ定格電流ノ二倍}以上タルコト

三 低壓配電線ノ一線ヲ架空共同地線ニ兼用スルモノニ在リテハ該架空共同地線ハ一杆ヲ直徑トスル地域外ニ互ラザルコト

本則第二十六條第一項ノ保安裝置ヲ二箇以上ノ變壓器ニ共通ニ使用スル爲メ地中共同地線ヲ設クルトキハ前項第二號及第三號ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

第二十八條 本則第二十六條第二項及第二十七條第二項ノ特殊ノ場合トハ電氣爐又ハ電氣汽罐ノ如ク常ニ電路ノ一部ヲ大地ヨリ絶緣セズシテ使用スル負荷ニ專用ノ變壓器ヲ以テ供給スル如キ場合ヲ謂フ

第二十九條 本則第二十七條第一項ノ特殊ノ場合トハ電氣汽罐又ハ直流單線式電氣鐵道用廻轉變流機ノ如ク常ニ電路ノ一部ヲ大地ヨリ絶緣セズシテ使用スル負荷ニ專用ノ變壓器ヲ以テ供給スル如キ場合ヲ謂フ

第三十條 本則第二十八條第三號ノ大地ヨリ絶緣

ヲ地下一・五米以上ノ深サニ埋設シ地板ヨリ地上六十種ニ至ル部分ニハ第四種絕緣電線ヲ用ヒ竹又ハ木ノ如キ不導體ノ樋ヲ以テ之ヲ覆ヒ接地線ト樋トノ間ニ絕緣性混和物ヲ填充シ且人ノ接觸又ハ他動的損傷ヲ防止スル爲地上二・五米ノ高サ迄木樋ヲ以テ保護スルコトヲ要ス

前項ノ接地線ヲ人ノ觸ルル虞アル場所ニ於テ鐵柱ノ如キ金屬體ニ沿ヒテ施設スル場合ハ前項ノ規定ニ依ルノ外地板ヲ地中ニ於テ該金屬體ヨリ一米以上離隔シテ埋設シ且接地線全部ニ第四種絕緣電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ用ヒテ該金屬體ヨリ絕緣スルコトヲ要ス

第三種地線工事ニ依リ接地スベキ金屬體ト大地トノ接觸良好ニシテ其ノ電氣抵抗ガ百オーム以下ナルトキハ接地線ヲ省略スルコトヲ得

第二項ノ接地線ヲ施設シタル支持物ニハ避雷用地線ヲ取付クルコトヲ得ズ

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

第三十二條 第一節 通則
本則第三十四條第一項、第四十七條第一項、第五十五條第一項、第五十六條第一項、

鋼心「アルミニウム」撚線抗張力表

公稱切斷面積 (サークユ ラーミル)	「アルミニウム」 切斷面積 (平方耗)	撚線構成 (撚線數/素線直徑(耗))		抗張力 (瓦)
		「アルミニウム」	鋼心	
795000	402.3	54/3.08	7/3.08	11260
715000	361.6	54/2.92	7/2.92	10110
666600	337.3	54/2.82	7/2.82	9430
636000	323.1	54/2.76	7/2.76	9030
605000	306.9	54/2.69	7/2.69	8580
556500	282.6	26/3.72	7/2.89	8830
556500	282.1	30/3.46	7/3.46	10810
500000	253.5	30/3.28	7/3.28	9720
477000	241.7	26/3.44	7/2.68	7570
477000	241.3	30/3.20	7/3.20	9250
397500	201.3	26/3.14	7/2.44	6290
397500	202.3	30/2.93	7/2.93	7750
336400	170.6	26/2.89	7/2.25	5340
336400	170.5	30/2.69	7/2.69	6540
300000	152.2	26/2.73	7/2.12	4750
300000	152.0	30/2.54	7/2.54	5830
266800	134.9	6/5.35	7/1.79	3780
266800	134.9	26/2.57	7/2.00	4220
0000	107.7	6/4.78	1/4.78	3410
000	84.72	6/4.24	1/4.24	2680
00	67.69	6/3.79	1/3.79	2140
0	53.52	6/3.37	1/3.37	1690

備考 抗張力ノ計算式次ノ如シ 但シ

$$A_s T \times 100 A_s + 15 A_s$$
 A_s ハ鋼心ノ切斷面積(平方耗ヲ單位トス)
 T ハ「アルミニウム」ノ切斷面積(平方耗ヲ單位トス)

第六十四條第一項、第六十五條及第六十八條第一項ノ氷雪多キ地方トハ左ニ掲グル地方ヲ謂フ

北海道、青森縣、秋田縣、山形縣、岩手縣、宮城縣、福島縣、新潟縣、長野縣、富山縣、石川縣、福井縣、岐阜縣(北部)、滋賀縣(北部)、京都府(北部)、兵庫縣(北部)、鳥取縣、島根縣及土地高峻ニシテ特ニ寒氣嚴シキ地方並ニ栃木縣、群馬縣、埼玉縣、茨城縣、東京府、神奈川縣、山梨縣等ノ如ク電線ニ氷雪ノ附着シ易キ地方

第三十三條 電線ノ抗張力ハ左記ヲ以テ標準トス

- 電線ノ種類
- 抗張力(一平方耗ニ付)
- 硬銅線 三十五瓦
- 鋼心「アルミニウム」線 別表ニ依ル
- 鐵線 五十六瓦
- 「アルミニウム」線 十六瓦
- 鐵線 三十五瓦
- 鋼線 特殊ノモ 五十六瓦
- 絕緣硬銅線ノ抗張力ハ心線ノ切斷面積一平方耗

ニ付三十五瓦ヲ以テ標準トス

第三十四條 鐵柱及鐵塔ノ部材ニ日本標準規格第二十號ニ依ル構造用壓延鋼材ヲ使用スル場合ハ其ノ許容應力ハ左記ヲ以テ標準トス

一 應張力及彎曲應力 有效切斷面積一平方糎ニ付千二百五十瓦

二 應壓力 左記ノ公式ニ依ル

$$P = 1,250 - 4 \frac{L}{r}$$

P ハ全切斷面積ニ對スル應壓力
(一平方糎ニ付瓦ヲ單位トス)

L ハ部材ノ長さ(糎ヲ單位トス)
r ハ使用斷面ノ最小環動半徑(糎ヲ單位トス)

三 應剪力 「ボルト」及「リベット」ニ對シ一平方糎ニ付千瓦

四 支壓力 「ボルト」及「リベット」ニ對シ一平方糎ニ付二千瓦

抗壓材ニ在リテハ其ノ長サト最小環動半徑トノ比ハ次ノ制限ニ依ルモノトス
一 最大使用電壓六萬ヴォルト以上ニシテ電線

ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ
百二十平方糎以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方糎以上ノ場合
〔主脚材〕 百五十以下
〔其ノ他ノ抗壓材〕 二百以下

二 前號以外ノ場合

〔主脚材〕 二百以下
〔其ノ他ノ抗壓材〕 二百五十以下

第三十五條 鐵柱及鐵塔ニ用フル鐵材ハ亜鉛鍍セ

ルモノ又ハ適當ナル防蝕塗料ヲ施シタルモノニシテ其ノ厚サハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

一 最大使用電壓六萬ヴォルト以上ニシテ電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ
百二十平方糎以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方糎以上ノ場合

〔主脚材〕 六糎以上
〔其ノ他ノ部材〕 三糎以上

二 前號以外ノ場合
〔主脚材〕 五糎以上
〔其ノ他ノ部材〕 三糎以上

第三十六條 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ用フル支線ニハ地中ノ部分及地表上三十糎ニ至ル

部分ニ亜鉛鍍セル鐵棒ヲ使用シ之ヲ容易ニ腐蝕シ難キ根柢ニ堅牢ニ取付クルコトヲ要ス

第三十七條 木柱ノ彎曲ニ對スル破壞強度ハ左記ヲ以テ標準トス

木材ノ種類 破壞強度(一平方糎ニ付)

- 杉 四百瓦
- 檜 五百瓦

木柱ノ強度計算ニ於テ杉及檜ノ直徑增加率ハ百分ノ一ヲ以テ標準トス

第三十八條 木柱ノ強度ハ左ニ示ス表又ハ公式ニ依リ計算スルモノトス

S ハ徑間(米ヲ單位トス)但シ兩側ノ徑間相等シカラザル場合ニ於テハ兩徑間ノ各二分ノ一ヲ加ヘタルモノトス

e ハ電線又ハ地線等ノ徑(糎ヲ單位トス)但シ乙種風壓荷重ノ場合ハ氷雪ノ附着シタル値ヲ採ルモノトス

h₁ ハ電線又ハ地線等ノ支持點ノ地表上ノ高さ(米ヲ單位トス)

H ハ木柱地表上ノ高さ(米ヲ單位トス)

D ハ木柱ノ末口(糎ヲ單位トス)

D₀ ハ木柱地表面ニ於ケル徑(糎ヲ單位トス)

$$D_0 = D + H$$

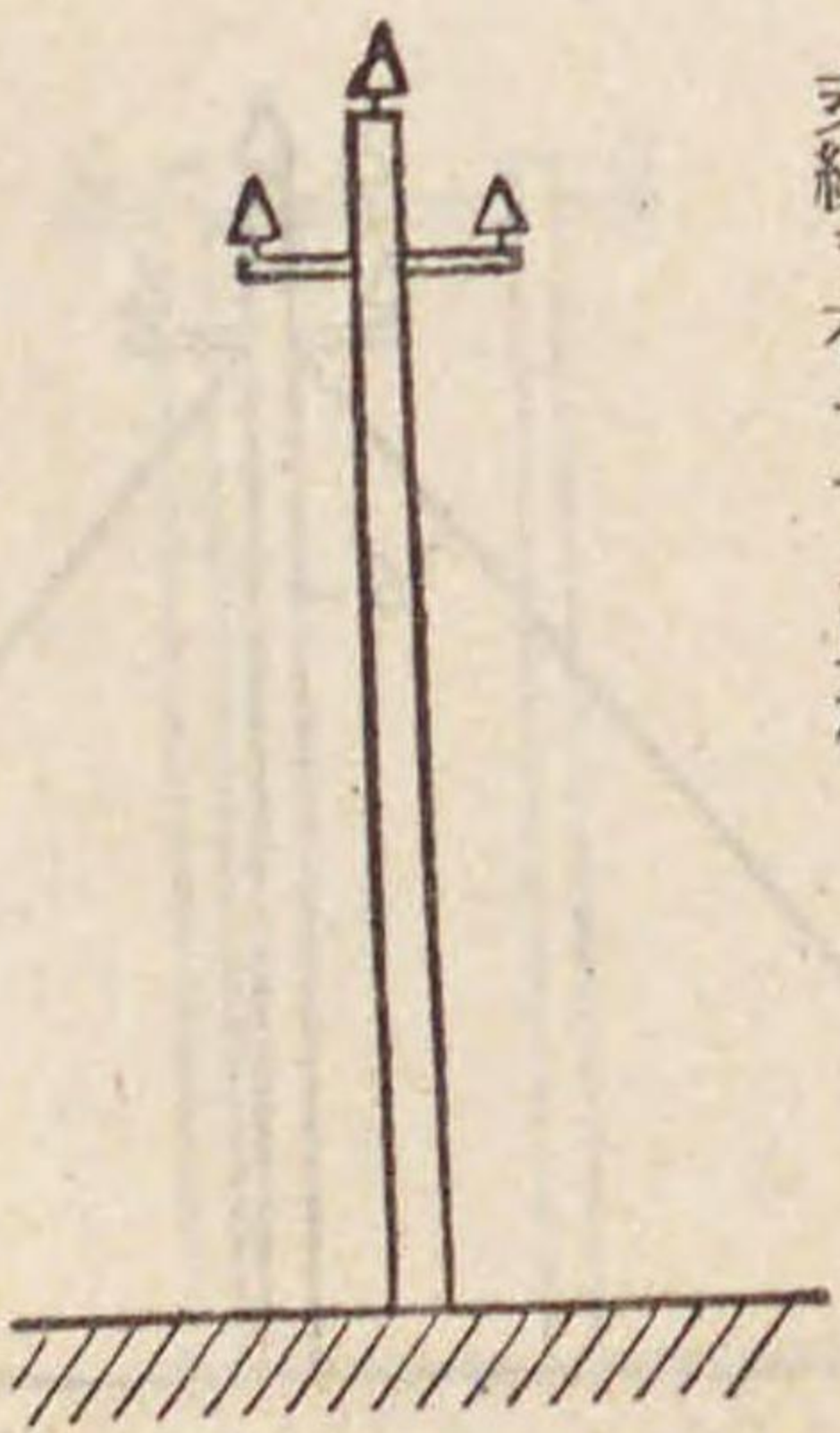
P ハ木柱材料ノ破壞強度(一平方糎ニ付瓦ヲ單位トス)(細第三十七條)

KF ハ木柱ノ安全係數

甲種風壓荷重ノ場合 K = 1

乙種又ハ丙種風壓荷重ノ場合 K = 0.5

一 支線ヲ有セザル單柱



(イ) 表ニ依ル場合ハ第一表ヨリ得タル數値ト第二表ヨリ得タル數値トノ和ガ第三表ヨリ得タル數値ヲ超過セザルコト

(ロ) 公式ニ依ル場合ハ左記ニ依ルコト

$$P/F \geq K \{ 612 D_0 H^2 - 408 H^3 + 102 S$$

$$(\sum e h_1) \} + D_0^3$$

二 支線ヲ用ヒテ強度ノ一部ヲ分擔セシムル單

柱

(イ) 表ニ依ル場合ハ第一表ヨリ得タル數值ノ二分ノ一ト第二表ヨリ得タル數值ノ二分ノ一トノ和ガ第三表ヨリ得タル數值ヲ超過セザルコト

(ロ) 公式ニ依ル場合ハ左記ニ依ルコト

$$P/F \geq K \{ 306D_0 H^2 - 204H^3 + 51S (\Sigma e h_1) \} + D_0^3$$

本號ノ支線ハ左ノ公式ニ依リ計算スルモノトス

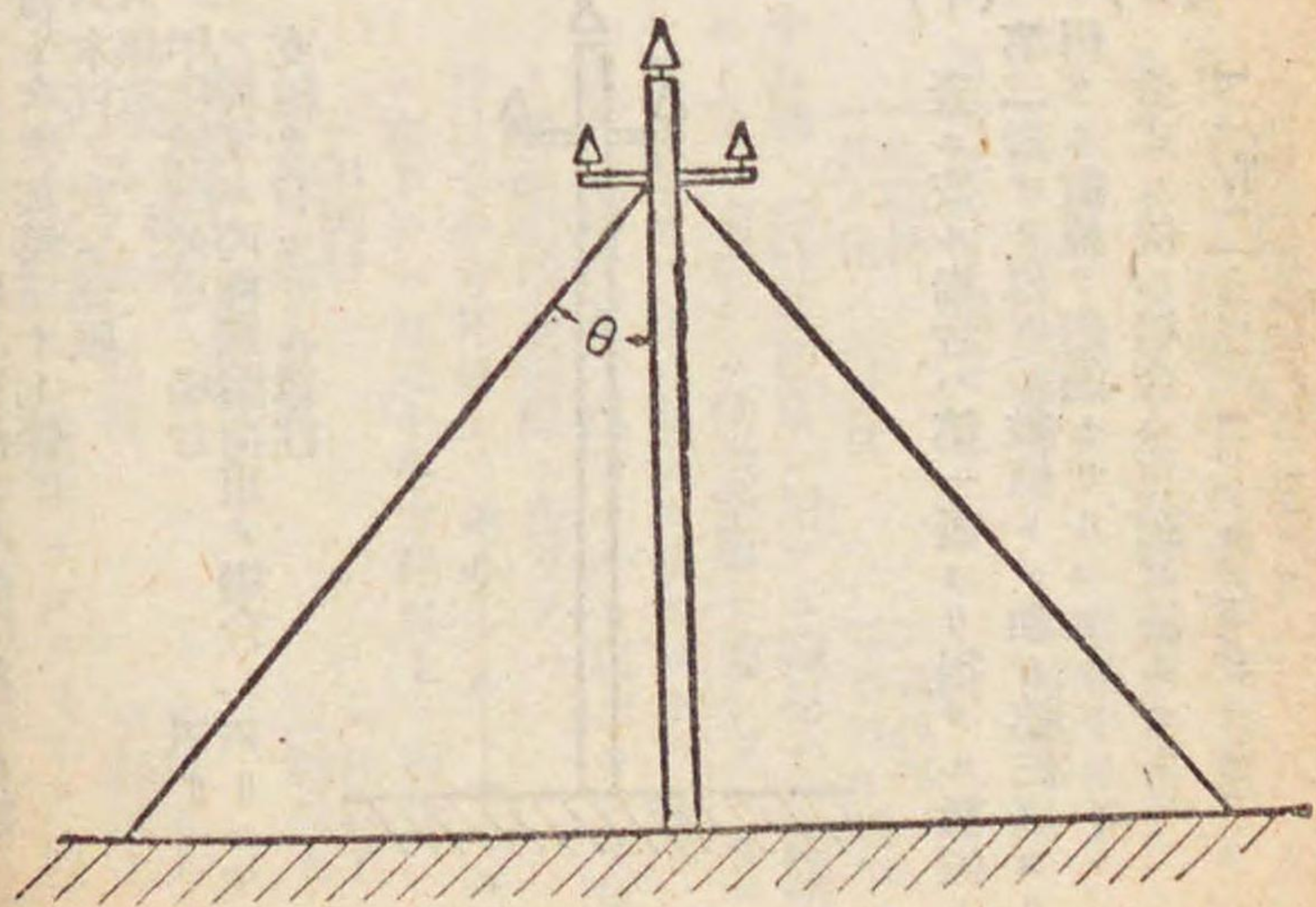
$$A = 0.01K \{ 0.86S (\Sigma e) + 5.14D_0 H - 3.43H^2 \} \operatorname{cosec} \theta$$

$$\theta = 45^\circ \text{ ナルトキ}$$

$$A = 0.01K \{ 1.21S (\Sigma e) + 7.27D_0 H - 4.85H^2 \}$$

$$n = 0.001K \{ S (\Sigma e) + 5.80D_0 H - 3.85H^2 \}$$

A ハ鐵線ヲ用ヒ其ノ安全係數ヲ三トシタル場合ノ支線ノ切斷面積 (平方耗ヲ單位トス)



θ ハ支線ガ電柱ト爲ス角度
 n ハ θ ガ四十五度ニシテ四耗ノ鐵線ヲ支線トシテ用ヒタル場合ノ線條數
 三 支線ヲ有セザルH柱及A柱

(イ) 表ニ依ル場合ハ第一表ヨリ得タル數值ト

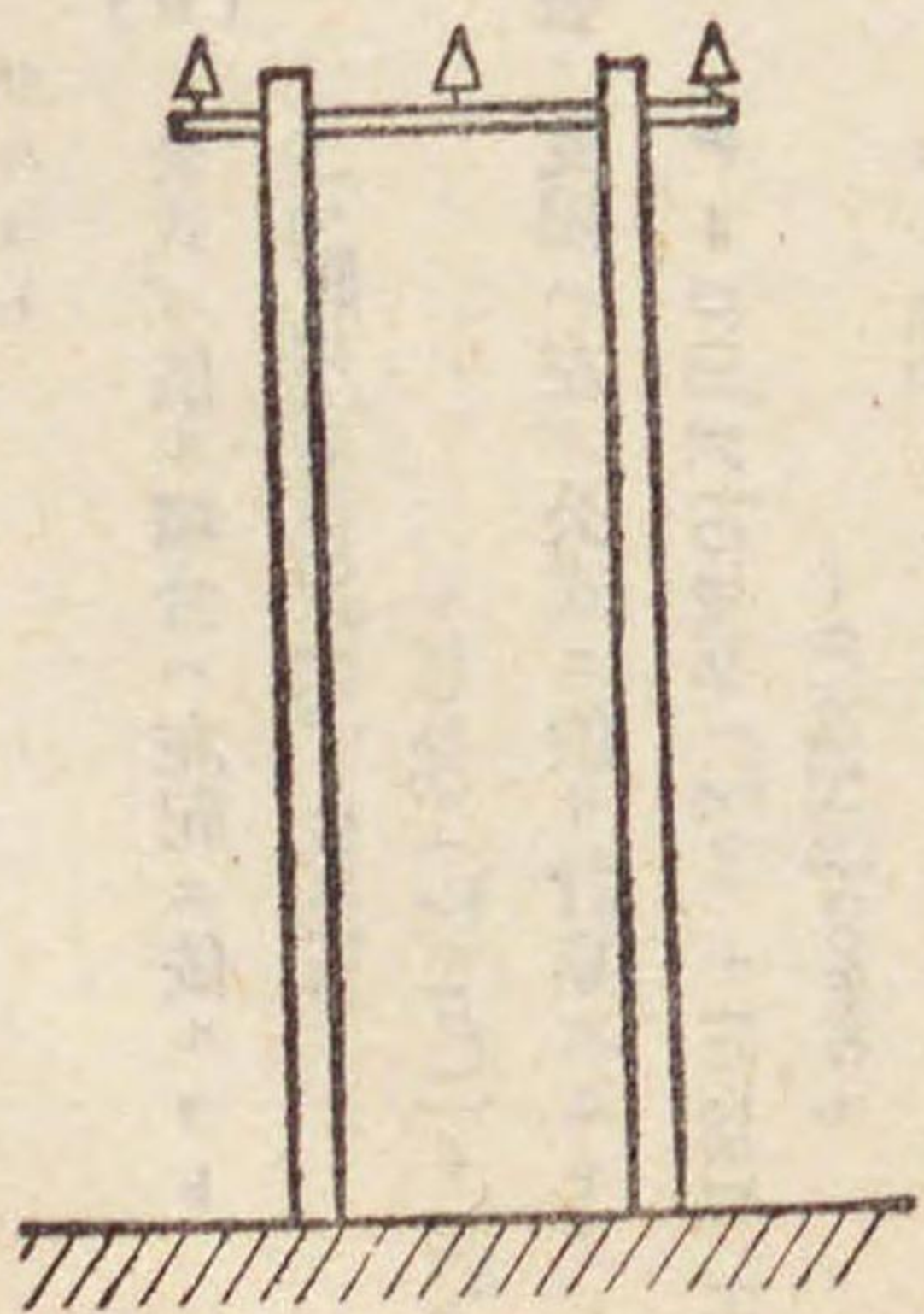
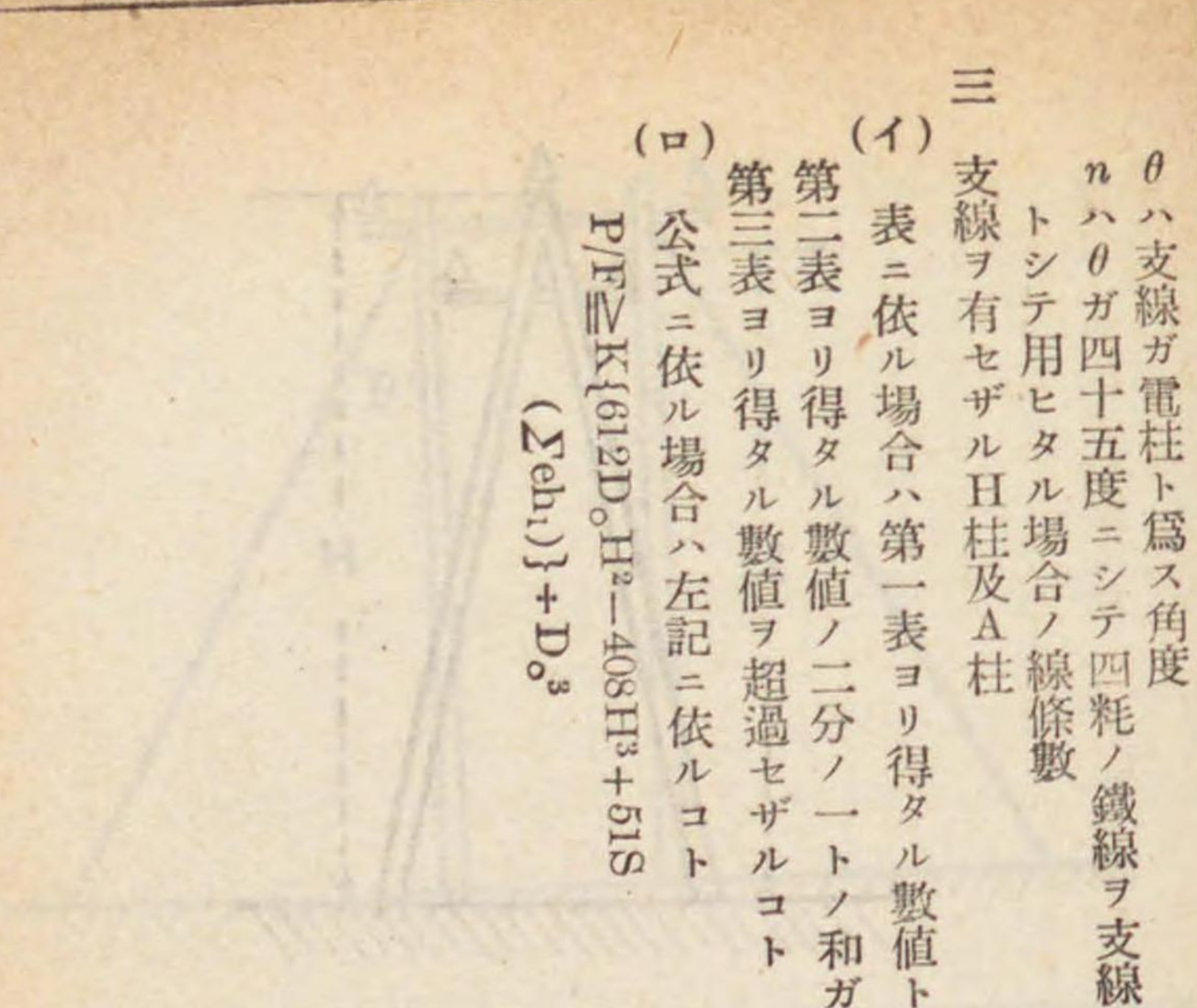
第二表ヨリ得タル數值ノ二分ノ一トノ和ガ

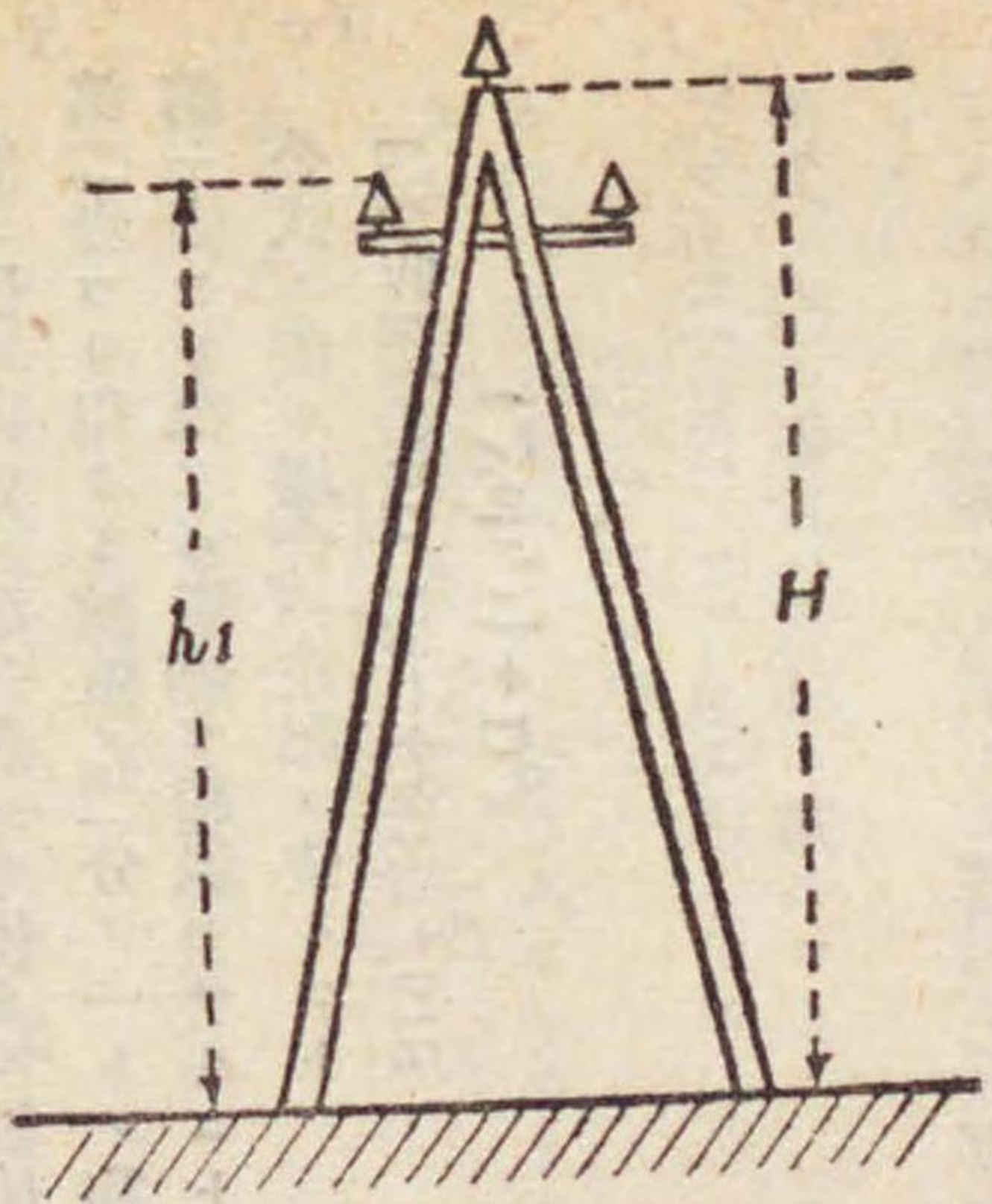
第三表ヨリ得タル數值ヲ超過セザルコト

(ロ) 公式ニ依ル場合ハ左記ニ依ルコト

$$P/F \geq K \{ 612D_0 H^2 - 408H^3 + 51S (\Sigma e h_1) \} + D_0^3$$

$$(\Sigma e h_1) + D_0^3$$





四 支線ヲ用ヒテ強度ノ一部ヲ分擔セシムルH
柱及△柱

(イ) 表ニ依ル場合ハ第一表ヨリ得タル數値ノ
二分ノ一ト第二表ヨリ得タル數値ノ四分ノ
一トノ和ガ第三表ヨリ得タル數値ヲ超過セ
ザルコト

(ロ) 公式ニ依ル場合ハ左記ニ依ルコト

$$P/F \cong K \{ 306D_0 H^2 - 204H^3 + 25.5S (\sum e h_1) \} + D_0^3$$

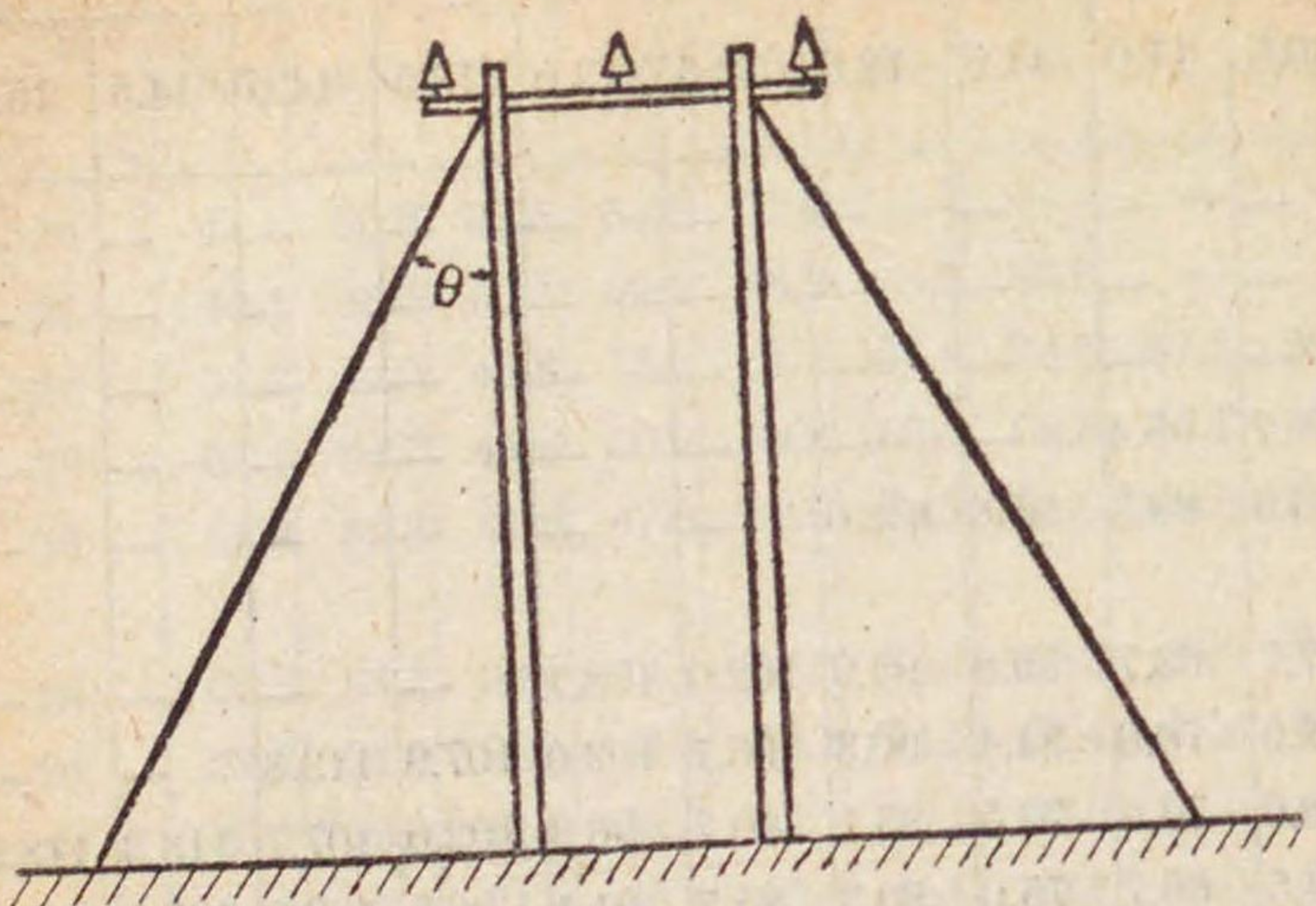
本號ノ支線ハ左ノ公式ニ依リ計算スルモノトス

$$A = 0.01K \{ 0.86S (\sum e) + 10.28D_0 H - 6.86H^2 \} \operatorname{cosec} \theta$$

$\theta = 45^\circ$ ナルトキ

$$A = 0.01K \{ 1.21S (\sum e) + 14.54D_0 H - 9.70H^2 \}$$

$$n = 0.001K \{ S (\sum e) + 11.60D_0 H - 7.70H^2 \}$$



第一

H \ D ₀	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	9.0	9.5	10.0
20	44.1	50.6	57.5	64.5	71.8	—	—	—	—
21	40.4	46.5	52.9	59.5	66.2	73.2	80.3	—	—
22	37.2	42.9	48.8	55.0	61.3	67.8	74.5	81.3	88.1
23	34.4	39.7	45.2	50.9	56.9	63.0	69.3	75.7	82.2
24	31.9	36.8	41.9	47.3	52.9	58.7	64.6	70.6	76.7
25	29.6	34.2	39.0	44.1	49.3	54.7	60.3	66.0	71.8
26	27.6	31.9	36.4	41.1	46.1	51.2	56.4	61.8	67.3
27	25.7	29.8	34.0	38.5	43.1	47.9	52.9	58.0	63.2
28	24.1	27.9	31.9	36.1	40.4	45.0	49.7	54.5	59.5
29	22.6	26.2	29.9	33.9	38.0	42.3	46.7	51.3	56.0
30	21.2	24.6	28.1	31.9	35.8	39.9	44.1	48.4	52.9
31	20.0	23.1	26.5	30.0	33.7	37.6	41.6	45.7	50.0
32	18.8	21.8	25.0	28.4	31.9	35.5	39.3	43.3	47.3
33	17.8	20.6	23.6	26.8	30.2	33.6	37.2	41.0	44.8
34	16.8	19.5	22.4	25.4	28.6	31.9	35.3	38.9	42.6
35	15.9	18.5	21.2	24.1	27.1	30.3	33.5	36.9	40.4
36	15.1	17.5	20.1	22.9	25.7	28.7	31.9	35.1	38.5
37	14.4	16.7	19.1	21.7	24.5	27.1	30.3	33.4	36.6
38	13.7	15.9	18.2	20.7	23.3	26.1	28.9	31.9	35.0
39	13.0	15.1	17.4	19.7	22.2	24.8	27.6	30.4	33.4
40	12.4	14.4	16.6	18.8	21.2	23.7	26.3	29.0	31.9

(例) D₀ = 30 H = 10 = 對スル數ハ 52.9 トス

表

	10.5	11.0	11.5	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0	14.5	15.0
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
88.7	95.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
83.0	89.3	95.6	102.0	—	—	—	—	—	—	—
77.7	83.7	89.8	95.9	102.0	108.1	—	—	—	—	—
72.9	78.6	84.4	90.3	96.1	102.0	107.9	113.8	—	—	—
68.6	74.0	79.5	85.1	90.7	96.3	102.0	107.7	113.3	118.9	—
64.5	69.7	75.0	80.3	85.7	91.1	96.5	102.0	107.5	112.9	—
60.9	65.8	70.8	75.9	81.0	86.2	91.5	96.7	102.0	107.3	—
57.5	62.2	66.9	71.8	76.7	81.7	86.8	91.8	96.9	102.0	—
54.4	58.8	63.4	68.0	72.8	77.5	82.4	87.2	92.1	97.0	—
51.5	55.7	60.1	64.5	69.1	73.6	78.3	83.0	87.7	92.5	—
48.8	52.9	57.1	61.3	65.6	70.0	74.5	79.0	83.5	88.1	—
46.4	50.2	54.2	58.3	62.4	66.7	70.9	75.3	79.7	84.3	—
44.1	47.8	51.6	55.5	59.5	63.5	67.6	71.8	76.0	80.3	—
41.9	45.5	49.2	52.9	56.7	60.6	64.5	68.6	72.6	76.8	—
40.0	43.4	46.9	50.5	54.1	57.9	61.9	65.5	69.7	73.4	—
38.2	41.4	44.8	48.2	51.7	55.3	59.0	62.5	66.4	70.3	—
36.4	39.5	42.8	46.1	49.4	52.9	56.4	60.0	63.6	67.3	—
34.8	37.8	40.9	44.1	47.3	50.6	54.0	57.5	61.0	64.5	—

第 二

D _o	S(Σeh ₁)						
	500	1000	2000	3000	4000	5000	6000
20	6.4	12.8	25.5	38.3	51.0	63.8	76.5
21	5.5	11.0	22.0	33.0	44.1	55.1	66.1
22	4.8	9.6	19.2	28.7	38.3	47.9	57.5
23	4.2	8.4	16.8	25.1	33.5	41.9	50.3
24	3.7	7.4	14.8	22.1	29.5	36.9	44.3
25	3.3	6.5	13.1	19.6	26.1	32.6	39.2
26	2.9	5.8	11.6	17.4	23.2	29.0	34.8
27	2.6	5.2	10.4	15.5	20.7	25.9	31.1
28	2.3	4.6	9.3	13.9	18.6	23.2	27.9
29	2.1	4.2	8.4	12.5	16.7	20.9	25.1
30	1.9	3.8	7.6	11.3	15.1	18.9	22.7
31	1.7	3.4	6.8	10.3	13.7	17.1	20.5
32	1.6	3.1	6.2	9.3	12.5	15.6	18.7
33	1.4	2.8	5.7	8.5	11.4	14.2	17.0
34	1.3	2.6	5.2	7.8	10.4	13.0	15.6
35	1.2	2.4	4.8	7.1	9.5	11.9	14.3
36	1.1	2.2	4.4	6.6	8.7	10.9	13.1
37	1.0	2.0	4.0	6.0	8.1	10.1	12.1
38	0.9	1.9	3.7	5.6	7.4	9.3	11.2
39	0.9	1.7	3.4	5.2	6.9	8.6	10.3
40	0.8	1.6	3.2	4.8	6.4	8.0	9.6

(例) D_o = 30 S(Σeh₁) = 18,200 = 對スル數ハ S(Σeh₁)
ノ一トノ和 68.8 トス

表

7000	8000	9000	10000	20000	30000	40000	50000
89.3	102.0	114.8	127.5	255.0	382.5	510.0	637.5
77.1	88.1	99.1	110.1	220.3	330.4	440.6	550.7
67.1	76.6	86.2	95.8	191.6	287.4	383.2	479.0
58.7	67.1	75.4	83.8	167.7	251.5	335.3	419.2
51.6	59.0	66.4	73.8	147.6	221.4	295.1	368.9
45.7	52.2	58.8	65.3	130.6	195.8	261.1	326.4
40.6	46.4	52.2	58.0	116.0	174.1	232.1	290.2
36.3	41.5	46.6	51.8	103.6	155.5	207.3	259.1
32.5	37.2	41.8	46.5	92.9	139.4	185.9	232.3
29.3	33.5	37.6	41.8	83.6	125.5	167.3	209.1
26.4	30.2	34.0	37.8	75.6	113.3	151.1	188.9
24.0	27.4	30.8	34.2	68.5	102.7	137.0	171.2
21.8	24.9	28.0	31.1	62.3	93.4	124.5	155.6
19.9	22.7	25.0	28.4	56.8	85.1	113.5	141.9
18.2	20.8	23.4	26.0	51.9	77.9	103.8	129.8
16.7	19.0	21.4	23.8	47.6	71.4	95.2	119.0
15.3	17.5	19.7	21.9	43.7	65.6	87.4	109.3
14.1	16.1	18.1	20.1	40.3	60.4	80.5	100.7
13.0	14.9	16.7	18.6	37.2	55.8	74.4	92.9
12.0	13.8	15.5	17.2	34.4	51.6	68.8	86.0
11.2	12.8	14.3	15.9	31.9	47.8	63.8	79.7

ノ 10000 ノ欄ト 8000 ノ欄ト 2000 ノ欄ノ十分

第三表

	安全係數	甲種風壓荷重	乙種風壓荷重	丙種風壓荷重
杉	4	100	200	200
	5	80	160	—
	6	67	133	—
材	7.5	54	108	—
	4	125	250	250
	5	100	200	—
檜	6	84	168	—
	7.5	67	133	—

第三十九條

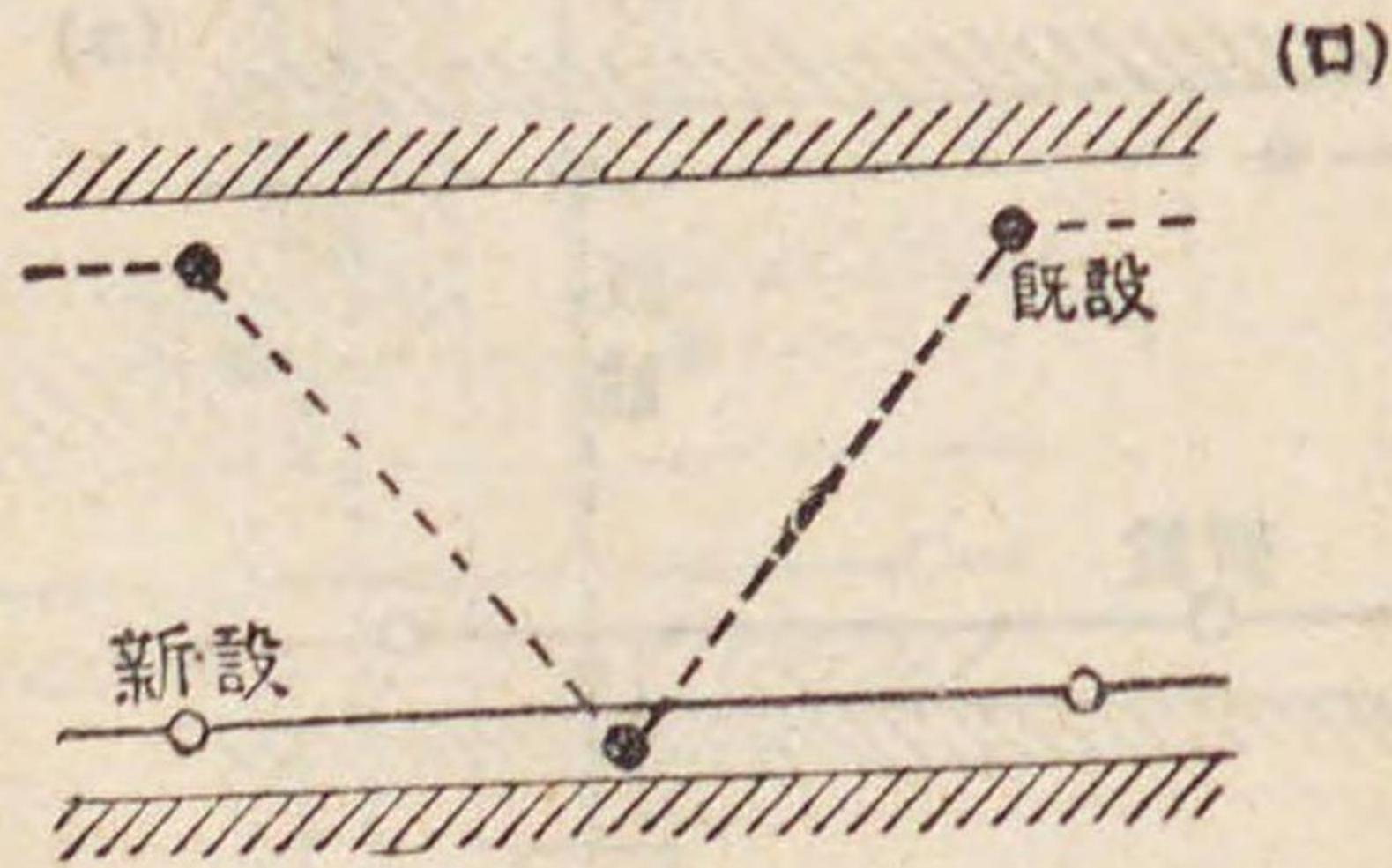
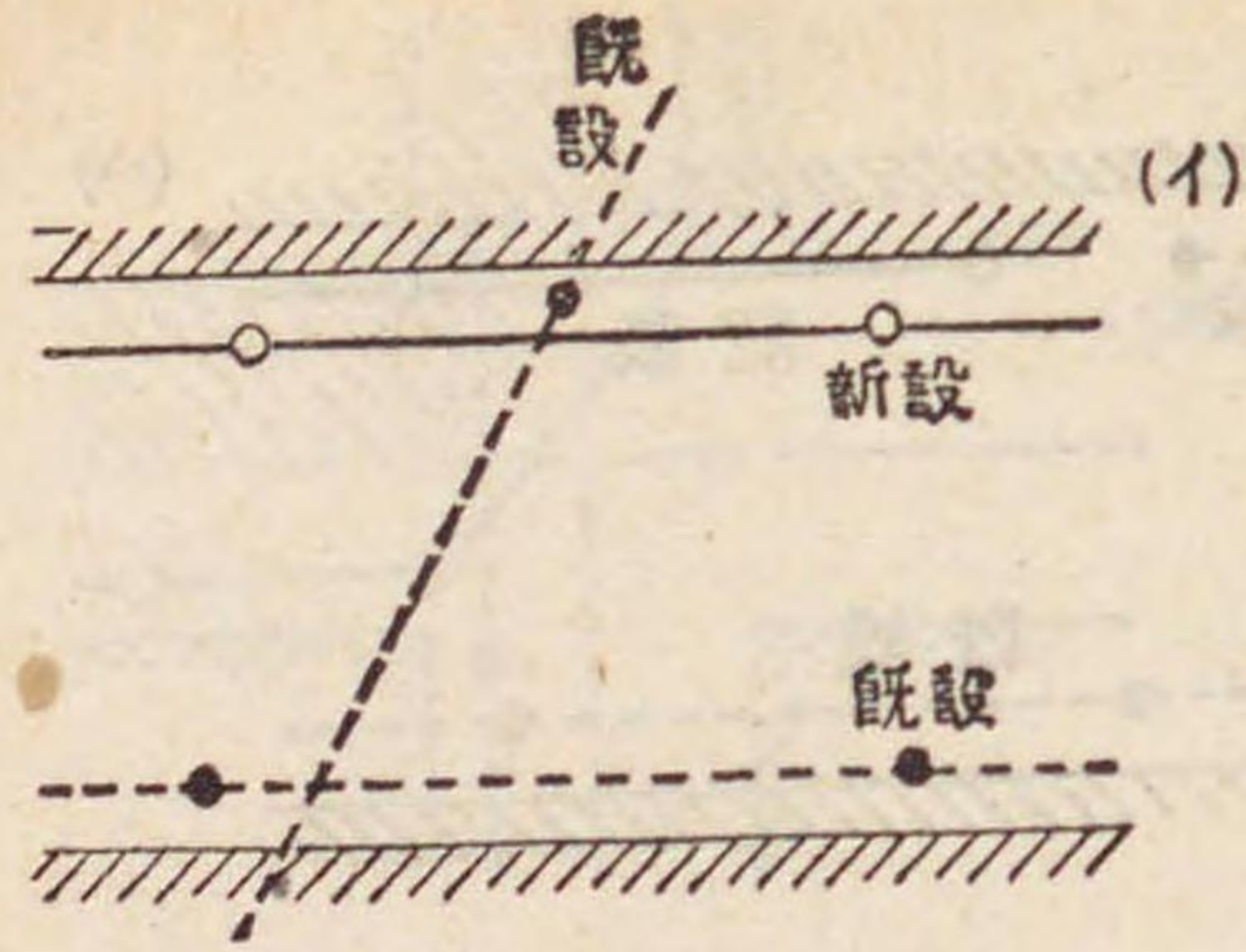
本則第三十六條第二項ノ適當ナル表
示トハ左ノ如キモノヲ謂フ

- 一 高壓架空電線路ニ在リテハ碍子ノ表面ノ見易キ部分幅約二種又ハ腕木ノ表面ヲ赤色ト爲スモノ

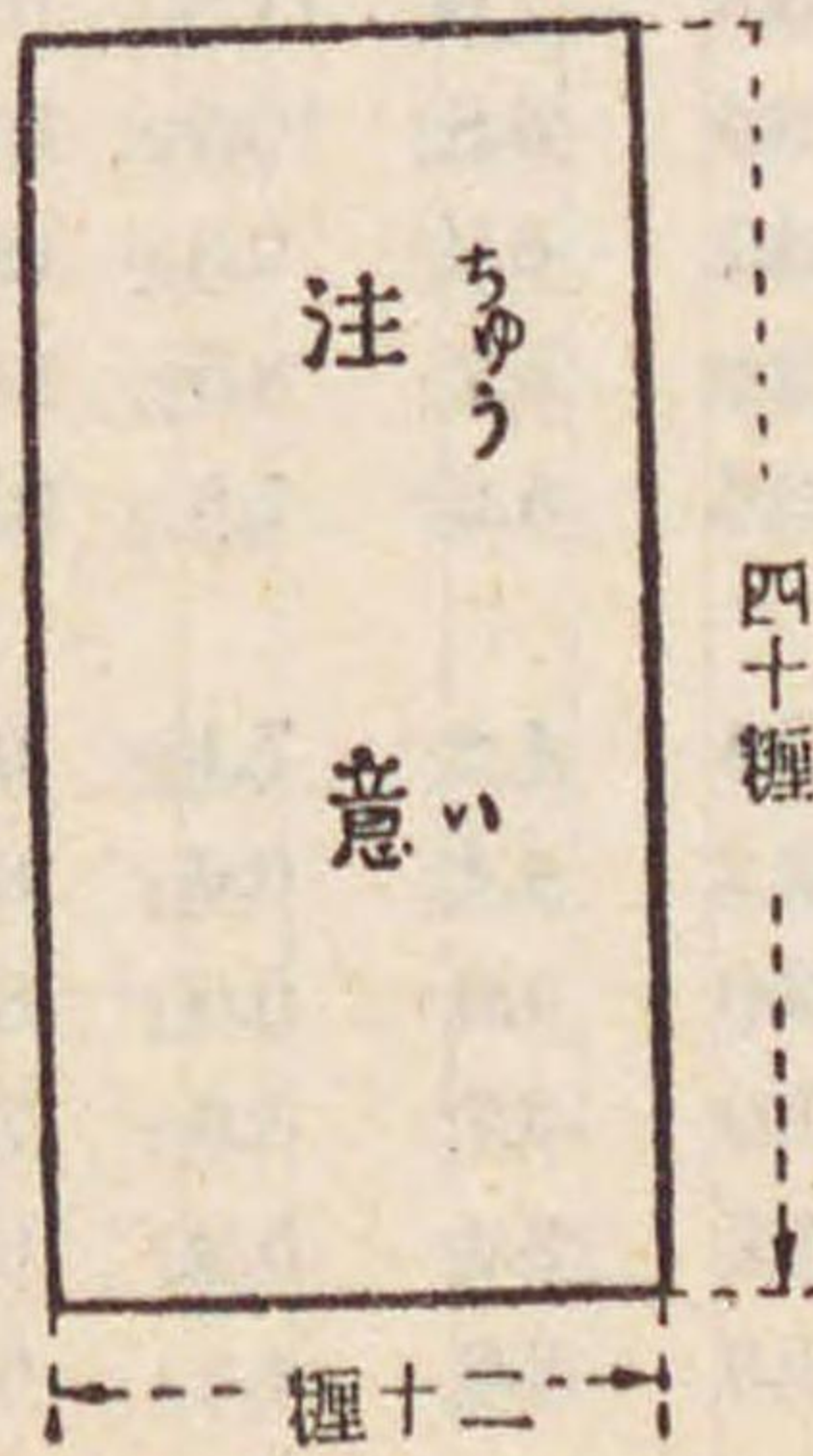
第二節 低壓及高壓架空電線路

第四十一條

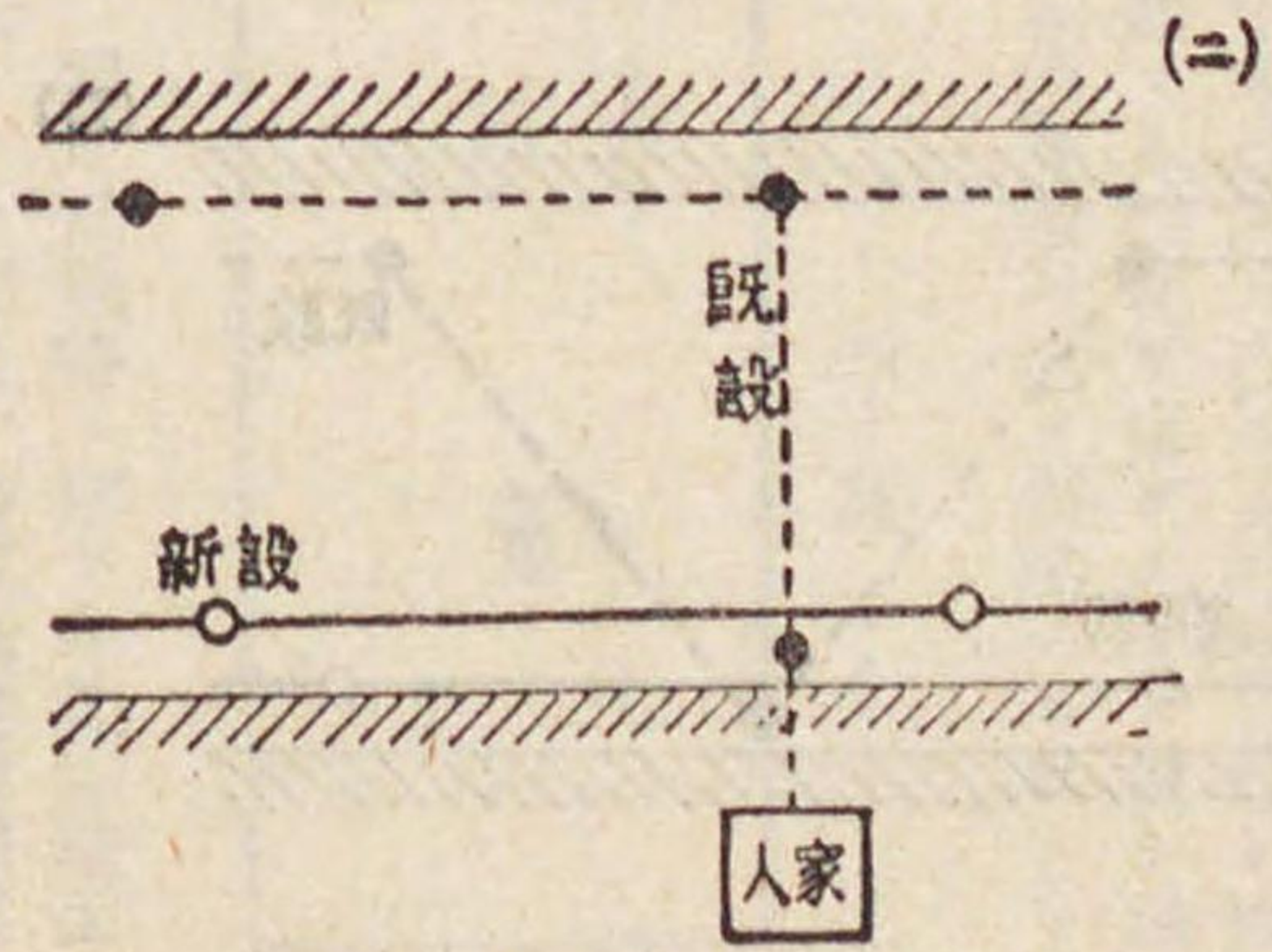
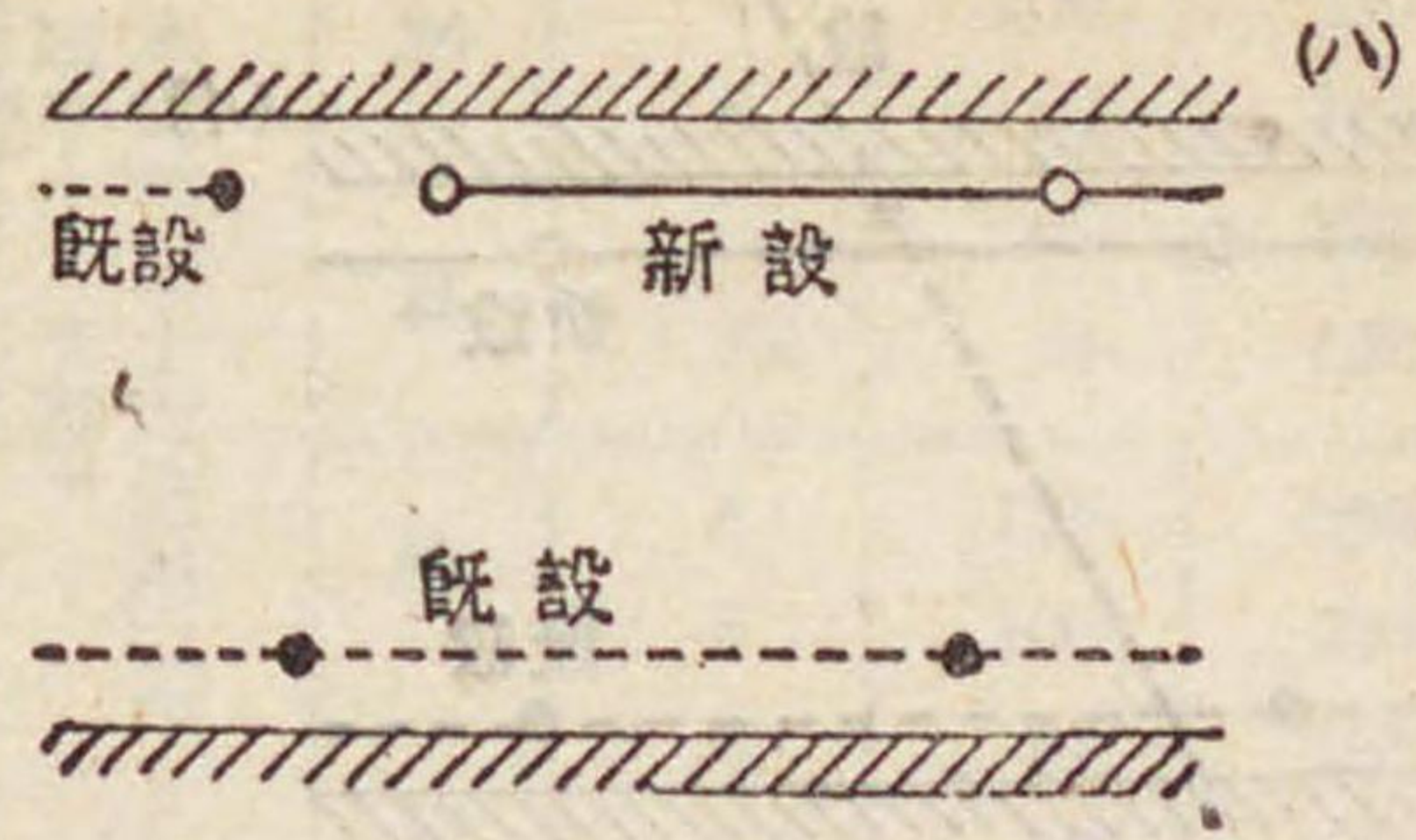
本則第四十條第一項但書ノ工事上若ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザルトキトハ左圖ノ如キ場合ヲ謂フ



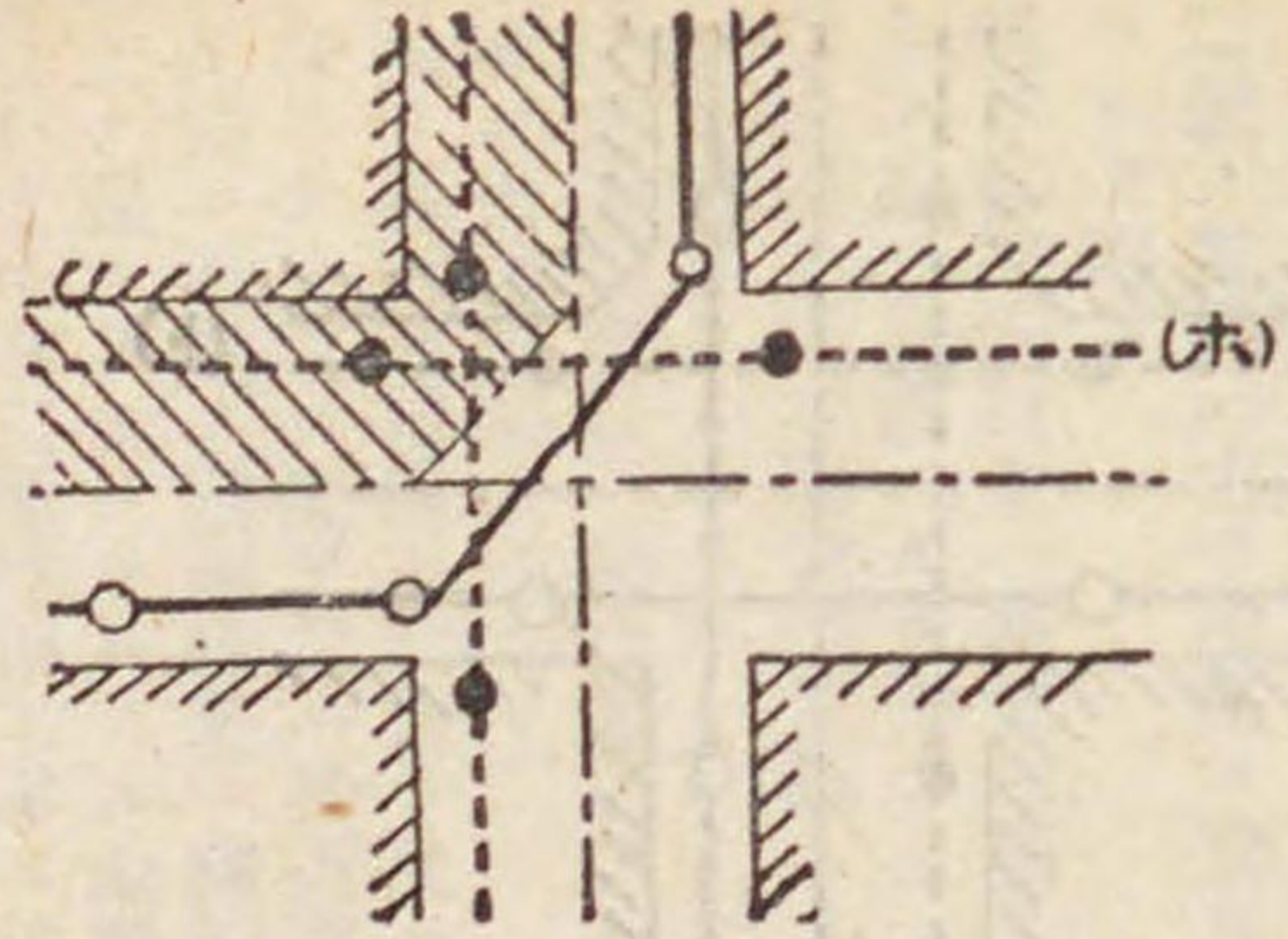
二 特別高壓架空電線路ニ在リテハ建造物、道路、交通類繁ナラザルモ又ハ架空弱電流電線路ヨリ約三百米以內ニ在ル支持物ノ外部ヲ地表上二・五米ノ高サニ於テ縱幅三十種以上赤色ト爲シ且五十米以內ニ在ル支持物ニ左ノ注意札又ハ之ニ類スル標札ヲ掲グルモノ但シ鐵塔ニ在リテハ赤色表示ハ之ヲ省略スルコトヲ得



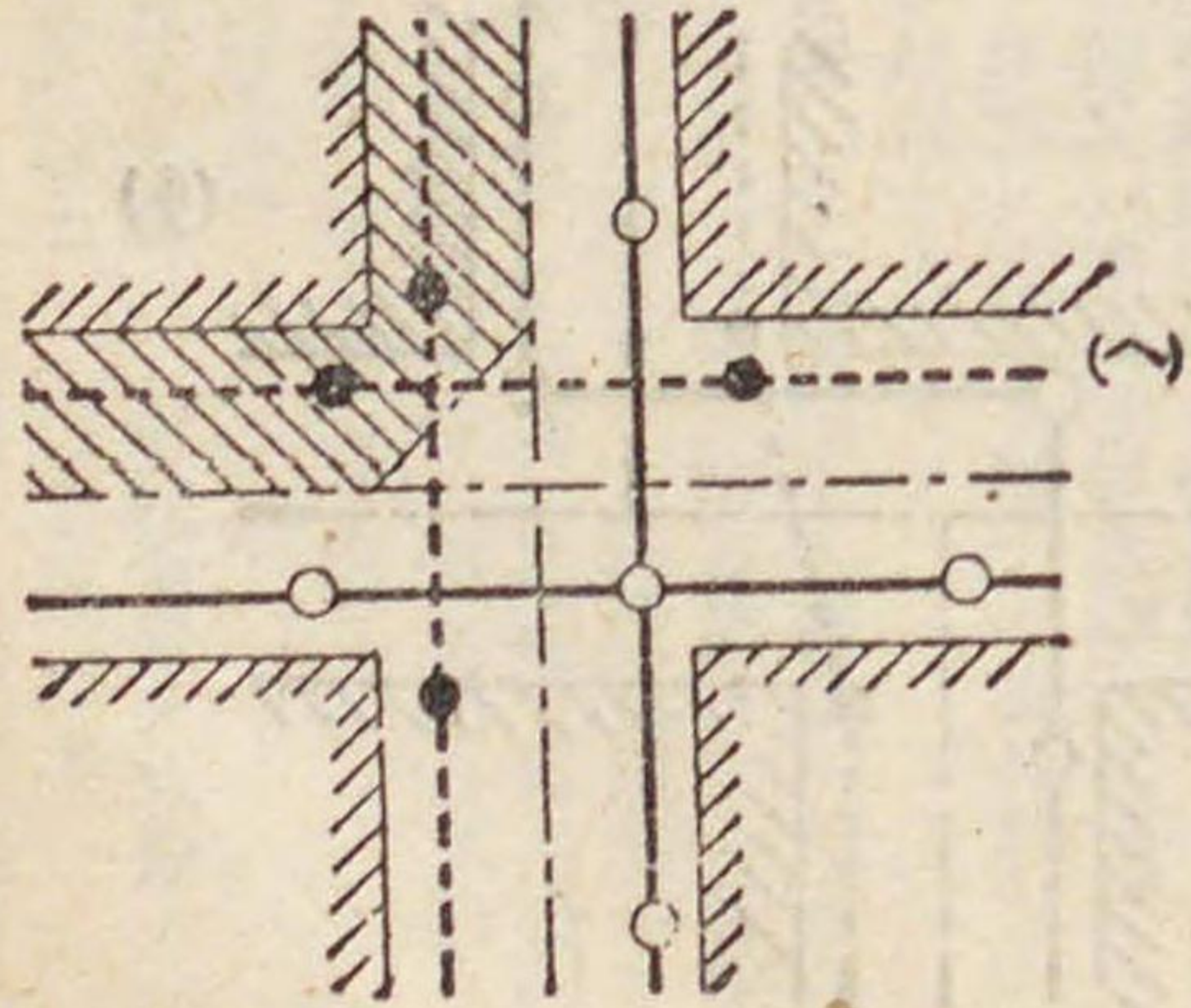
第四十條 架空電線路ニ用フル架空地線ハ高壓電線路ニ在リテハ四耗、特別高壓電線路ニ在リテハ五耗ノ硬銅線若ハ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル裸線ヲ使用スルコトヲ要ス

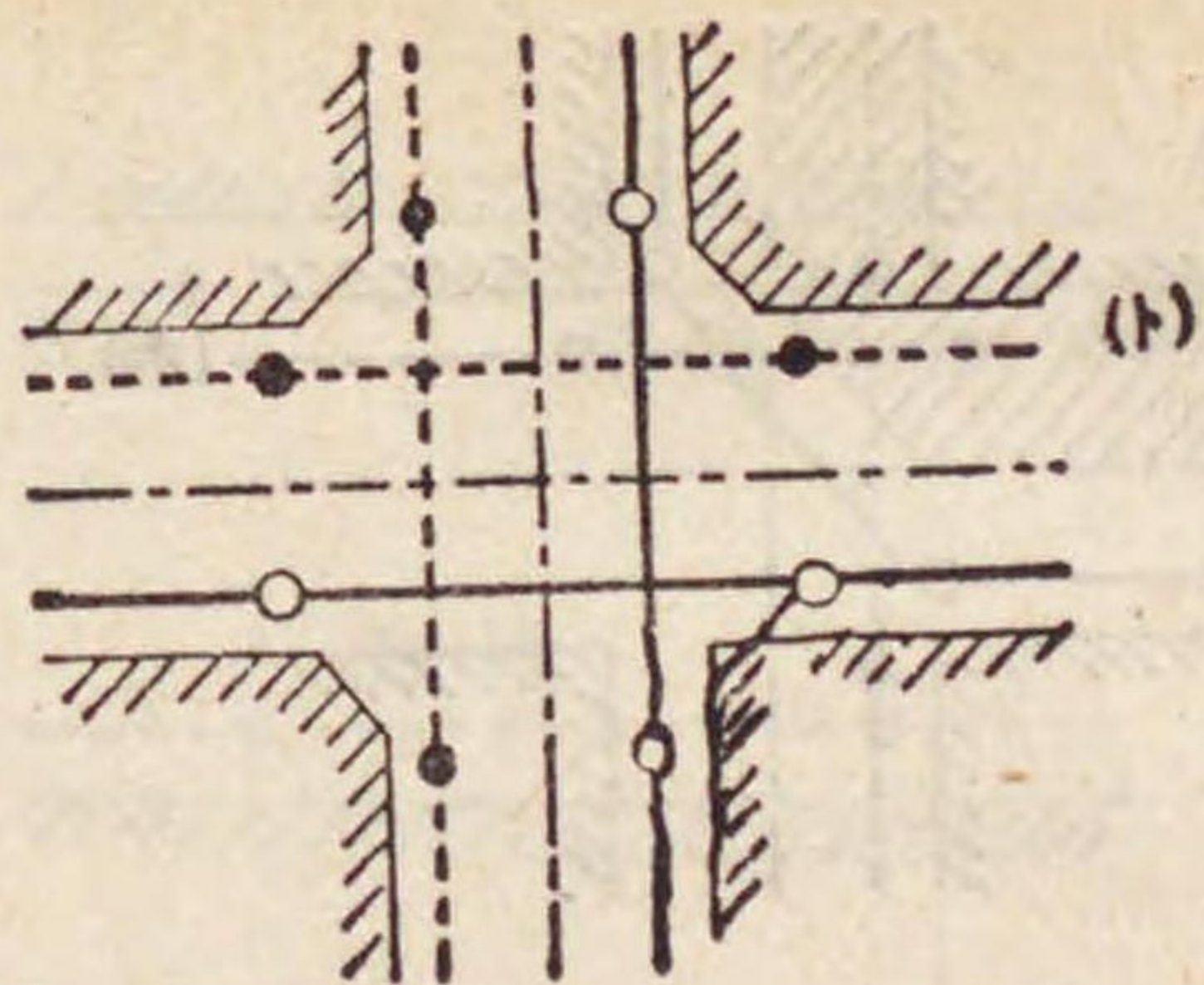


本則第四十條第一項第二號ノ道路ノ兩側ニ跨ラズトハ道路ニ沿ヒ建設スル電線路ノ中心線ガ當

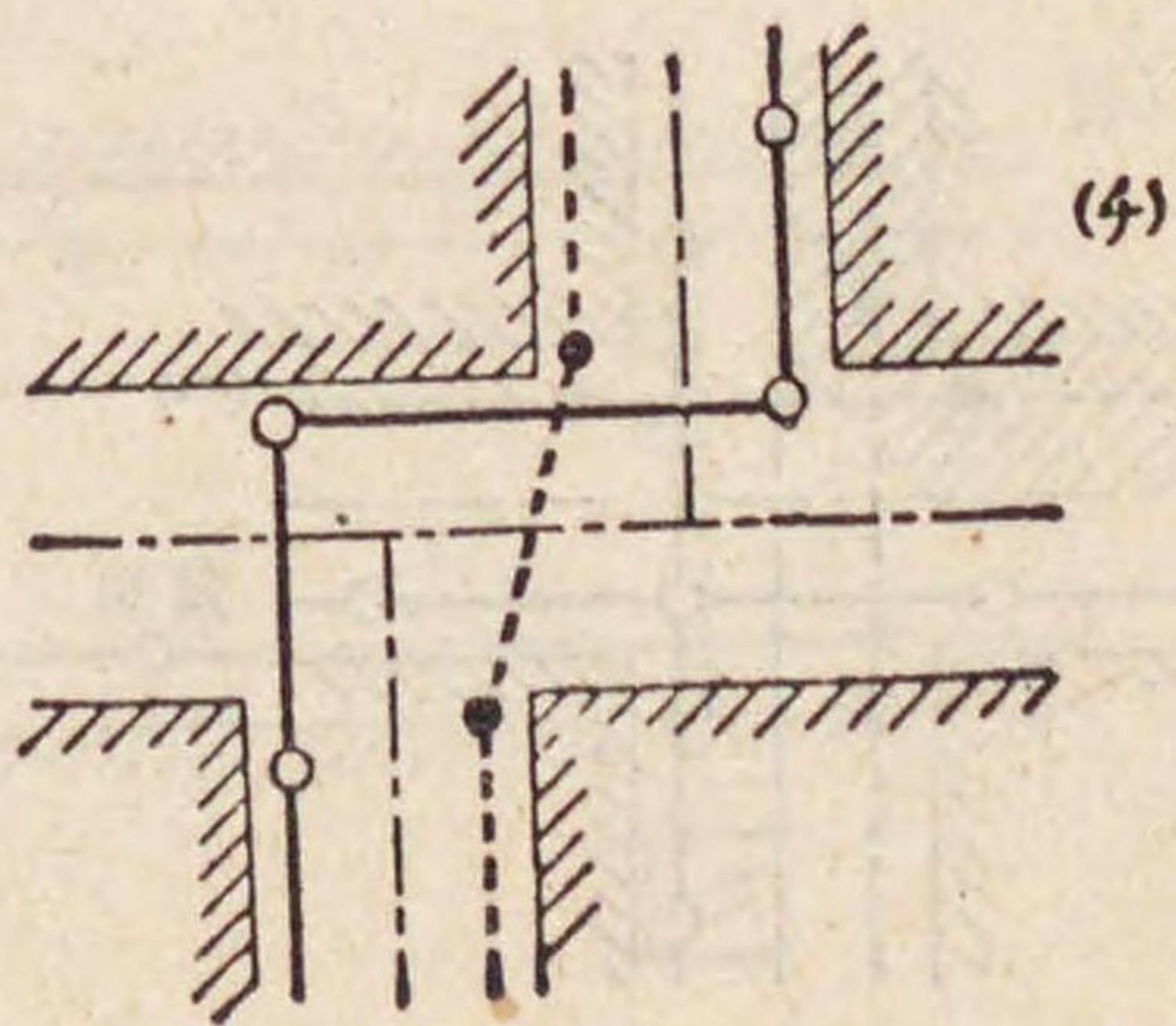


該道路ノ中心線ト交叉セザル様施設スルヲ謂フ道路ノ交叉點ニ於テ電線路ト弱電流電線路及道路中心線トノ關係ハ左圖ニ準ズルモノトス





第四十二條 本則第四十條第一項、第四十二條第一項但書及第四十三條第二項ノ架空引込線ニ隣接スル部分トハ左ノ如キモノヲ謂フ



一 構内専用ノ低壓配電線路ノ電線ニシテ當該構内ノミニ施設シタルモノ
二 配電幹線ヨリ分岐シ架空引込線ニ接續スル電線ニシテ終端ノ引込柱ヨリ長サ六十米以内ノモノ
前項第二號ノ電線ハ之ヲ道路ニ沿ヒ道路上ニ施設スルコトヲ得ズ

第四十三條 本則第四十一條第三項ノ適當ニ施設ストハ左ノ如ク施設スルヲ謂フ

- 一 架空電線ト架空弱電流電線トノ相互間ノ離隔距離ヲ增加スルコト
- 二 交流式架空電線ノ場合ニ於テハ電線ヲ適當ノ距離ニ於テ懸架スルコト
- 三 電線ト弱電流電線ト交叉シ又ハ接近スル場合ニ在リテハ其ノ交叉又ハ接近部分ニ於テ電線相互間ニ四耗ノ硬銅線若ハ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル金屬線二條以上ヲ施設シ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

第四十四條 本則第四十四條第一項但書ノ危險ノ處ナキ様取付ケタル電線トハ左ノ如キモノヲ謂フ

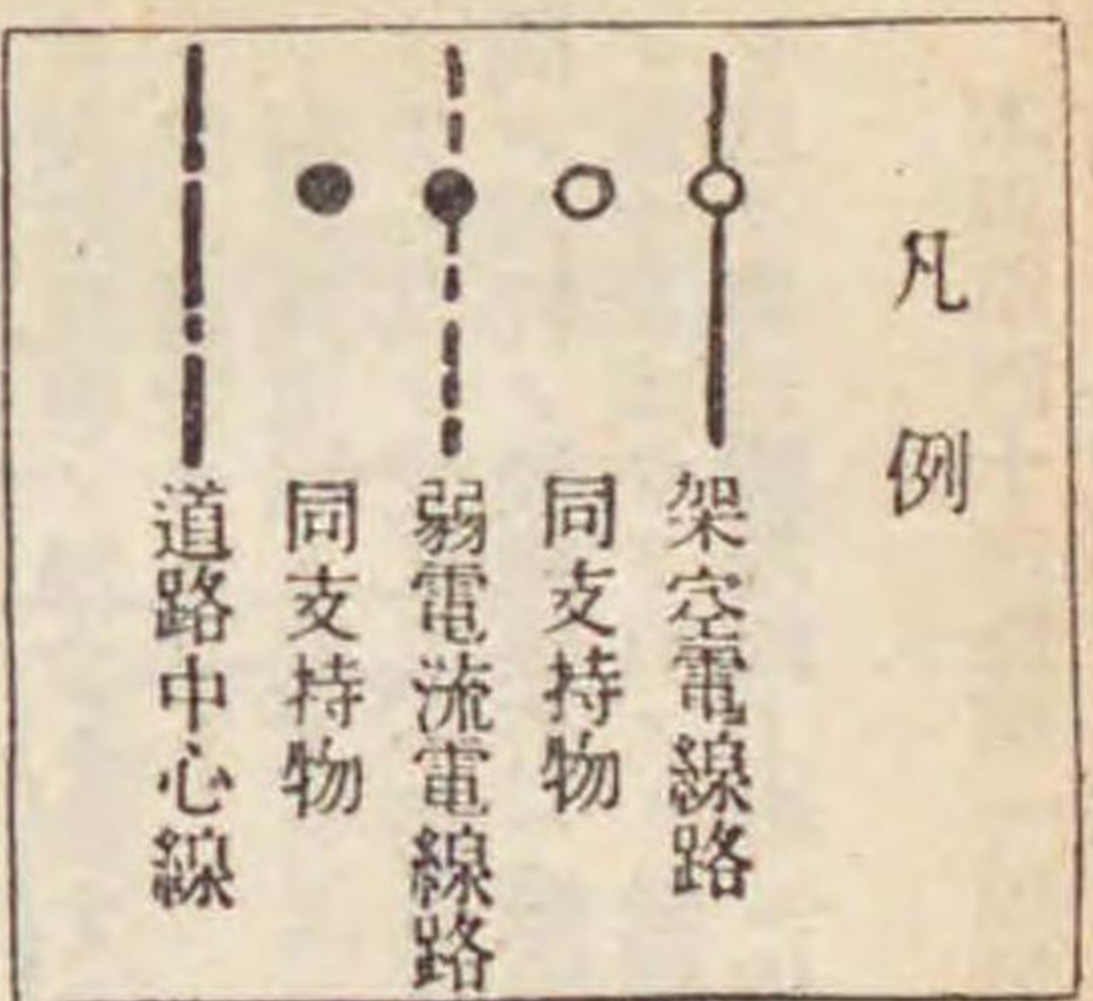
三篇一類三款 電氣工作物規程

一 工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ低壓引込線又ハ之ニ隣接スル部分(細第四十二條)ノ電線ヲ分岐スル爲之ヲ高壓用腕木ニ堅牢ニ取付ケタルモノ
二 配電變壓器ノ高壓側導線ニ二・六耗以上ノ第三種又ハ第四種絕緣銅線ヲ使用シ且低壓電線ト接觸ノ虞ナキ様之ヲ支持物又ハ腕木ニ堅牢ニ取付ケタルモノ

第四十五條 本則第四十六條第一項及第二項、第五十五條第一項第三號及第五十六條第一項第五號ノ堅牢ニ建設ストハ鐵柱及鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ其ノ基礎ヲ特ニ堅固ニシ木柱ニ在リテハ地盤ガ特ニ堅キ場合ヲ除クノ外其ノ根入ヲ左ノ如ク爲スヲ謂フ

- 木柱全長 根 入
 - 十五米未滿 木柱全長ノ六分ノ一以上
 - 十五米以上 二・五米以上
- 水田其ノ他地盤軟弱ナル箇所ニ於テハ堅牢ナル根柵ヲ施スコトヲ要ス

第四十六條 本則第四十八條第一項ノ適當ニ施設



ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

- 一 交叉箇所ニ在リテハ電車線ト交叉ノ場合ヲ除クノ外高壓電線ヲ低壓電線ノ上部ト爲スコト
- 二 工地上已ムヲ得ズ前號ニ依リ難キ場合又ハ低壓電線ガ高壓電線ノ上部ニ於テ並行シ又ハ接近シテ相互間ノ水平距離二・五米以下ナル場合ハ該低壓電線ニ五耗ノ硬銅熱線若ハ四耗ノ第三種絕緣硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スルモノヲ使用スルコト

但シ水平距離一・二米以上ニシテ垂直距離其ノ一・五倍以下ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 三 前號ノ場合ニ於テ低壓電線路支持物ノ強度ハ本則第四十六條第一項ニ準ジ計算シタルモノナルコト但シ木柱ニ在リテハ末口十二糎以上ト爲スコト

第四十七條 本則第五十條但書、第五十四條第二號及第五十五條第一項第五號ノ適當ノ施設トハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

- 一 架空電線ガ架空弱電流電線ノ下部ニ於テ四十五度以下ノ角度ヲ以テ交叉シ又ハ相互間ノ水平距離二・五米以下ナルトキハ架空電線ノ上部ニ保護網ヲ施設スルコト但シ水平距離一・二米以上ニシテ垂直距離其ノ一・五倍以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 架空電線ガ架空弱電流電線ノ下部ニ於テ四十五度ヲ超ユル角度ヲ以テ交叉スルトキハ架空電線ノ上部ニ保護線ヲ施設スルコト
- 三 保護網又ハ保護線ト架空電線又ハ架空弱電流電線トノ垂直距離ハ六十糎以上ト爲スコト但シ保護網又ハ保護線ト架空電線トノ距離ハ

工地上已ムヲ得ザル場合ニ於テハ三十糎迄ニ、保護網又ハ保護線ト架空弱電流電線トノ垂直距離ハ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得テ三十糎迄ニ短縮スルコトヲ得

前項ノ裝置ハ弱電流電線ニ第四種絕緣電線若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スル場合ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十八條 前條第一號ノ保護網ハ第三種地線工事ニ依リ接地シタル鐵線又ハ硬銅線製ノ網狀裝置トシ且左ノ各號ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

- 一 縱線ノ太サ四耗以上 縱線相互ノ間隔一・五米以下
- 二 橫線ノ太サ二・六耗以上 橫線相互ノ間隔一・五米以下
- 三 保護網ガ架空電線ノ外部ニ張出スル幅員ハ保護網ト電線トノ垂直距離ノ二分ノ一以上但シ三十糎以上トス

前項ノ保護網ハ之ヲ運轉頻繁ナル蒸汽鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ硬銅線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ以テ構成スルコトヲ要ス

第四十九條 細則第四十七條第二號ノ保護線ハ第三種地線工事ニ依リ接地シタル二條以上ノ鐵線又ハ硬銅線トシ且左ノ各號ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

- 一 保護線ノ太サ四耗以上
- 二 保護線相互ノ間隔七十五糎以下
- 三 保護線ガ架空電線ノ外部ニ張出スル幅員ハ保護線ト電線トノ垂直距離ノ二分ノ一以上但シ三十糎以上トス

前項ノ保護線ヲ運轉頻繁ナル蒸汽鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ之ニ硬銅線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ使用スルコトヲ要ス

第五十條 本則第五十五條第一項第五號及第五十六條第一項第八號ノ適當ノ施設トハ裸電線ノ兩外線直下部ニ於テ電線ト弱電流電線トノ間ニ第三種地線工事ニ依リ接地シタル五耗以上ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル金屬線ヲ弱電流電線ト六十糎以上ノ距離ヲ保持シテ架設スルヲ謂フ

前項ノ金屬線ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 弱電流電線ニ第四種絕緣電線若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シタル場合

二 裸電線ト弱電流電線トノ垂直距離十米以上ナル場合

三 弱電流電線ノ上部ニ於テ交叉スル二條以上ノ低壓又ハ高壓被覆電線ニ適合スルモノヲ裸電線ノ下部ニ添架シタル場合

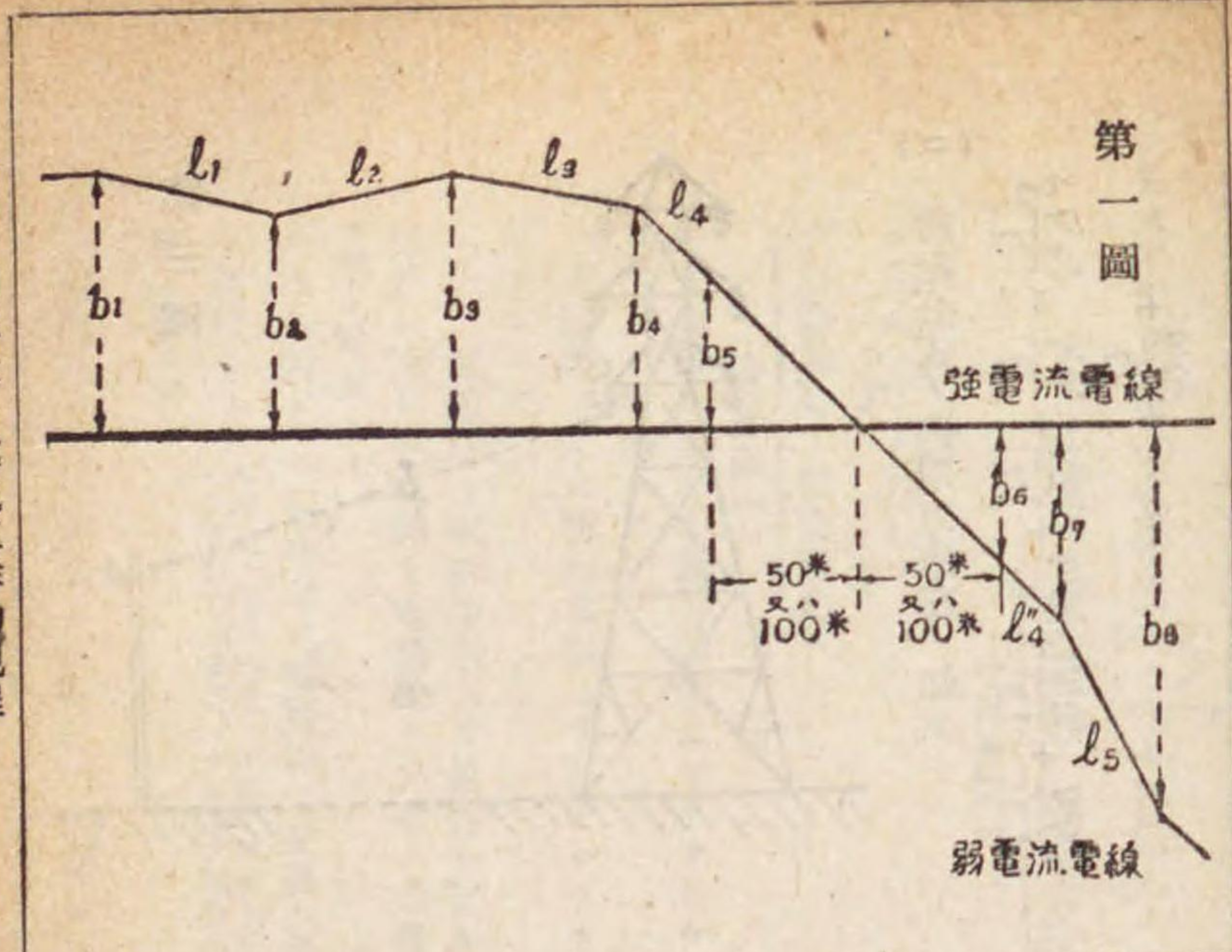
前項ノ金屬線ヲ運轉類繁ナル蒸汽鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ之ニ硬銅線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ使用スルコトヲ要ス

第五十一條 本則第五十六條第一項第三號ノ特殊ノ場合トハ同一母線ニ接続スル同極性ノ架空饋電線ヲ同一腕木上ニ架設スル如キ場合ヲ謂フ

第三節 特別高壓架空電線路

第五十二條 特別高壓架空電線路ハ既設架空電話線路「ケーブル」ニ對シ常時靜電誘導作用ニ因リ通信上ノ障害ヲ及ボサザル爲其ノ使用電壓ニ從ヒ左ノ各號ノ一ニ適合スル樣離隔スルコトヲ要ス

一 最大使用電壓一萬五千ヅオルトヲ超過スル場合



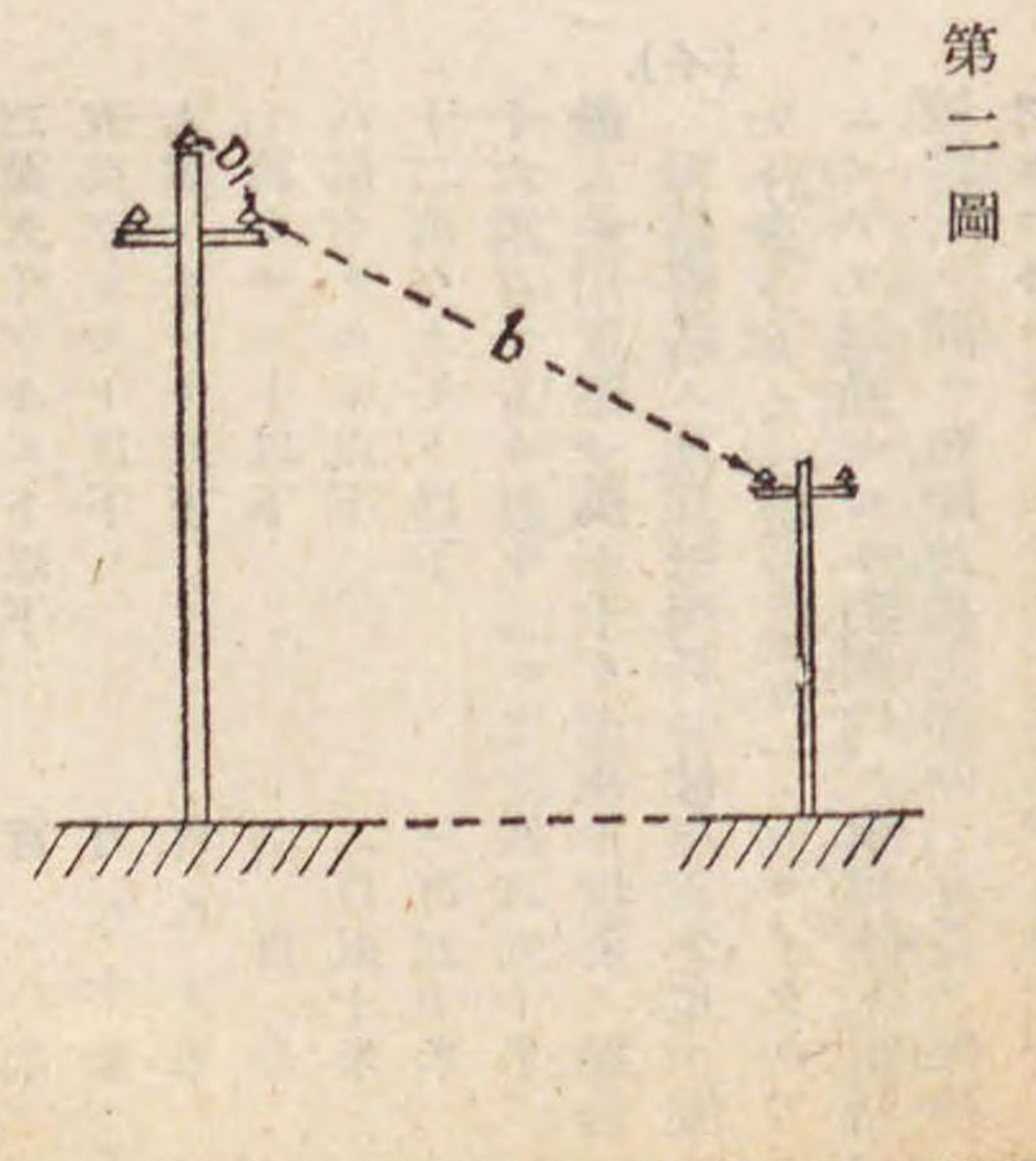
第一圖

三篇一類三款 電氣工作物規程

(イ) 最大使用電壓六萬ヅオルト以下ノ場合ニ在リテハ電話線路ノ互長每十二軒ニ付左ノ公式ニ依リ計算シタル誘導電流ガ二マイクログラムベアヲ超過セザル範圍内ニ、最大使用電壓六萬ヅオルトヲ超過スル場合ニ在リテハ電話線路ノ互長每四十軒ニ付左ノ公式ニ依リ計算シタル誘導電流ガ三マイクログラムベアヲ超過セザル範圍内ニ電線路ト電話線路トノ間ノ距離及接近部分ノ互長ヲ保持スルコト

$$E = VED_1 \times 10^{-3} \left\{ 0.33n + 26 \frac{l_1}{b_1 b_2} \right\}$$

E ハ受話器ニ通ズル誘導電流 (マイクログラムベア) 單位トス
 V ハ電線路ノ最大使用電壓 (千ヅオルト) 單位トス
 D_1 ハ電線路ノ線間距離 (米) 單位トス
 b_1, b_2, b_3 ハ電線ト電話線トノ間ノ距離 (米) 單位トス
 l_1 ハ b_1, b_2 間、 l_2 ハ b_2, b_3 間、 l_3 ハ b_3, b_4 間ノ距離トス



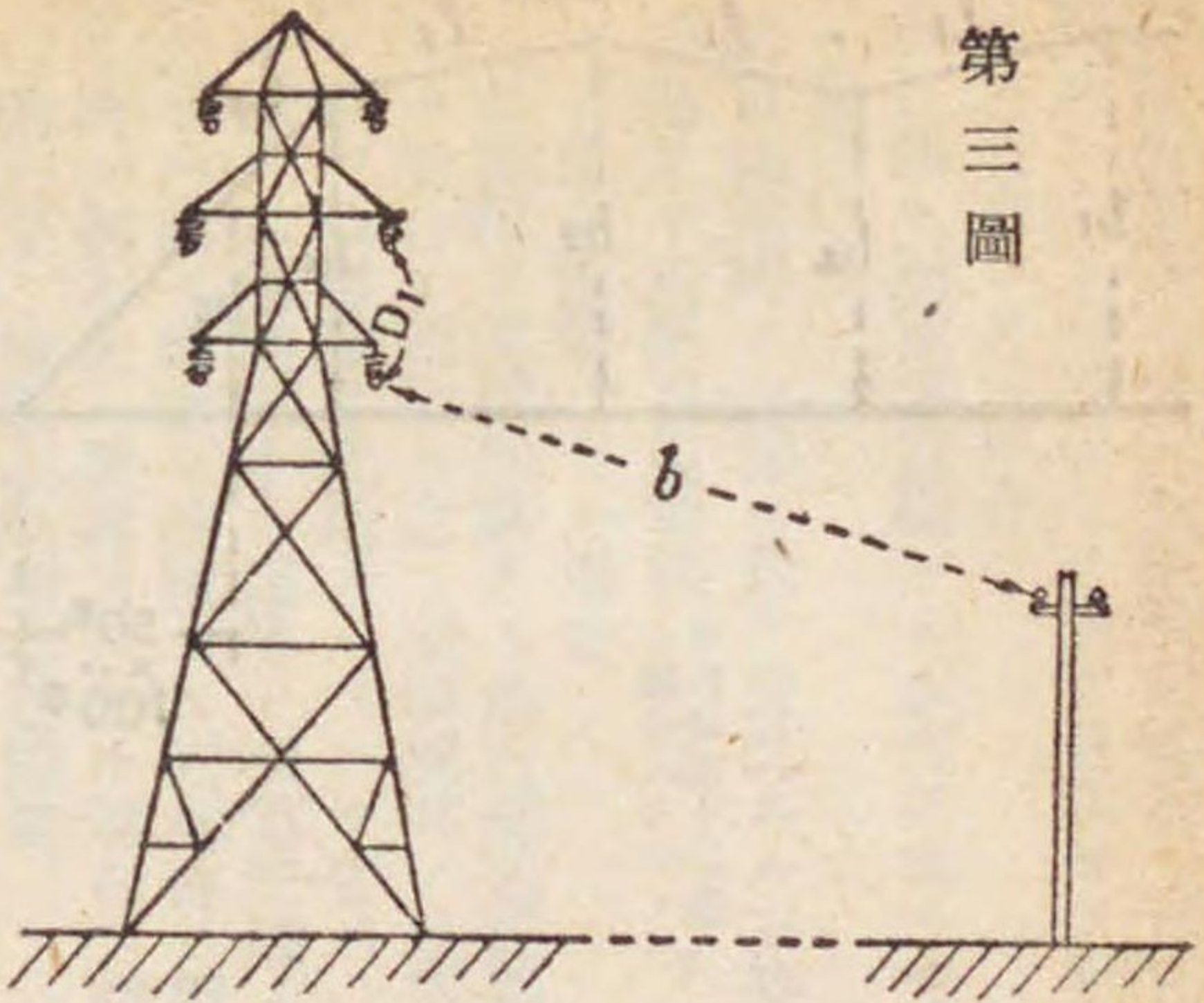
第二圖

電話線路ノ互長 (米) 單位トス

電線路ト交叉スルトキハ最大使用電壓六萬ヅオルト以下ノ場合ニ在リテハ交叉點ノ前後各五十米ノ最大使用電壓六萬ヅオルトヲ超過スル場合ニ在リテハ交叉點ノ前後各百米ノ部分ハ此ノ計算ニ加ハサル

n ハ交叉點ノ數

第三圖



(ロ) 前記公式ノ適用方法左ノ如シ

$$\sum \frac{l_i}{b_1 b_2} = \frac{l_1}{b_1 b_2} + \frac{l_2}{b_2 b_3} + \frac{l_3}{b_3 b_4} + \frac{l_4}{b_4 b_5} + \frac{l_4}{b_5 b_7} + \frac{l_5}{b_7 b_8} + \dots$$

(ハ) 最大使用電壓ノ區別ニ從ヒ既設架空電話線路ト左記ノ距離以上離隔シタル電線路ノ部分ハ本計算ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得

最大使用電壓	電線ト電話線トノ間ノ距離
二萬五千ヴォルト以下	六十米
三萬五千ヴォルト以下	百米
五萬ヴォルト以下	百五十米
六萬ヴォルト以下	百八十米
七萬ヴォルト以下	二百米
八萬ヴォルト以下	二百五十米
十二萬ヴォルト以下	三百五十米
十六萬ヴォルト以下	四百五十米

二 最大使用電壓一萬五千ヴォルト以下ノ場合

(イ) 電話線路ノ互長毎四料ニ付左ノ公式ニ依リ計算シタル誘導電流ガ一・五マイクロアムペアヲ超過セザル範圍内ニ電線路ト電話線路トノ間ノ距離及接近部分ノ互長ヲ保持スルコト

$$V_R = V_K \times 10^{-3} (2.5n + 2.76 \sum \frac{l_i \log \frac{b_2}{b_1}}{b_2 - b_1} + 1.2 \sum \frac{l_i}{b})$$

交叉 不並行部分 並行部分
十五米以上 十五米以下

$$+ 18 \sum \frac{l_i}{b_1 b_2} + 18 \sum \frac{l_i}{b_2}$$

不並行部分 並行部分
十五米以上

ハ受話器ニ通ズル誘導電流 (マイクロアムペア) ヲ單位トス

V_R ハ電線路ノ最大使用電壓 (千ヴォルト) ヲ單位トス

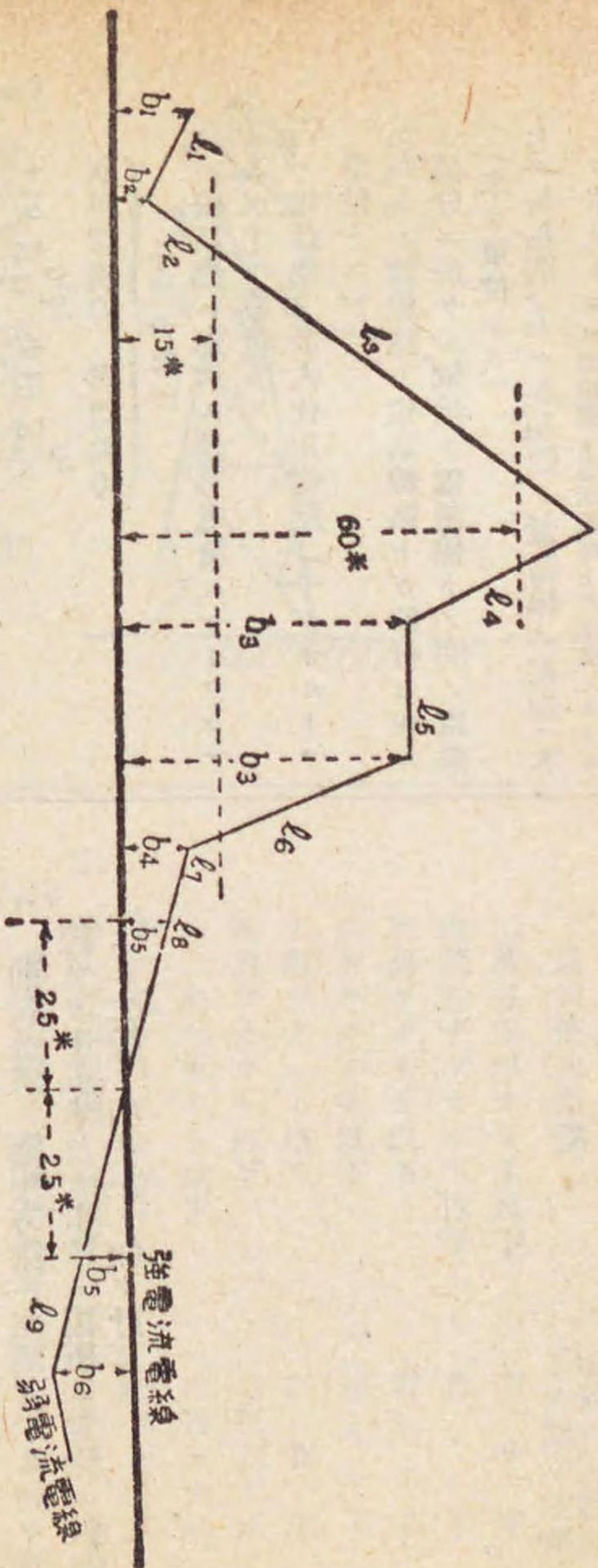
b₁ b₂ b₃ ハ電線路ト電話線路トガ並行セザル部分ニ於ケル電線ト電話線トノ間ノ距離 (米) ヲ單位トス

l₁ ハ b₁ b₂ 間、l₂ ハ b₂ b₃ 間ノ電話線ノ互長 (米) ヲ單位トス
電話線ト電話線路トガ交叉スルトキハ交叉點ノ前後各二十五米ノ部分ハ此ノ計算ニ加ヘザルコト

ハ電線路ト電話線路トガ並行スル部分ニ

(ロ) 於ケル電線ト電話線トノ間ノ距離 (米) ヲ單位トス
ハ電線路ト電話線路トガ並行スル部分ニ於ケル電話線路ノ互長 (米) ヲ單位トス
n ハ交叉點ノ數

(イ) 前記公式ノ適用方法ハ左圖ニ示ス如ク電線ヨリ十五米及六十米ノ箇所ニ電線ニ並行スル二線ヲ引キ左ノ如ク計算ス



コトヲ要ス

第五十四條 本則第六十四條第一項ノ規定ニ依ル電線ノ弛度ハ硬銅線ヲ使用シ且電線ノ兩支持點ニ高低差ナキ場合ハ左表ニ依ルモノトス

第五十五條 本則第六十五條ノ堅牢ニ建設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

- 一 木柱根入ハ地盤ガ特ニ堅キ場合ヲ除クノ外左記ニ依ルコト

木柱全長	根	入
十五米未滿	木柱全長ノ六分ノ一以上	
十五米以上	二・五米以上	

水田其ノ他地盤軟弱ナル箇所ニ於テハ堅牢ナル根柢ヲ施スコト

- 二 電線路ノ直線部分 五度以内ノ角度ヲ有スル部分ヲ含ムニ於ケル木柱ニハ左記ノ支線ヲ電線路ト直角ノ方向ニ於テ其ノ兩側ニ施設シ又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル支柱ヲ設クルコト但シ二萬五千ヅオルト以下ノ電線路ハ此ノ限ニ在ラズ

徑	間	支	線
五十米以下	四柱間以下	每ニ	四耗以上
ナル場合	ノ鐵線	三條	以上

(ハ) 既設架空電話線路ト六十米以上離隔スル特別高壓架空電線路ノ部分ハ本計算ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得

第五十三條 中性點ヲ接地シタル特別高壓架空電線路ハ故障ノ際ニ於ケル地絡電流ノ電磁誘導作用ニ因リ既設架空弱電流電線路ニ對シ通信上ノ障害ヲ及ボサザル様電線路ト弱電流電線路トノ間ヲ充分離隔シ若ハ故障ノ際ニ於ケル地絡電流ヲ制限シ又ハ他ノ適當ナル方法ニ依リ施設スル

$$\frac{l_1 \log \frac{b_2}{b_1}}{b_2 - b_1} = \frac{l_1 \log \frac{b_1}{b_2}}{b_1 - b_2} + \frac{15}{15 - b_2} \frac{l_2 \log \frac{b_1}{b_2}}{b_1 - b_2} + \frac{15}{15 - b_1} \frac{l_7 \log \frac{b_4}{b_3}}{b_4 - b_3} + \frac{l_8 \log \frac{b_4}{b_5}}{b_4 - b_5} + \frac{l_9 \log \frac{b_6}{b_5}}{b_6 - b_5}$$

$$\frac{\sum l_i}{b_1 b_2} = \frac{15 \times 60}{15 \times 60} + \frac{60 \times b_3}{60 \times b_3} + \frac{b_4}{b_3 \times 15} + \frac{l_6}{b_3 \times 15}$$

$$\frac{\sum l}{b^2} = \frac{l}{b^2}$$

$$n = 1$$

安全係數	電線		徑					
	稱呼	撚線構成	40	60	80	100	120	140
2.0	5.0		0.11	0.28	0.59	1.11	—	—
	5.5"		0.11	0.27	0.55	1.00	1.65	2.51
	6.0"		0.11	0.26	0.53	0.92	1.51	2.27
	6.5"		0.11	0.26	0.51	0.88	1.41	2.11
	7.0"		0.11	0.25	0.49	0.83	1.32	1.95
	8.0"		0.11	0.25	0.47	0.78	1.21	1.77
2.0	平方耗 22	7/2.0	0.12	0.30	0.64	1.21	—	—
	30"	7/2.3	0.11	0.28	0.57	1.04	1.72	2.60
	38"	7/2.6	0.11	0.27	0.53	0.93	1.51	2.27
	45"	7/2.9	0.11	0.26	0.50	0.85	1.37	2.04
	55"	7/3.2	0.11	0.25	0.48	0.81	1.27	1.86
	70"	7/3.5	0.10	0.25	0.46	0.78	1.21	1.75
	90"	7/4.0	0.10	0.25	0.45	0.74	1.13	1.62
	110"	7/4.5	0.10	0.24	0.45	0.72	1.08	1.53
	125"	19/2.9	0.10	0.24	0.44	0.71	1.07	1.52
	150"	19/3.2	0.10	0.24	0.43	0.70	1.04	1.45
	180"	19/3.5	0.10	0.24	0.42	0.69	1.01	1.42
	240"	19/4.0	0.10	0.23	0.42	0.68	0.99	1.37
	300"	19/4.5	0.10	0.23	0.42	0.67	0.97	1.35
	2.5	125"	19/2.9	0.13	0.31	0.58	0.96	1.46
150"		19/3.2	0.13	0.31	0.56	0.93	1.40	1.96
180"		19/3.5	0.13	0.30	0.56	0.91	1.36	1.91
240"		19/4.0	0.13	0.30	0.55	0.88	1.31	1.82
300"		19/4.5	0.13	0.30	0.53	0.86	1.28	1.76

間 (米)							
160	180	200	220	240	260	280	300
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
3.16	—	—	—	—	—	—	—
2.95	3.97	—	—	—	—	—	—
2.74	3.66	4.70	—	—	—	—	—
2.46	3.27	4.22	5.27	6.44	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
3.17	4.26	—	—	—	—	—	—
2.85	3.82	4.92	6.15	—	—	—	—
2.61	3.48	4.49	5.62	6.86	8.21	9.69	11.29
2.43	3.23	4.17	5.21	6.36	7.62	9.00	10.46
2.23	2.95	3.78	4.72	5.76	6.91	8.14	9.47
2.08	2.74	3.50	4.36	5.31	6.36	7.50	8.72
2.04	2.67	3.41	4.24	5.16	6.14	7.27	8.46
1.96	2.56	3.25	4.02	4.88	5.84	6.88	7.99
1.90	2.48	3.13	3.89	4.68	5.59	6.58	7.64
1.83	2.42	2.98	3.69	4.44	5.28	6.21	7.19
1.78	2.31	2.89	3.57	4.28	5.08	5.95	6.90
2.84	3.67	4.68	5.73	6.94	8.21	9.61	11.14
2.67	3.47	4.38	5.39	6.50	7.72	9.02	10.48
2.58	3.35	4.22	5.20	6.26	7.43	8.69	10.00
2.44	3.15	3.96	4.87	5.85	6.94	8.11	9.41
2.36	3.05	3.80	4.65	5.59	6.62	7.74	8.97

(一) 氷雪多カラザル地方(最低温度、無荷重)

硬銅線弛度表

安全係數	電線		徑						
	稱呼	線構成	40	60	80	100	120	140	
2.0	5.0		0.14	0.53	1.41	2.63	—	—	
	5.5"		0.13	0.41	1.06	2.09	3.36	4.84	
	6.0"		0.12	0.34	0.85	1.64	2.72	4.00	
	6.5"		0.12	0.32	0.71	1.40	2.35	3.50	
	7.0"		0.11	0.29	0.63	1.20	2.01	3.01	
	8.0"		0.11	0.27	0.54	0.98	1.60	2.45	
2.0	平方耗 22	7/2.0	0.14	0.49	1.30	2.47	—	—	
		30"	7/2.3	0.13	0.36	0.89	1.76	2.88	4.25
		38"	7/2.6	0.12	0.30	0.66	1.27	2.09	3.19
		45"	7/2.9	0.11	0.28	0.59	1.09	1.82	2.76
		55"	7/3.2	0.11	0.27	0.53	0.95	1.56	2.34
		70"	7/3.5	0.11	0.26	0.50	0.87	1.40	2.07
		90"	7/4.0	0.11	0.25	0.47	0.79	1.23	1.80
		110"	7/4.5	0.11	0.25	0.45	0.75	1.14	1.64
		125"	19/2.9	0.11	0.25	0.45	0.74	1.12	1.60
		150"	19/3.2	0.10	0.24	0.43	0.71	1.07	1.50
		180"	19/3.5	0.10	0.24	0.43	0.70	1.04	1.45
		240"	19/4.0	0.10	0.24	0.42	0.68	1.01	1.40
	300"	19/4.5	0.10	0.23	0.42	0.67	0.98	1.36	
2.5		125"	0.13	0.32	0.60	1.01	1.55	2.21	
		150"	0.13	0.31	0.58	0.96	1.46	2.07	
		180"	0.13	0.31	0.56	0.92	1.40	1.97	
		240"	0.13	0.30	0.55	0.89	1.34	1.86	
		300"	0.13	0.30	0.54	0.87	1.30	1.80	

間 (米)							
160	180	200	220	240	260	280	300
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
5.33	—	—	—	—	—	—	—
4.88	6.43	—	—	—	—	—	—
4.25	5.63	7.17	—	—	—	—	—
3.41	4.55	5.86	7.28	8.85	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
4.44	5.88	—	—	—	—	—	—
3.86	5.15	6.59	8.18	—	—	—	—
3.30	4.42	5.68	7.08	8.62	10.30	12.10	14.05
2.91	3.90	5.04	6.30	7.68	9.20	10.82	12.60
2.50	3.33	4.29	5.37	6.56	7.86	9.26	10.78
2.25	2.98	3.83	4.79	5.83	7.00	8.25	9.61
2.16	2.86	3.66	4.56	5.56	6.66	7.86	9.15
2.04	2.68	3.41	4.24	5.17	6.16	7.29	8.48
1.96	2.56	3.24	4.03	4.88	5.83	6.87	7.99
1.87	2.42	3.07	3.80	4.59	5.46	6.43	7.46
1.81	2.35	2.95	3.65	4.39	5.21	6.10	7.09
3.06	4.00	5.02	6.18	7.47	8.87	10.40	12.07
2.80	3.67	4.62	5.71	6.89	8.17	9.58	11.12
2.66	3.47	4.38	5.39	6.50	7.71	9.02	10.48
2.51	3.24	4.09	5.02	6.05	7.12	8.39	9.74
2.41	3.10	3.94	4.77	5.74	6.80	7.94	9.22

(二) 冰雪多キ地方(最低温度、無荷重)

五十米ヲ超 三柱間以下毎ニ四耗以上
 過スル場合 ノ鐵線五條以上
 三 電線路ノ直線部分 有スル部分ヲ含ムニ於ケル
 木柱ニハ左記ノ支線ヲ電線路ノ方向ニ於テ其
 ノ兩側ニ設クルコト

第五十六條

特別高壓架空電線路ニ用フル鐵柱、
 鐵塔及鐵筋「コンクリート」柱ハ左ノ五種トス
 一 標準型 標準鐵柱、標準鐵塔又ハ標準鐵筋
 「コンクリート」柱、以下之ニ做フ 電線路
 電線路ノ支持物

一 鐵塔

最大使用電壓六萬ヴォルト以上ニシテ電
 線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平
 方耗以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リ
 テハ百五十平方耗以上ノ場合ニ限ル

二 可撓鐵塔

三 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱

四 可撓鐵柱

第五十八條 本則第六十八條第一項ノ適當ニ建設

ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
 一 二萬五千ヴォルトヲ超過スル電線路ノ木
 柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ四耗
 以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線ヲ電線路ト
 直角ノ方向ニ設クルコト但シ木柱ノ場合ニ在
 リテハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル支柱ヲ施
 設シ、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ場合
 ニ在リテハ第一種耐張型ノモノヲ用ヒテ本號
 ノ支線ヲ省略スルコトヲ得
 二 腕木ニハ堅牢ナル金屬製ノモノヲ使用シ且
 之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト
 三 「ピン」碍子ヲ直接木柱ニ取付クル場合ニ於
 テハ「ピン」ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スル
 コト
 第五十九條 本則第六十九條第一項ノ適當ニ施設
 ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
 一 建造物ト接近シ又ハ其ノ上部ヲ架渉スル場
 合
 (イ) 木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ

ノ直線部分ニ於テ標準徑間ヲ超過セザル箇所
 ニ使用スルモノ

二 角度型 電線路中角度ヲ爲シ標準徑間ヲ超
 過セザル箇所ニ使用スルモノ

三 耐張型 電線路中ニ保安ノ爲耐張用トシテ
 使用スルモノ

四 引留型 電線路ノ終端等ニ於テ完全ナル引
 留ヲ爲ス箇所ニ使用スルモノ

五 特殊型 電線路中川越、谷越等徑間大ナル
 箇所其ノ他特殊ノ箇所ニ使用スルモノ

第五十七條 鐵柱、鐵塔及鐵筋「コンクリート」柱
 ニ依ル特別高壓架空電線路中ニハ左記ニ依リ耐
 張型支持物ヲ建設スルコトヲ要ス

第二種耐張鐵塔

三耗以下

第三種耐張鐵塔

一・五耗以下

第一種耐張鐵塔、第一種耐
 張鐵柱又ハ第一種耐張鐵筋

一耗以下

第二種耐張鐵塔、第二種耐
 張鐵柱又ハ第二種耐張鐵筋

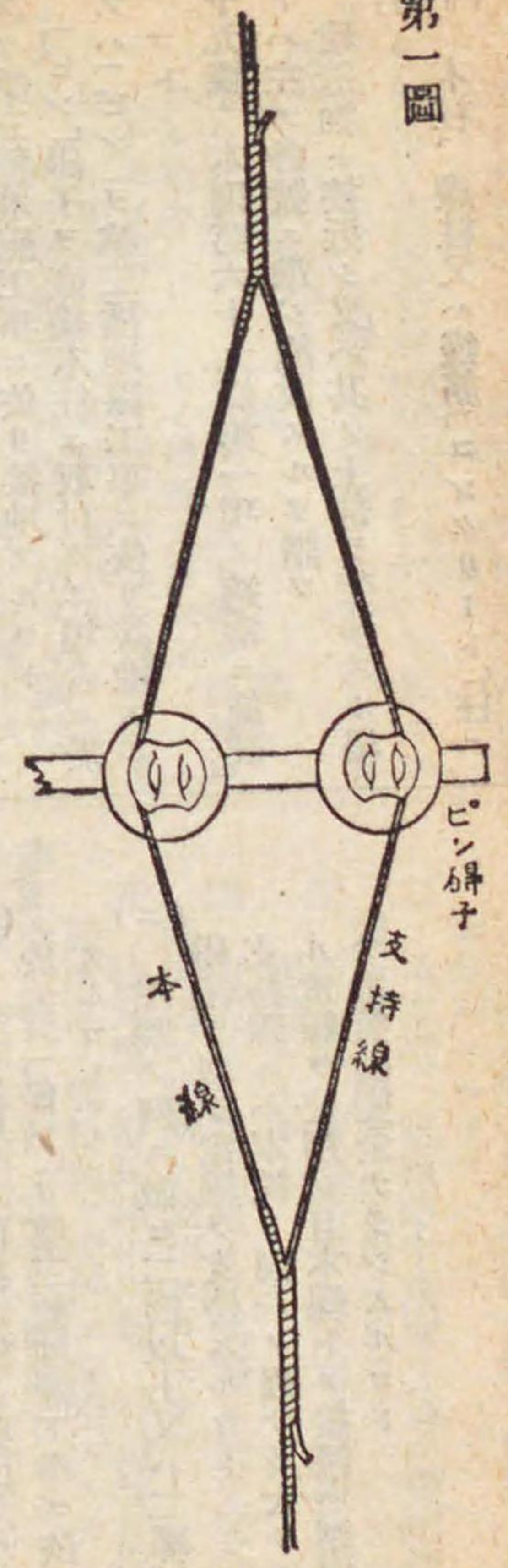
七百米以下

ハ四耗以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線ヲ
 支持物ト建造物トノ關係位置ニ從ヒ電線路
 ノ方向又ハ之ト直角ノ方向ニ設クルコト但
 シ木柱ノ場合ニ在リテハ之ト同等以上ノ強
 サヲ有スル支柱ヲ施設シ鐵柱又ハ鐵筋「コ
 ンクリート」柱ノ場合ニ在リテハ第一種耐
 張型ノモノヲ用ヒテ本號ノ支線ヲ省略スル
 コトヲ得

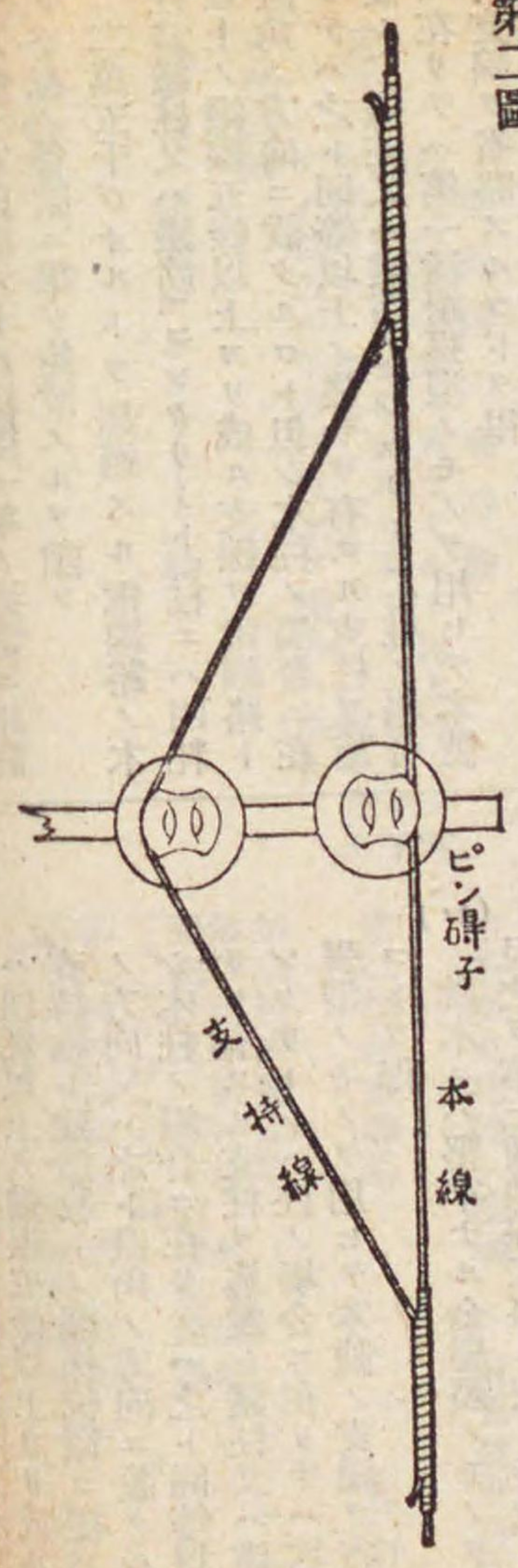
(ロ) 腕木ニハ堅牢ナル金屬製ノモノヲ使用シ
 且之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト
 (ハ) 「ピン」碍子ヲ直接木柱ニ取付クル場合ニ
 於テハ「ピン」ヲ第三種地線工事ニ依リ接地
 スルコト

(ニ) 左圖ノ例ニ做ヒ二箇以上又ハ二聯以上ノ
 碍子ヲ以テ電線ヲ支持スルコト
 支持線ニハ本線ト同一ノ強サ及太サヲ有ス
 ル電線ヲ使用シ且本線トノ接續ハ堅牢ニシ
 テ電氣的完全ナラシムルコト

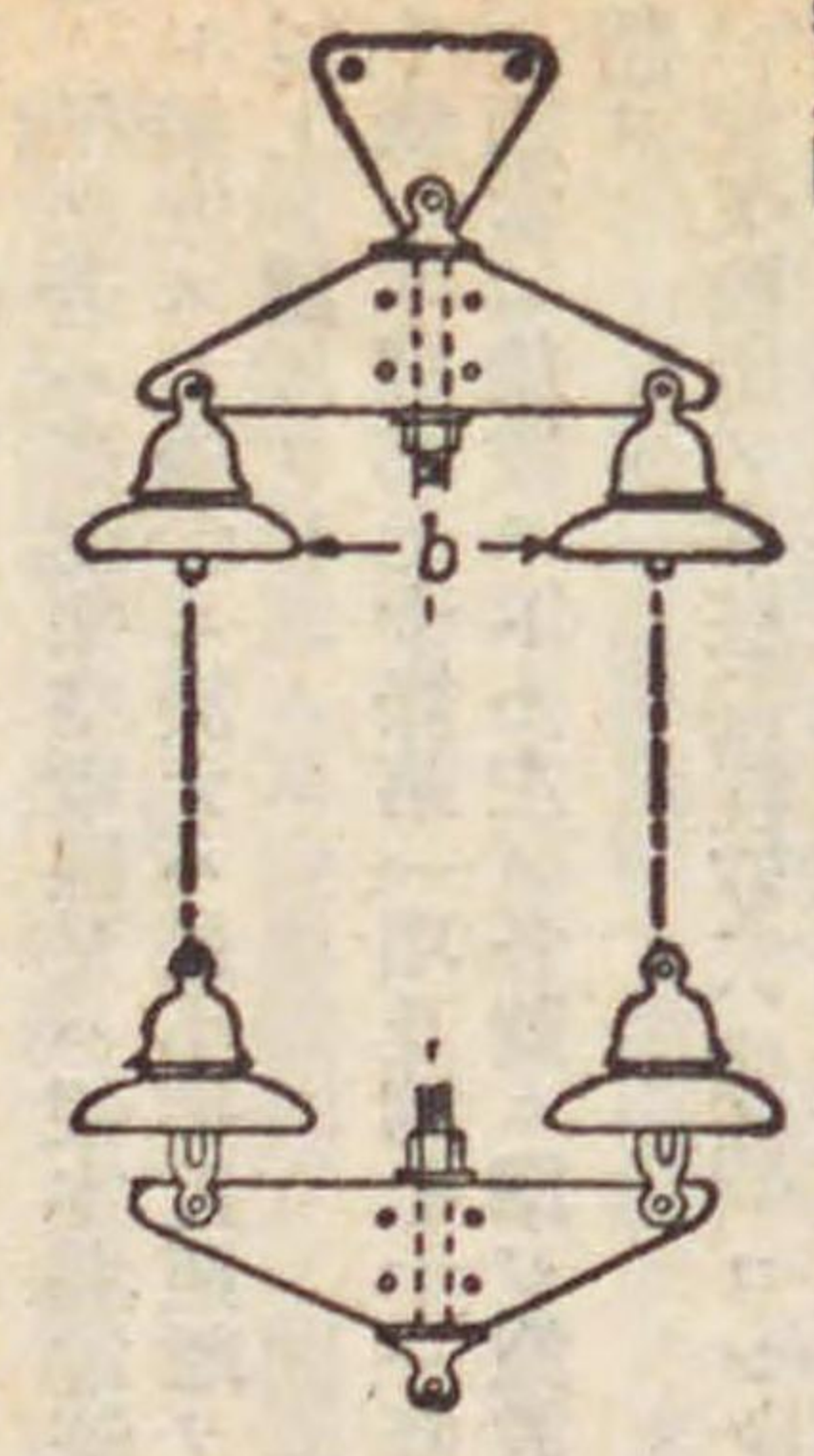
第一圖



第二圖

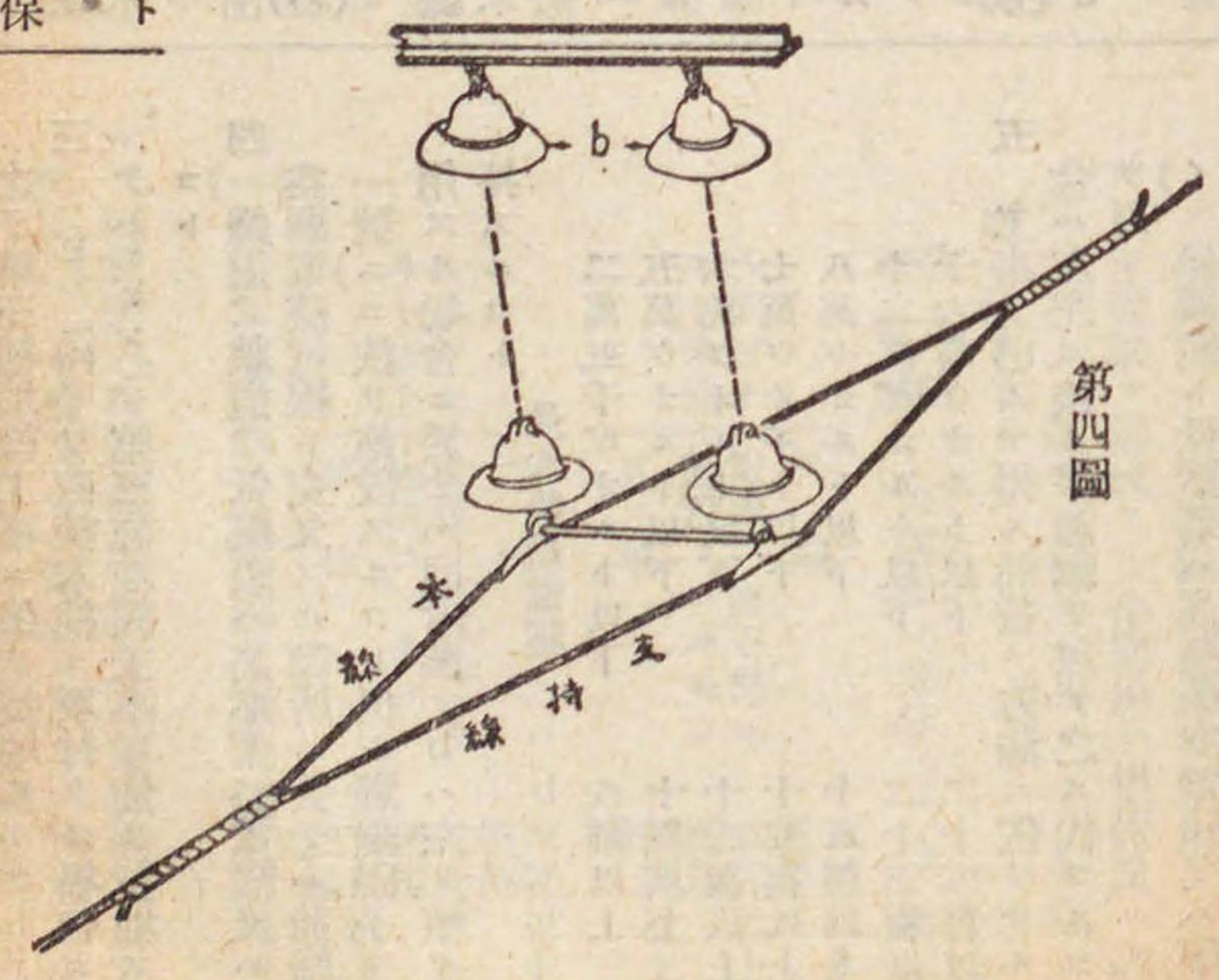


第三圖



懸垂碍子ノ場合ニハ前圖ノbハ八厘以上ト
為スコト
(ホ) 電線ト建造物トハ常ニ左ノ離隔距離ヲ保

第四圖



持スルコト

一 萬五千ヴオルト以下ノモノハ三米以上
一 萬五千ヴオルトヲ超過スルモノハ五米
以上

二 道路、鐵道又ハ軌道ニ接近シ又ハ道路ニ沿
ヒ道路上ニ建設スル場合ニ於テハ前號(ロ)、(ハ)
及ニ依ルコト

三 低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線
ト接近スル場合ニ於テハ最小接近距離ヲ二米
以上ト爲スコト

第六十條 本則第七十條第一項及第七十一條第一
項ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スル
ヲ謂フ

- 一 交叉箇所ノ木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリー
ト」柱ニハ四耗以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル
支線ヲ電線路ノ方向ニ設クルコト但シ木柱ノ
場合ニ在リテハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル
支柱ヲ施設シ鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱
ノ場合ニ在リテハ第一種耐張型支持物ヲ用ヒ
テ本號ノ支線ヲ省略スルコトヲ得
- 二 腕木ニハ堅牢ナル金屬製ノモノヲ使用シ且

弱電流電線トノ垂直距離ハ六十糎以上ト爲
スコト

(ロ) 保護網ガ下部ノ電線又ハ弱電流電線ノ外
部ニ張出スル幅員ハ下部ノ電線又ハ弱電流
電線トノ垂直距離ノ二分ノ一以上ト爲スコ
ト

(ハ) 保護網ガ特別高壓電線ノ外部ニ張出スル
幅員ハ各特別高壓電線ト保護網トノ垂直距
離ノ二分ノ一以上ト爲スコト但シ十米ヲ超
過スルコトヲ要セズ

(ニ) 保護網ヲ構成スル金屬線相互ノ間隔ハ縱
横各一・五米以下ト爲スコト

特別高壓電線ト下部ノ電線又ハ弱電流電線
トガ四十五度ヲ超ユル角度ヲ以テ交叉スル
場合ニ限リ特別高壓電線ト同一方向ノ金屬
線ハ兩外線及特別高壓電線ノ兩外線ノ直下
部ニ施設スルモノヲ除クノ外之ヲ省略スル
コトヲ得此ノ場合ニ於テ特別高壓電線ノ直
下部ニ施設スベキ金屬線ト保護網ノ兩外線
トノ間隔ガ一・五米以下ナルトキハ直下部

之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト
三 「ピン」碍子ヲ直接木柱ニ取付クル場合ニ於
テハ「ピン」ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スル
コト

四 鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架
空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ前條第
一號ニ依リ施設スルコト但シ懸垂碍子ヲ使
用スル場合ニ於テハ同附圖ノbハ左ノ値ヲ保
持スルコト

最大使用電壓

b

- 二 萬五千ヴオルト以下 八糎以上
 - 五 萬ヴオルト以下 十糎以上
 - 六 萬ヴオルト以下 十三糎以上
 - 七 萬ヴオルト以下 十五糎以上
 - 八 萬ヴオルト以下 十八糎以上
 - 十二 萬ヴオルト以下 二十三糎以上
 - 十六 萬ヴオルト以下 二十五糎以上
- 五 工事上已ムヲ得ズ前號ノ方法ニ依ラザル場
合ハ左記ニ依ル保護網ヲ以テ之ニ代フルコト
ヲ得
- (イ) 保護網ト低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空

ニ施設スベキ金屬線ヲ省略スルコトヲ得
(ホ) 保護網ヲ構成スル金屬線ハ鐵線又ハ之ト
同等以上ノ強サヲ有スルモノニシテ左ノ制
限ニ依ルコト

最大使用電壓 保護網ノ部分 金屬線

外線	五耗以上ノ 撚線
八萬ヴオ ルト未満	五耗以上ノ 撚線
其ノ他	四耗以上ノ 線

外線	八耗以上ノ 撚線
八萬ヴオ ルト以上	五耗以上ノ 撚線
其ノ他	五耗以上ノ 撚線

(ヘ) 保護網ハ第一種地線工事ニ依リ接地スル
コト
六 低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線
「ケーブル」ト交叉スル箇所ニ於テハ特別高壓電
線ノ兩外線ノ直下部ニ於テ電線相互間ニ第三

種地線工事ニ依リ接地シタル五耗以上ノ鐵撚線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル撚線ヲ架設シ下部ノ電線又ハ弱電流電線ト六十種以上ノ距離ヲ保持シテ施設スルコト但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ金屬線ヲ省略スルコトヲ得

(イ) 下部ノ電線又ハ弱電流電線ガ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノナルトキ

(ロ) 特別高壓電線ト下部ノ電線又ハ弱電流電線トノ垂直距離十米以上ナルトキ

(ハ) 第五號ノ保護網ヲ施設シタルトキ
前項第五號ノ保護網及第六號ノ金屬線ハ之ヲ運轉頻繁ナル蒸氣鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ硬銅線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ以テ構成スルコトヲ要ス

第六十一條 本則第七十三條第一項但書ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 特別高壓電線ニハ撚線ヲ使用シ之ヲ低壓又ハ高壓電線ノ上部ト爲スコト

第六十三條

本則第九十五條第二號ノ適當ニ施設ストハ電話線ト他ノ特別高壓架空電線トノ間ニ他ノ金屬線介在セザル場合ニ於テ電話線ニ五耗ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルヲ謂フ

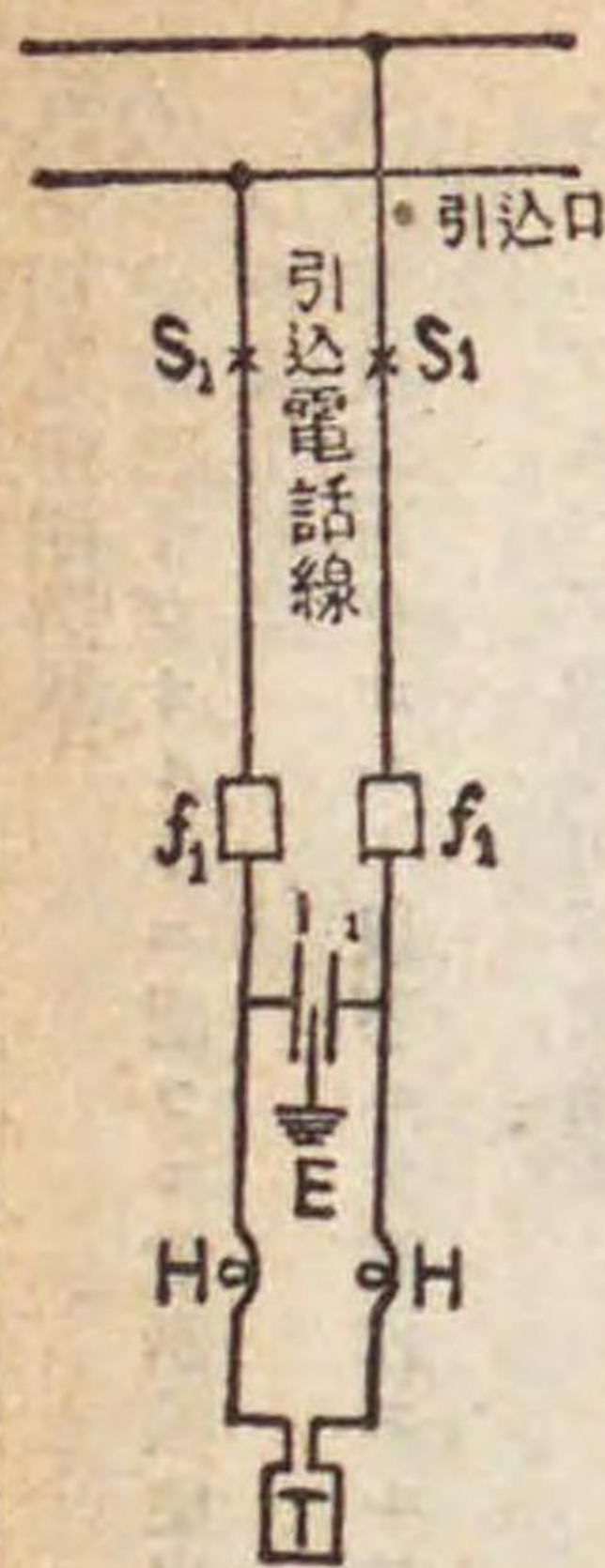
第六十四條

本則第九十六條但書ノ特殊ノ施設トハ左ノ各號ノ一ニ準ズルモノヲ謂フ

一 添架電話線又ハ之ニ直接接続スル電話線ト市街地ニ於ケル電話線トノ接続點ニ細則第六十五條第二號ノ乙種保安裝置ヲ施シ其ノ中繼線輪ノ二次側ニ電話線ヲ接続スルモノ

第六十五條

本則第九十八條第一項ノ適當ナル保安裝置トハ左ニ掲グル如キモノヲ謂フ
一 架空電線ガ低壓又ハ高壓電線ナル場合



三篇一類三款 電氣工作物規程

二 添架シタル低壓又ハ高壓電線ニハ左ノ電線ヲ使用スルコト

(イ) 徑間五十米以下ナルトキハ四耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノ

(ロ) 徑間五十米ヲ超過スルトキハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノ

三 特別高壓電線ト添架電線トノ間隔ハ一・二米以上ト爲スコト

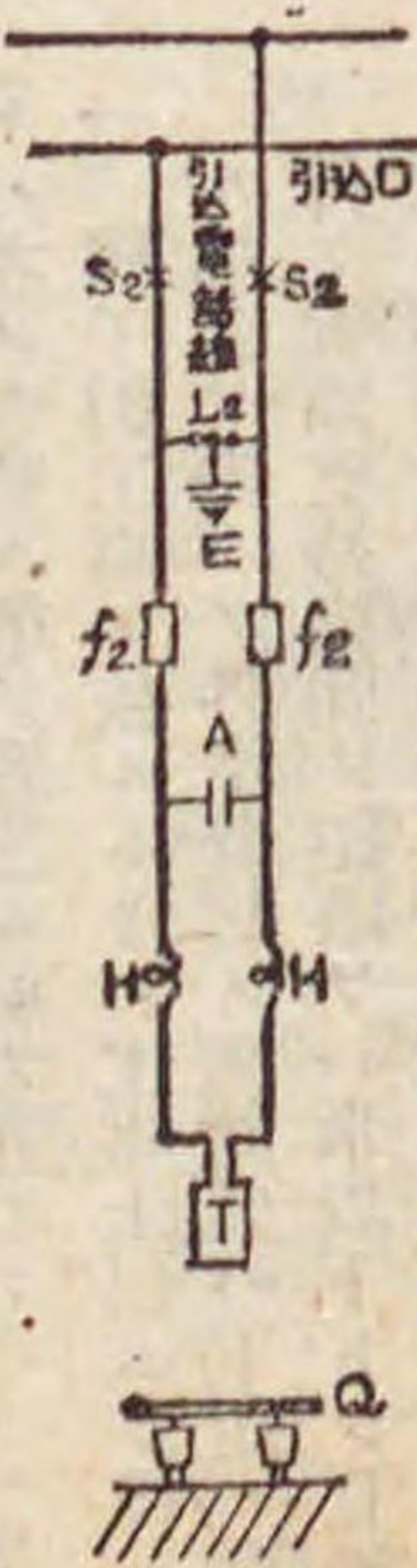
四 添架電線ニハ其ノ電路ノ中性點又ハ一電線ニ本則第二十七條第一項若ハ第二項ニ準ズル保安裝置又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ設備スルコト但シ該電線ガ單線式電氣鐵道ノ場合ノ如ク大地ヨリ絶緣セラレザルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四節 保安通信設備

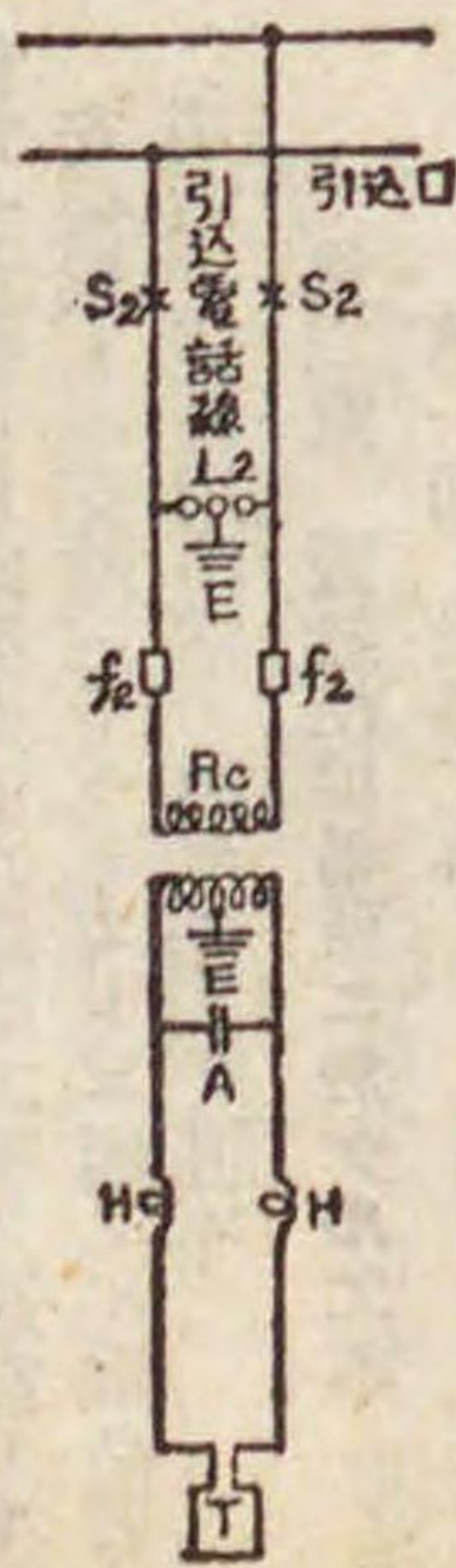
第六十二條 本則第九十二條ノ特殊ノ場合トハ電話線ガ「ケーブル」線ナル場合又ハ第四種絶緣電線ト同等以上ノ效力ヲ有スル電話線ヲ二・六耗以上ノ鐵線ヲ以テ吊架スルガ如キ場合ヲ謂フ

二 架空電線ガ特別高壓電線ナル場合

甲種保安裝置



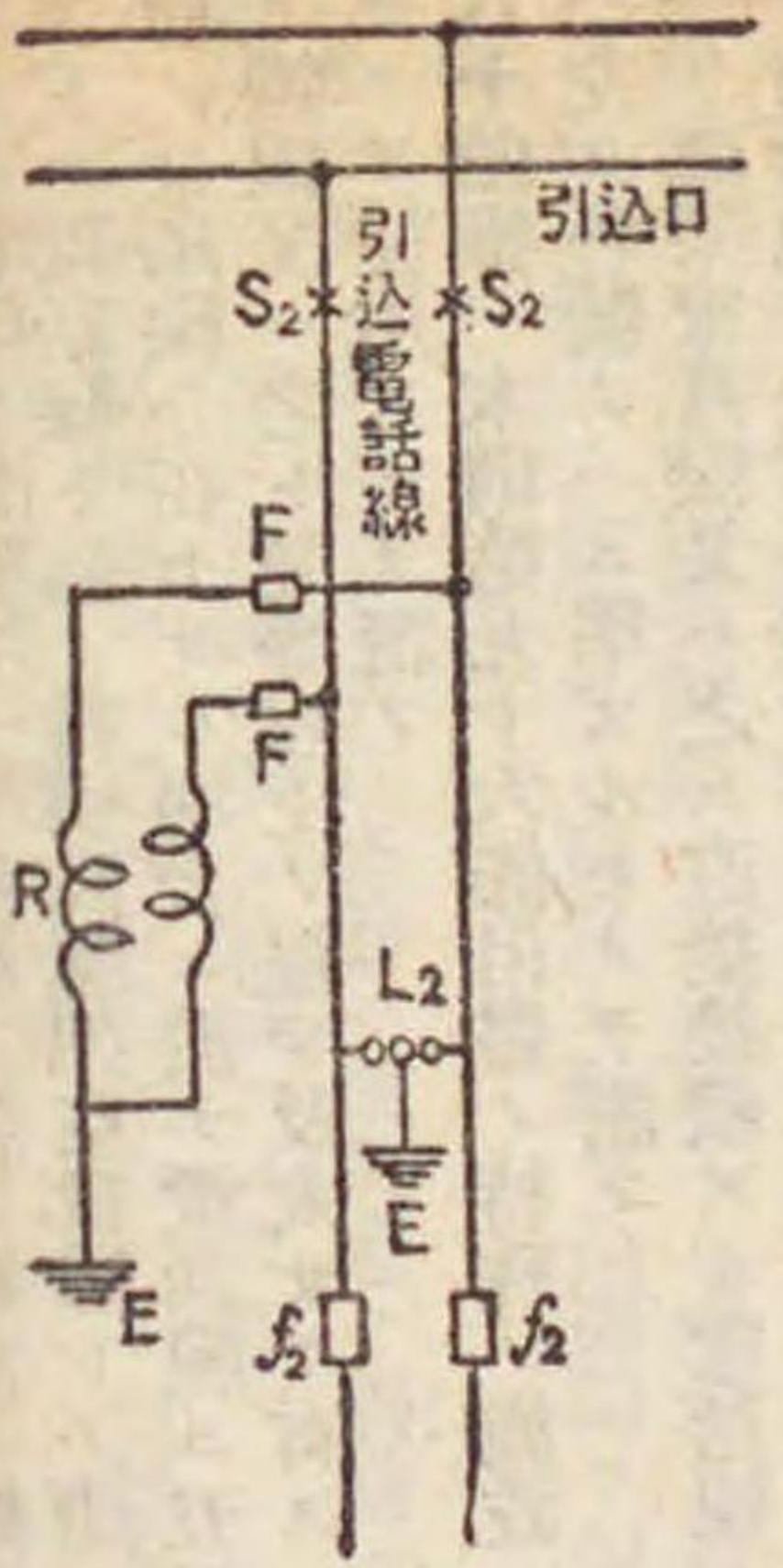
乙種保安裝置



- T ハ電話機
- H ハ二百五十ミリアマペア以下ニテ動作スル熱線輪
- L1 ハ交流三百ヴォルトニテ動作スル避雷器
- E ハ接地
- f1 ハ五アマペア可熔遮斷器

S₁ハ引込用閉閉器
 Qハ交流三千ヴォルトニ耐フル電話機使用者ノ絶縁用踏臺
 Aハ交流三百ヴォルト以下ニテ動作スル放電間隙
 f₂ハ一アマベア包装可熔遮斷器
 L₂ハ交流千ヴォルトニテ放電スル避雷器
 S₂ハ引込用高壓閉閉器
 RCハ中繼線輪一次二次線輪間ノ絶縁耐力ハ交流三千ヴォルトノ電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルモノナルコト

三 架空電線ガ三萬五千ヴォルト以上ノ特別高壓電線ナル場合ニ於テハ前號甲種又ハ乙種保



架空電線ガ三萬五千ヴォルト以上ノ特別高壓電線ナル場合ニ於テハ前號甲種又ハ乙種保

第六十六條 本則第九十八條第二項ノ適當ナル保
 安裝置トハ交流三千ヴォルトニ耐フル電話機使
 用者ノ絶縁用踏臺ノ如キモノヲ謂フ
 第六十七條 本則第二百二條第一項ノ適當ニ施設ス
 トハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
 一 碍子引工事ニ依ルトキハ工事以上已ムヲ得ザ
 ル場合ヲ除クノ外造管材ノ側面又ハ下面ニ取
 付ケ電線支持點間ノ距離ヲ一米以下トシ且電
 線ノ種類及取付場所ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ電
 線相互間及電線ト造管材トヲ離隔スルコト
 (イ) 雨露ニ曝露セザル場所ニ施設スル場合

第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

第一節 屋外工事

第六十八條 本則第二百三條ノ適當ニ施設ストハ左
 ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
 一 展開シタル場所ニ電線ヲ施設スルトキハ工
 事以上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外造管材ノ側

(ロ)

電線ノ種類	電線相互間ノ距離	電線ト造管材トノ距離
第一種絶縁電線	六種以上	三種以上
第二種絶縁電線	三種以上	三種以上
第三種絶縁電線	六種以上	三種以上
第四種絶縁電線	六種以上	三種以上

雨露ニ曝露スル場所ニ施設スル場合
 電線ノ種類
 第一種絶縁電線
 第二種絶縁電線
 第三種絶縁電線
 第四種絶縁電線
 使用電壓二百五十ヴォルト以下ノ電線ニ二
 耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サ
 ヲ有スルモノヲ使用シ電線ト造管材トガ接
 觸ノ虞ナキ様充分離隔スル場合ニ限り第一
 種絶縁電線ヲ使用シ且支持點間ノ距離ヲ一
 米以上ト爲スコトヲ得
 二 金屬管工事ニ依ルトキハ本則第二百二十條及
 細則第七十九條ニ準ジ施設シ且雨露ニ曝露ス

- 面又ハ下面ニ取付ケ電線支持點間ノ距離ヲ一米以下、電線相互間ノ距離ヲ六種以上、電線ト造管材トノ距離ヲ三種以上ト爲スコト
- 二 金屬管工事ニ依ルトキハ本則第二百二十條及細則第七十九條ニ準ジ施設シ且雨露ニ曝露スル場所ニ施設スル場合ニハ水分ノ浸入セザル構造ト爲スコト
- 三 管極間ノ短小ナル接續線ニ第二項ニ適合セザル電線ヲ使用スルトキハ造管材ト接觸セザル様充分離隔シ且堅固ニ取付ケルコト
- 四 電線又ハ管極ガ造管材又ハ函壁ヲ貫通スル部分ハ金屬管工事ニ依ル場合ヲ除クノ外之ヲ碍管内ニ藏ムルコト
- 五 管燈ハ人ノ容易ニ觸レザル様且造管材ト直接接觸セザル様施設スルコト
- 六 電線及管燈ハ他ノ電線、弱電流電線、水管又ハ瓦斯管ト十五種以上離隔スル場合ヲ除クノ外其ノ相互間ニ堅固ニ取付ケタル絶縁性ノ隔壁ヲ設ケルコト
- 七 管燈用變壓器ノ一次側回路ニハ各極ニ専用ノ開閉器又ハ挿込型接續器ヲ裝置スルコト

- 八 管燈用變壓器ノ外函、變壓器ヲ藏ムル金屬函「キヤビネット」ノ金屬部分及金屬管ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト
 - 九 「キヤビネット」ハ堅牢ナル不可燃質物ヲ以テ製作シ又ハ不可燃質物ヲ内面全部ニ張りタルモノトシ且防水構造ノモノト爲スコト
 - 本則第三百三條ノ特殊ノ絶縁耐力ヲ有スル電線トハ一卷ノ儘十二時間浸水シタル後當該管燈専用變壓器二次無負荷電壓ノ一・五倍ノ交流電壓ヲ以テ絶縁耐力ヲ試験シ十分間以上之ニ耐フルモノヲ謂フ
- 第六十九條** 本則第一百四條第一項ノ適當ニ施設スルコトハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
- 一 配電線路ヨリ分岐スル點ニ近ク専用ノ開閉器ヲ裝置スルコト但シ此ノ場合ニ於テハ單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得
 - 二 開閉器其ノ他之ニ類スル器具ニハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト
 - 三 電線及電燈ヲ吊架スル金屬線ニハ四耗以上ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト

- 四 電線ヲ吊架スル金屬線ニハ電線ヨリ六十種以内ノ箇所ニ碍子ヲ挿入スルコト但シ電線ノ支持ニ碍子ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第二節 屋内工事**
- 第七十條** 本則第六條第一項ノ特殊ノ工事方法トハ左ノ各號ニ準ズルモノヲ謂フ
- 一 直流五百ヴォルト交流二百五十ヴォルトヲ超過スル低壓屋内配線ヲ土間又ハ濕氣アル床上ヨリ人ノ觸ルル處アル場所ニ施設スル場合ハ電纜工事又ハ金屬管工事（細第七十九條）ニ依リ之ヲ施設スルコト
 - 二 高壓屋内配線ハ左記ニ依リ施設スルコト
- 電纜工事
- (イ) 六百ヴォルト以下ノ交流屋内配線ハ金屬管工事（細第七十九條）
 - (ロ) 人ノ觸ルル處ナキ乾燥シタル展開場所ニ於テハ碍子引工事
 - (ハ) 前項第二號ハノ碍子引工事ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
- 一 電線ニハ二・六耗以上ノ第四種絶縁軟銅線

- 又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト
 - 二 電線支持點間ノ距離ヲ五米以下ト爲スコト但シ造管材ノ面ニ沿ヒテ施設スルトキハ此ノ距離ヲ一米以下ニ保持スルコト
 - 三 電線相互間ノ距離及電線ト造管材トノ距離ハ左記ニ依ルコト但シ六百ヴォルトヲ超過スル電線ニ在リテハ其ノ上部ニアル造管材トハ常ニ十五種以上離隔スルコト
- 最大使用電壓
- | 支持點間ノ距離 | 電線相互間ノ距離 | 電線ト造管材トノ距離 |
|---------------|----------|------------|
| 六百ヴォルト以下ノモノ | 一米以下 | 十種以上 |
| 六百ヴォルトヲ超過スルモノ | 一米超過 | 二十種以上 |
| 六百ヴォルトヲ超過スルモノ | 一米超過 | 十五種以上 |
| 六百ヴォルトヲ超過スルモノ | 一米超過 | 十種以上 |
- 四 電線ノ造管材ヲ貫通スル部分ハ之ヲ充分ナル長サノ高壓用碍管内ニ藏ムルコト
 - 五 高壓電線ハ低壓電線ト三十種以上ノ離隔距離ヲ保持シ且兩回路ハ容易ニ識別シ得ル様施設スルコト但シ電線ノ支持點間ノ距離ヲ一米以下ニ保持スルトキハ此ノ距離ヲ十五種迄ニ短縮スルコトヲ得

六 電線ハ弱電流電線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ト三十種以上ノ距離ヲ保持シテ施設スルコト

七 電線ト大地トノ間ノ絶縁耐力ハ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルモノナルコト

本則第一百十條第二項、第一百一十一條、第二百十條、第二百二十五條第二號、第二百二十六條第三號、第二百二十七條第一項、第二百二十八條第三號及細則第八十八條第二號及第五號ノ規定ハ之ヲ第一項第二號ノ高壓屋內配線工事ニ準用ス
第一項第二號ニ依ル工事ノ絶縁耐力ニ付テハ金屬管工事ニ依リ施設スル場合ハ第二項第七號ノ規定ヲ、電纜工事ニ依リ施設スル場合ハ本則第八十七條第一項第二號ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 本則第六十六條第二項ノ特殊ノ場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ
一 電動機配電盤ノ表示燈又ハ電車線電壓ノ表示燈

二 電氣鐵道ノ車庫、驛舎、保線係員詰所其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スル低壓ノ直列式電

依ル百五十ヴォルト以下ノ電氣信號専用電線ニシテ一・二耗以上ノ軟銅線ヲ使用スル場合

第七十四條 屋內ニ施設スル開閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ其ノ充電部分ガ露出セザル様之ヲ裝置スルコトヲ要ス但シ取扱者ノ外出入セザル場所ニ裝置スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

屋內ニ施設スル可熔片ハ耐火質物ノ函又ハ管内ニ裝置スルコトヲ要ス

第七十五條 本則第一百三十三條第三項ノ特殊ノ場合トハ中性點ヲ接地シタル多線式屋內配線ノ配電盤內ニ於テ電源側各極ニ開閉器ヲ裝置シ且之ヨリ二線式電路ノミヲ分岐スル場合ニ於テ三キロワット以下ノ分岐回路ニ限リ其ノ中性線ニ接續スル電線ノ開閉器及自動遮斷器ヲ省略スル如キ場合ヲ謂フ

第七十六條 本則第二百二條第一項及第一百五條第一項ノ點檢シ得ル掩蔽場所トハ點檢口ヲ有スル小屋裏、戸棚、押入ノ如ク容易ニ電氣工作物ニ接近シ又ハ全部ノ工作物ヲ檢視シ得ル掩蔽場所

燈

前項第二號ノ場合ニ於テハ左記各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 碍子引工事ニ依ルトキハ電線ニ一・六耗以上ノ第四種絶縁軟銅線ヲ使用シ造管材ト三種以上ノ距離隔スルコト

二 電球承口ニハ無鍵ノモノヲ使用スルコト

三 電線及電燈器具ハ人ノ容易ニ觸レザル箇所ニ施設スルコト

第七十二條 本則第八十八條ノ技術上已ムヲ得ザルモノトハ左ニ掲ゲル如キモノヲ謂フ

一 電氣爐用電線
二 移動起重機用接觸電線及之ニ類スル接觸電線
三 電線ノ被覆絶縁物ヲ腐蝕スル場所ニ使用スル電線

第七十三條 本則第九十九條ノ特殊ノ場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 電燈吊管、電燈腕管其ノ他之ニ類スル短小ナル金屬管内ニ電線ヲ藏ムル場合
二 金屬管工事、金屬線樋工事又ハ電纜工事ニ

ヲ謂ヒ、本則第一百五條第一項及第一百八十八條ノ點檢シ能ハザル掩蔽場所トハ天井懷、壁内、コンクリート床内ノ如ク破壞的動作ヲ爲スニ非ザレバ電氣工作物ニ接近シ又ハ全部ノ工作物ヲ檢視シ能ハザル場所ヲ謂フ

第七十七條 屋內ニ使用スル碍管ハ絶縁性耐火質物ヨリ成リ且其ノ端口ハ電線ノ被覆ヲ損傷セザル圓滑ノモノナルコトヲ要ス

第七十八條 木製線樋工事ニ用フル線樋ハ左ノ各號ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 乾燥シタル堅緻ノ木材ヲ以テ製作シタルモノナルコト
二 線樋ノ内外面ニ耐水質ノ塗料ヲ施シタルモノナルコト
三 電線ヲ押壓セザル様溝ノ大サヲ充分ナラシムルコト

第七十九條 金屬管工事ニ用フル金屬管ハ左ノ各號ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 管ハ鐵、眞鍮又ハ銅ノ如キ金屬ヲ以テ堅牢ニ製作シタルモノナルコト
二 管ハ引拔、鍛接又ハ熔接シテ製作シタルモノ

ノナルコト但シ厚サ一耗未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

三 管ノ厚サハ左ノ制限ニ依ルコト

(イ)「コンクリート」ニ埋込ムモノハ二耗以上

(ロ) (イ)以外ノモノハ一耗以上但シ接手ナキ短小ナルモノ及乾燥シタル展開場所ニ施設スルモノニ限り〇・五耗以上ノモノナルコトヲ得

四 管ノ内面、屈曲箇所及其ノ端口ハ平滑ニシテ敷線又ハ電線ノ引換ニ當リ其ノ被覆ヲ損傷セザルモノナルコト

五 鐵製ノ管ハ酸化作用ヲ防止スル爲亞鉛鍍ヲ施シ又ハ「エナメル」等ニテ被覆スルコト

六 管ノ接續ハ堅牢ナラシメ且厚サ一耗以上ノモノニ在リテハ「ネジ」接續其ノ他之ト同等以上ノ効力ヲ有スル方法ニ依ルコト

七 濕氣アル場所若ハ壁内ニ施設シ又ハ「コンクリート」ニ埋込ム金屬管工事ニハ其ノ接手其ノ他ノ附屬品ニ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

第八十條 金屬線樋工事ニ用フル線樋ハ前條第一

號、第四號及第五號ニ適合シ且其ノ厚サハ〇・五耗以上ノモノナルコトヲ要ス

第八十一條 本則第二百二十四條ノ適當ニ施設スト

ハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 電球線ト屋内配線トノ接續點ニ於テハ電球及附屬器具ノ重量ヲ屋内配線ニ支持セシメザルコト

二 可撓紐線ト屋内配線トノ接續ハ鑲着其ノ他ノ方法ニ依リ完全ニ之ヲ爲ス場合ヲ除クノ外紐線吊、挿込型接續器其ノ他之ニ類スルモノヲ以テ之ヲ爲スコト

三 可撓紐線相互ノ接續ハ適當ナル構造ヲ有スル紐線接續器ニ依リテ之ヲ爲スコト

四 可撓紐線ト家庭用電氣器具トノ接續ハ人ノ容易ニ觸レザル様施設シタル端子金物ニ可撓紐線ヲ完全ニ捻止スル場合ヲ除クノ外挿込型接續器其ノ他之ニ類スルモノニ依リテ之ヲ爲スコト

第八十二條 飾窓又ハ飾函内ニ可撓紐線ヲ取付ク場合ハ左記ニ準ジ施設スルコトヲ要ス
一 第二種可撓紐線ヲ使用スルコト

二 可撓紐線ニハ分岐點ヲ設ケザルコト但シ適當ナル接續器具ヲ用フルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三 可撓紐線ハ留革ノ類ヲ以テ適當ニ取付クルコト

第八十三條 本則第二百二十三條及第二百二十五條ノ濕氣アル場所トハ風呂場、床下、酒醬油等ノ醸造場若ハ貯藏場、料理店ノ庖厨、魚屋、八百屋等ノ水ヲ取扱フ土間若ハ洗場又ハ蕎麥屋、饅飩屋等ノ釜場ノ如ク水蒸氣ヲ發散スル場所ノ如キヲ謂フ

第八十四條 本則第二百二十六條ノ塵埃アル場所トハ精米、紡績、撚絲、製紙、製粉、碎礦等ノ工場又ハ織絲、綿絲、緞「ネル」、帆布、「モスリン」、「セメント」、骸炭等ノ製造場ノ如キヲ謂フ

第八十五條 本則第二百二十六條ノ適當ニ施設スト

ハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
一 自動遮斷器ヲ藏ムル函ハ其ノ内部ニ塵埃ノ侵入セザル様裝置シ且其ノ蓋ハ堅牢ナル絶緣性不可燃質物ヲ以テ製作シ又ハ不可燃質物ヲ函ノ内面全部ニ張りタルモノヲ使用スルコト

二 紐線吊ハ堅牢ナル絶緣性不可燃質物ヲ以テ製作シタルモノニシテ震動ニ因リ其ノ蓋ノ弛緩セザル構造ノモノナルコト

第八十六條 本則第二百二十七條第一項ノ腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所トハ「酸類」、「アルカリ」、「鹽素酸「カリ」、晒粉、染料若ハ人造肥料ノ製造工場、銅、亞鉛等ノ精鍊所、電氣分銅所、電鍍工場、蓄電池室ノ如キヲ謂フ

第八十七條 本則第二百二十八條ノ爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生、製造又ハ貯藏スル場所トハ火藥類、「セルロイド」、燐寸、石油、「アルコール」、「エーテル」、燒酎類等ヲ製造若ハ貯藏スル場所、引火點攝氏四十度以下ノ物質ヲ發生、製造若ハ貯藏スル場所又ハ爆發性ノ瓦斯若ハ微粉ノ發生シ又ハ充滿スル虞アル場所ノ如キヲ謂フ

第八十八條 本則第二百二十八條ノ適當ニ施設スト

ハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
一 金屬線樋又ハ金屬管ハ厚サ一耗以上ノモノナルコト

(ホ) 變壓器ノ一次側ニハ適當ノ場所ニ自動遮斷器ヲ裝置スルコト

(ヘ) 變壓器ニハ一次電壓、二次電壓、二次短絡電流及製造者名ヲ表示スルコト

第九十條ノ二 本則第三百三十一條ノ二ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 「エツクス」線發生裝置ノ配線「エツクス」線ハ管導線ヲ除ク電纜ヲ使用スル場合ヲ除クノ外左記ニ依リ施設スルコト

(イ) 電線ノ床上ノ高サハ「エツクス」線管ノ最大使用電壓波高値ヲ以テ示ス本條ニ於テハ以下ニ同シ十萬ヴォルト以下ノモノニ在リテハ二・二米以上、十萬ヴォルトヲ超過スルモノニ在リテハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端數毎ニ二種ヲ加フルコト但シ取扱者ノ外出入シ得ザル様設備シタル場所ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

(ロ) 電線ト造管材トノ離隔距離ハ「エツクス」線管ノ最大使用電壓十萬ヴォルト以下ノモノニ在リテハ三十種以上、十萬ヴォルトヲ超過スルモノニ在リテハ超過分一萬ヴォルト

(ロ) 第四種「エツクス」線發生裝置ニ在リテハ金屬被覆ヲ施シタル電纜又ハ充分ナル可撓性ヲ有スル一・二耗以上ノ軟銅撚線

「エツクス」線管ノ移動ニ依リロノ撚線ニ弛緩ヲ生ズルコトナキ様卷取車其ノ他適當ナル裝置ヲ爲スコト

三 「エツクス」線管用變壓器及陰極加熱用變壓器ノ一次側回路ニ裝置スル開閉器ハ容易ニ電路ヲ遮斷シ得ル様適當ナル所ニ施設スルコト

四 一ノ特別高壓電氣發生裝置ニ依リ二箇以上ノ「エツクス」線管ヲ使用スル場合ニハ分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各「エツクス」線管回路ニ開閉器ヲ各極ニ裝置スルコト

五 特別高壓電路ニ裝置スル蓄電器ニハ殘留電荷ヲ放電スル裝置ヲ爲スコト

六 「エツクス」線發生裝置ノ左ノ部分ハ之ヲ第一種地線工事ニ依リ接地スルコト

(イ) 變壓器及蓄電器ノ金屬製外函大地ヨリ充分スルモノヲ除ク

(ロ) 第二號ノ電纜ノ金屬被覆

三篇一類三款 電氣工作物規程

ト又ハ其ノ端數毎ニ二種ヲ加フルコト

(ハ) 電線相互間ノ離隔距離ハ「エツクス」線管ノ最大使用電壓十萬ヴォルト以下ノモノニ在リテハ四十五種以上、十萬ヴォルトヲ超過スルモノニ在リテハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端數毎ニ三種ヲ加フルコト

(ニ) 電線ト低壓又ハ高壓電線、弱電流電線、水管、瓦斯管其ノ他之ニ類スル金屬體トノ離隔距離ハハニ準ズルコト

(ロ) 又ハハニノ場合ニ於テ工地上已ムヲ得ザルトキハ相互間ニ絶縁性ノ隔壁ヲ堅固ニ取付ケ又ハ電線ヲ適當ナル碍管ニ藏メテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

二 「エツクス」線管導線ニハ「エツクス」線發生裝置ノ種別ニ從ヒ左ニ掲グル電線ヲ使用シ且「エツクス」線管及配線トノ接続ヲ完全ナラシムルコト

(イ) 第一種、第二種及第三種「エツクス」線發生裝置ニ在リテハ金屬被覆ヲ施シタル電纜

(ハ) 「エツクス」線管ヲ包ム金屬體

(ニ) 配線及「エツクス」線管ヲ支持スル金屬體

七 「エツクス」線管導線ノ露出セル充電部分ニ一米以内ニ接近スルコトアルベキ金屬體電線ノ部分ノ如キヲ謂フ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

八 第四種「エツクス」線發生裝置ノ變壓器及特別高壓電氣ヲ以テ充電スル其ノ他ノ器具「エツクス」線管ヲ除クハ人ノ容易ニ觸ルル事ナキ様其ノ周圍ニ柵ヲ設ケ又ハ函ニ藏ムル等適當ナル防護裝置ヲ施スコト但シ取扱者ノ外出入シ得ザル様設備シタル場所ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

九 第四種「エツクス」線發生裝置ニ在リテハ工地上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外「エツクス」線管及其ノ導線ニ人ノ觸ルル處ナキ様離隔物ヲ裝置スルコト但シ取扱者ノ外出入シ得ザル様設備シタル場所ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

十 第四種「エツクス」線發生裝置ニ在リテハ「エツクス」線管導線ノ露出セル充電部分ト造管材、「エツクス」線管ヲ支持スル金屬體及礙

臺ノ金屬製部分トハ「エツクス」線管ノ最大使用電壓ノ區別ニ從ヒ左ノ距離ヲ保持スル様適當ナル裝置ヲ爲スコト但シ相互間ニ堅固ニ取付ケタル絶縁性ノ隔壁ヲ裝置スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(イ) 十萬ヴォルト以下ノモノニ在リテハ五厘以上

(ロ) 十萬ヴォルトヲ超過スルモノニ在リテハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端數毎ニ二厘ヲ加フルコト

十一 第四種「エツクス」線發生裝置ノ「エツクス」線管ヲ人體ニ二十厘以内ニ接近シテ使用スル場合ニハ「エツクス」線管及其ノ導線ハ第一種、第二種又ハ第三種「エツクス」線發生裝置ニ準ジ施設スルコト

十二 「エツクス」線發生裝置ノ特別高壓電路ハ其ノ使用状態ニ接續シ「エツクス」線管ノ端子間ニ其ノ最大使用電壓ノ一・〇五倍ノ電壓ヲ發生セシメタルトキ一分間以上之ニ耐フルモノナルコト

第九十條ノ三 「エツクス」線管ニハ見易キ箇所ニ其ノ最大使用電壓其ノ他必要ナル事項ヲ表示スルコトヲ要ス

第四章 電氣鐵道

第一節 通則

第九十一條 本則第四十一條第三項及第四百七十七條第二項ノ適當ニ施設ストハ左ノ如ク施設スルヲ謂フ

一 架空電線ト架空弱電流電線トノ離隔距離ヲ增加スルコト

二 直流電源ノ電壓波形ヲ平滑ナラシムル裝置ヲ爲スコト

三 歸線ノ不絶縁部分及大地ニ通ズル電流ヲ減少セシムルコト

四 弱電流電線ノ地板ト電氣鐵道ノ歸線トノ距離ヲ增加スルコト

第二節 電車線路及第三軌條

第九十二條 高壓電車線ノ道路ヲ横斷スル箇所ニ於テハ公衆ヲシテ注意ヲ爲サシムル様適當ナル施設ヲ爲スコトヲ要ス

第九十三條 本則第五百五十五條ノ適當ノ施設トハ

左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 電車線及之ニ接續スル吊架用線ト弱電流電線トガ四十五度以下ノ角度ヲ以テ交叉シ又ハ水平距離低壓ニ在リテハ二・五米以下、高壓ニ在リテハ四米以下ニ於テ並行スルトキハ電車線又ハ吊架用線ノ上部ニ細則第四十八條ニ規定スル保護網ヲ設クルコト但シ水平距離低壓ニ在リテハ一・二米以上、高壓ニ在リテハ二米以上ニシテ垂直距離各其ノ一・五倍以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二 電車線及之ニ接續スル吊架用線ト弱電流電線トガ四十五度ヲ超過スル角度ヲ以テ交叉スルトキハ電車線又ハ吊架用線ノ上部ニ細則第四十九條ニ規定スル保護線ヲ設クルコト

三 保護網又ハ保護線ト電車線若ハ之ニ接續スル吊架用線又ハ弱電流電線トノ垂直距離ヲ低壓ニ在リテハ六十厘以上、高壓ニ在リテハ一・二米以上ト爲スコト但シ保護網ト弱電流電線トノ垂直距離ハ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ三十厘迄ニ短縮スルコトヲ得
弱電流電線ニ第四種絶縁電線若ハ五耗ノ硬銅線

又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルトキハ前項ノ裝置ヲ省略スルコトヲ得
第九十四條 本則第五百十六條第二項ノ特殊ノ事由アル場合トハ架空單線式電氣鐵道ノ半徑小ナル軌道曲線部分ニ於テ電車桿ノ離脱ニ因リ障害ヲ生ズル虞アル如キ場合ヲ謂フ
前項ノ場合ニ於テハ張線ノ不接地部分ノ長サヲ電車線ヨリ一・五米迄ニ増加スルコトヲ得

第三節 歸線

第九十五條 本則第六十四條第一項ノ特殊ノ施設トハ歸線ノ不絶縁部分ト地中管路トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中二米以上ヲ通過スルニ非ザレバ兩者間ヲ流通スルコト能ハザラシムル施設ヲ謂フ
前項ノ不導體ノ離隔物トハ「アスファルト」及砂ヨリ成ル厚サ六厘以上ノ絶縁物ヲ「コンクリート」其ノ他ノ物質ヲ以テ機械的ニ堅牢ニ保護シ龜裂ヲ生ゼザル様施設シタル如キモノヲ謂フ

第九十六條 本則第六十五條第一項第四號及第九十六條第一項第二號ノ計算ハ左記ニ依ルモノトス

一 平均電流ハ車輛運轉ニ要スル直流側ニ於ケル一年間消費電力量(キロワット時)ヲ八千七百六十ニテ除シタルモノヲ基礎トシテ計算シタルモノナルコト

二 歸線ノ電流ハ漏洩セザルモノトシテ計算スルコト

三 軌條ノ抵抗ハ左式ニ依リ計算シタルモノヲ標準トスルコト

$$R = \frac{W}{A}$$

R ハ繼目ノ抵抗ヲ含ミタル單軌道一料ノ抵抗(オームヲ單位トス)

W ハ軌條一米ノ重量(斤ヲ單位トス)

第九十七條 本則第六十六條第一項第一號ノ特殊ノ方法トハ左ノ如キ方法ヲ謂フ

一 「ボンド」ニ切斷面積百五十平方糎以上ノ銅撚線ヲ使用シ之ヲ熔接ニ依リ堅固ニ取付クルコト

二 獨立セル二箇以上ノ「ボンド」ヲ堅固ニ取付ケ前號ト同等以上ノ導電力ヲ有セシムルコト

第九十八條 本則第六十七條ノ適當ナル施設トハ左ノ各號ノ一ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 車馬ノ通行スル踏切ニ敷設シタル軌條ハ他ノ部分ニ敷設シタル軌條ヨリ電氣的ニ絶緣シ軌條ト大地トノ間ニ電位差ヲ生ゼシメザル様施設スルコト

二 車馬ノ通行スル踏切ハ軌條間竝ニ軌條ノ外側ニ五米ニ互リ堅固ナル基礎ヲ施シ且其ノ表面ニ相當ノ厚サヲ有スル「アスファルトコングリート」ノ如キ絶緣性質物ヲ施スコト

前項第一號ノ施設ヲ爲ス場合ニ於テ軌條ノ接續線ニハ第四種絶緣電線ヲ使用シ且之ヲ管又ハ樋内ニ藏メテ施設スルコトヲ要ス

附則 (昭和七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス)

本令ハ昭和七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ施設シ又ハ施設中ノ電氣工作物ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ左ノ區別ニ依リ改修スルコトヲ要ス

一 本則第二十六條第四項、第二十七條第四項、第五十二條、第六十八條第一項第四號、第六十九條第二項、第七十條第一項第四號、第八十八條、第八十九條、第一百一條、第一百三條、第一百四條、第一百六條第二項、第三項、第一百二十

六條第一號、第一百二十八條第一號、第三百三十三條第一項第一號、第三百三十四條第一號、第三百三十八條第二號、第三百三十九條、第六十五條第一項第二號又ハ第六十六條第一項、細則第七十條又ハ第九十八條第二項ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ一年內

二 本則第十五條、第四十四條第一項第一號、第七十一條第一項、第七十五條第一項、第八十條第一項、第九十七條、第一百條第一項第八號、第一百三十三條第三項又ハ第六十四條第二項、細則第三十一條第一項、第三項、第五十八條第三號、第五十九條第一號ノハ、第六十條第一項第三號、第四號、第五號、第六十一條第二號、第八十九條第五號又ハ第九十三條ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ三年內

三 前二號以外ノ規定ニ抵觸スルモノハ改修ノ際

前項第一號及第二號ノ電氣工作物ハ其ノ改修期間内ト雖モ改修ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ノ規定ニ依リ施設スルコトヲ要ス

附則 (昭和十三年七月) 逕信省令第二十號

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十二年九月) 逕信省令第五十一號

本令ハ昭和十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ施設シ又ハ施設中ノ「エツクス」線發生裝置ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ左ノ區別ニ依リ改修スルコトヲ要ス

一 本則第三十一條ノ二第一項第一號、第二號又ハ第三號ノ「エツクス」線發生裝置ニシテ其ノ「エツクス」線管ニ絶緣性被覆ヲ施サザル爲規定ニ抵觸スルモノハ「エツクス」線管ノ取替又ハ改造ノ際

二 細則第九十條ノ二第四號ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ三年內

三 前二號以外ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ二年內

前項第二號及第三號ノ「エツクス」線發生裝置ハ其ノ改修期間内ト雖モ改修ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ノ規定ニ依リ施設スルコトヲ要ス

附則 (昭和十四年四月) 逕信省令第十九號

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣事業法第十五條(改正法第十三條)

ニ依ル障害防止ノ施設ニ

關スル件

大正八年十一月
逓信省令第九十一號

第一條

電氣事業者及瓦斯供給事業者が同一建造物内ニ設置スル電線ト瓦斯傳送用金屬管(以下瓦斯管ト稱ス)トハ五寸以上離隔スルコトヲ要ス

工事前項ノ距離ヲ離隔スルコト能ハザル場合ニ於テハ電線ト瓦斯管トノ間ニ絶縁性ノ隔壁ヲ堅固ニ設クルカ又ハ一尺以上適當ノ長サヲ有スル碍管内ニ電線ヲ藏ムルコトヲ要ス
第一項ノ距離ヲ離隔シ又ハ前項ノ施設ヲ爲スハ後ニ工事ヲ爲ス者ノ義務トス其ノ同時ニ工事ヲ爲ス場合ニ於テハ當事者間ノ協議ニ依リ之ヲ爲スベシ

第二條

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)又ハ遞信局長ハ電氣事業者又ハ瓦斯供給事業者ニ對シ前條

ノ規定ニ牴觸スル工作物ノ改修ヲ命ズルコトヲ得

第三條

第一條第二項ノ施設及前條ノ改修工事ハ關係工作物設置者ニ通知シ其ノ立會ノ上之ヲ爲スコトヲ要ス

第一條第一項ニ依リ五寸以上三尺以内ノ距離ニ

電線又ハ瓦斯管ヲ設置セムトスル工事ハ後ニ工事ヲ爲ス者ニ於テ工事着手ノ前日迄ニ工事ノ場所、日時及關係部分工事方法ノ概要ヲ關係工作物設置者ニ通知シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ施設又ハ工事ヲ爲シタル者ハ遲滞ナク其ノ旨地方長官及遞信局長ニ届出ヅルコトヲ要ス

第四條

第一條第二項ノ施設及第二條ノ改修ニ要スル費用ハ後ニ工事ヲ爲シタル者ノ負擔トス其ノ同時ニ工事ヲ爲ス場合又ハ工事ノ前後不明ナル場合ニ於テハ當事者間ノ協議ニ依リ費用ヲ分擔スベシ協議調ハザルトキハ之ヲ等分スベシ

第五條

本令ノ規定ニ依ル通知若ハ届出ヲ怠リ又ハ地方長官若ハ遞信局長ノ發スル改修命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六條

本令ノ規定ハ建造物内ニ於テ電氣事業者以外ノ者ガ強電流電線ヲ設置スル場合及瓦斯供給事業者以外ノ者ガ瓦斯管ヲ設置スル場合ニ之ヲ準用ス

暫定第四種絶縁電線(撚線ノ部)

導 體		「ゴム」混 合物ノ厚 サ (耗) (耗)	「テープ」 ノ厚サ (耗)※	絶縁抵抗 15°C (メガオー ム/軒)	試験電壓 (ヴォルト)
公稱切 面積 (平方耗)	素線數/ 直徑 (耗)				
1.000	127/3.2	4.0	0.5	50	3.500
850	127/2.9	3.8	ク	ク	ク
725	91/3.2	3.6	ク	ク	ク
600	91/2.9	3.5	ク	ク	ク
500	61/3.2	3.3	0.5	50	3.500
400	61/2.9	3.2	ク	ク	ク
325	61/2.6	3.1	ク	ク	ク
250	61/2.3	2.8	ク	ク	3.000
200	37/2.6	2.6	0.35	50	3.000
150	37/2.3	2.4	ク	ク	ク
125	19/2.9	2.2	ク	ク	ク
100	19/2.6	2.1	ク	ク	2.500
80	19/2.3	1.9	0.35	50	2.500
60	19/2.0	1.8	ク	ク	ク
50	19/1.8	1.7	ク	ク	ク
38	7/2.6	1.5	ク	60	2.000
30	7/2.3	1.5	0.25	60	2.000
22	7/2.0	1.4	ク	ク	ク
14	7/1.6	1.2	ク	ク	ク
8	7/1.2	1.1	ク	80	1.500
5.5	7/1.0	1.1	0.25	80	1.500
3.5	7/0.8	ク	0.05	ク	ク
2.0	7/0.6	ク	ク	ク	ク
1.4	7/0.5	1.0	ク	ク	ク
0.9	7/0.4	1.0	0.05	80	1.500

※導體ノ公稱切面積五・五平方
耗未滿ノモノニ在リテハ紙「テープ」トス
モノニ在リテハ布「テープ」五・五平方

暫定第四種絶縁電線(單線ノ部)

導體直徑 (耗)	「ゴム」混合 物ノ厚サ (耗)	「テープ」 ノ厚サ (耗)※
12.0	2.0	0.35
10.0	1.8	ク
9.0	1.7	ク
8.0	1.6	ク
7.0	1.5	0.25
6.5	1.4	ク
6.0	ク	ク
5.5	1.3	ク
5.0	1.3	0.25
4.5	1.2	ク
4.0	ク	ク
3.5	1.1	ク
3.2	1.1	0.25
2.9	ク	0.05
2.6	ク	ク
2.3	ク	ク
2.0	1.1	0.05
1.8	ク	ク
1.6	ク	ク
1.4	ク	ク
1.2	1.0	0.05
1.0	ク	ク

※導體ノ太サ三・二耗以上ノモノニ在リテハ布「テープ」三・二耗未滿ノモノニ在
リテハ紙「テープ」トス

第五條

可撓紐線ニハ電氣工作物規程本則第十九條ニ定ムルモノノ外左ノ區別ニ依リ暫定普通「コード」又ハ暫定防濕「コード」ヲ使用スルコトヲ得

一 電氣工作物規程ニ依リ第一種可撓紐線又ハ第二種可撓紐線ヲ使用スルコトヲ要スル場合ニ於テハ導體ノ太サ〇・七五平方耗以上ノ暫定普通「コード」

二 電氣工作物規程ニ依リ第三種甲可撓紐線又ハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スベキ場合ニ於テハ導體ノ太サ〇・七五平方耗以上ノ暫定防濕「コード」

三 乾燥シタル場所ニ於テ移動シテ使用スル低壓電線ニシテ輕小ナル家庭用電氣器具ニ取付クル場合ニ於テハ導體ノ太サ〇・五平方耗ノ暫定普通「コード」

第六條

暫定普通「コード」ハ二箇撓及袋打ノ二種トス
暫定普通二箇撓「コード」ハ〇・一八耗ノ軟銅線二十本以上又ハ〇・二三耗ノ銅線八十五本以上ヨリ成ル導體ヲ薄キ紙「テープ」ニテ重複纏捲シ

純「ゴム」三十パーセント以上ヲ含有スル「ゴム」混合物ヲ以テ導體ノ太サニ從ヒ左表ノ厚サ以上ニ被覆シ更ニ導體ノ太サ二・〇平方耗以下ノモノニ在リテハ紙「テープ」ヲ、導體ノ太サ三・五平方耗以上ノモノニ在リテハ布「テープ」ヲ重複纏捲シ完全ニ硫化ヲ施シ其ノ上ヲ良質ノ撓絲ヲ以テ緊密ニ編組シタルモノニ條ヲ適當ニ撓合セタルモノトス

導 體	混最	
	「ゴム」ノ厚サ (耗)	「ゴム」ノ厚サ (耗)
5.5	1.0	1.0
3.5	1.0	0.8
2.0	0.8	0.8
1.25	0.8	0.6
0.75	0.6	0.5
0.5	0.5	0.5

暫定普通袋打「コード」ハ前項ニ規定シタル構造ヲ有スル線心ニ粗ナル下打編組ヲ施シタルモノ

二條ヲ撓合セ之ニ良質ノ撓絲ヲ以テ緊密ニ上打編組ヲ施シタルモノトス但シ布「テープ」ヲ纏捲シタル線心ニハ下打編組ヲ省略スルモノトス
暫定普通「コード」ノ「テープ」ト編組トノ間ニハ赤色絲一條ヲ挿入スルモノトス
暫定普通「コード」ハ左ノ各號ノ試験ニ適合スルモノトス

一 一卷ノ儘浸水セザル状態ニ於テ兩導體間ノ絕緣耐力ヲ交流三千ヴォルトノ電壓ヲ以テ試験シ一分間以上之ニ耐フルコト

二 長サ一米ノ供試線ヲ十二時間以上浸水シタル後交流千ヴォルトノ電壓ヲ以テ試験シ一分間以上之ニ耐フルコト

○五パーセント以下ナルモノトス
暫定普通「コード」ヨリ適當ナル長サノ線心ヲ採

リ紙「テープ」又ハ布「テープ」ヲ取去リタル試料ヲ酸素「ボンブ」法ニ依リ氣壓一平方耗ニ付二十疋、溫度攝氏七十度ニ於テ九十六時間加熱シタル後之ヲ取出シ更ニ二十四時間放置シタル後ニ於テ「ゴム」混合物ノ抗張力ハ一平方耗ニ付〇・

四疋以上、伸ハ二百パーセント以上ニシテ加熱前ノ抗張力及伸ノ値ニ比シ五十パーセント以上低下セザルモノトス
暫定普通「コード」ヨリ適當ナル長サノ線心ヲ採リ之ヲ攝氏百三十度ノ乾燥セル空氣中ニ六時間放置シ試験スルモ電線ノ外面ハ著シク黒變セザルモノトス

第七條 暫定防濕「コード」ハ二箇撓及袋打ノ二種トス
暫定防濕二箇撓「コード」ハ暫定普通二箇撓「コード」ノ編組被覆ニ絕緣性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス
暫定防濕袋打「コード」ハ暫定普通袋打「コード」ノ編組被覆ニ絕緣性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス

第八條 暫定第二種絕緣電線、暫定第四種絕緣電線、暫定普通「コード」及暫定防濕「コード」ハ使用電流ニ因ル溫度上昇ノ爲絶緣物ヲ損傷セザルモノナルコトヲ要ス

暫定第二種絕緣銅線ノ安全電流ハ電氣工作物規程細則第二十三條ノ絶緣銅線及可撓紐線安全電

流表ニ示ス第一種及第二種絶縁銅線ノ安全電流ニ、暫定第四種絶縁銅線ノ安全電流ハ同表ニ示ス第三種及第四種絶縁銅線ノ安全電流ニ依ルモノトス

暫定第二種絶縁電線及暫定第四種絶縁電線ニハ故銅ヲ再生シ導電率ヲ八十五パーセント以上ト爲シタル銅線ヲ使用スルコトヲ得

暫定普通「コード」及暫定防濕「コード」ノ安全電流ハ左表ヲ以テ標準トス

「コード」安全電流表

導	體		安全電流 (アムペア)
	太	造	
サ	素	線數/直徑	
(平方耗)	(耗)	(耗)	
5.5	135/0.23		35
3.5	85/0.23		23
2.0	80/0.18		17
1.25	50/0.18		12
0.75	30/0.18		7
0.5	20/0.18		4

第九條 第二種地線工事ノ接地線ニハ特別高壓用變壓器ニ在リテハ四耗以上ノ銅線、高壓用變壓器ニ在リテハ二・六耗以上ノ銅線ヲ使用スルコトヲ得

第二種地線工事ノ接地線ヲ配電線利用搬送電話ニ使用スル場合ニ於テハ之ニ塞流線輪ヲ裝置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ヲ之ト塞流線輪ノ「インピーダンス」トノ合成「インピーダンス」ノオーム數ニ變壓器一次側ニ於ケル自動遮斷器ノ動作電流ニ在リテハ其ノ定格電流ノ二倍ノアムペア數ヲ乘ジタル積ガ百五十以下ナル様保持シ且塞流線輪ト並列ニ適當ナル放電裝置ヲ施スコトヲ要ス

架空共同地線ニハ四耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル金屬線ヲ使用スルコトヲ得

第三種地線工事ノ接地線ニハ一・六耗以上ノ銅線又ハ二・六耗以上ノ鐵線ヲ使用スルコトヲ得

第十條 低壓架空電線ノ架空引込線ニ隣接スル部分又ハ低壓架空引込線ニシテ堅固ニ取付ケタル

モノニハ徑間二十五米以下ナル場合ニ限り二耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ得

第十一條 市街地ニ於テ施設スル高壓架空電線ヲ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルトキハ之ニ五耗ノ裸硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ得

若ハ高壓架空電線、架空弱電流電線若ハ建造物ノ住居又ハ看守スルモノト交叉シ又ハ電線支持物地表上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近スル箇所ニ施設スル高壓架空電線ニ付亦同ジ

一 電線ノ弛度ヲ電氣工作物規程本則第六十四條ノ規定ニ適合セシムルコト

二 裸電線ガ他ノ高壓架空被覆電線ト交叉スル箇所ニ於テハ工事上已ムヲ得ザル場合ヲ除ク

ノ外裸電線ヲ上部ト爲スコト

三 裸電線ト架空弱電流電線トハ交叉スル場合ヲ除クノ外水平距離一・五米以上ヲ離隔スルコト但シ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ之ヲ一米迄ニ短縮スルコトヲ得

四 架空弱電流電線「ケーブル」ト交叉スル箇所ニ於テハ裸電線ノ下部ニ低壓電線ヲ添架シタル場合ヲ除クノ外危險ヲ生ゼシメザル様電氣工作物規程細則第五十條ニ規定スル施設ヲ爲スコト

第十二條 低壓架空電線 架空引込線ニ隣接スル部分及架空引込線ヲ除クヲ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルトキハ之ニ裸電線ヲ使用スルコトヲ得

一 架空弱電流電線ト交叉シ又ハ電線支持物地表上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近スル箇所ニ施設スルモノハ電線ニ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト

二 市街地ニ於テ前號以外ノ箇所ニ施設スルモノ又ハ市街地外ニ於テ道路、鐵道、軌道、他ノ低壓若ハ高壓架空電線若ハ建造物ト交叉シ

若ハ電線支持物地表上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近スル箇所ニ施設スルモノハ電線ニ四耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト

三 前各號ノ場合ニ於テハ電線ノ弛度ヲ電氣工作物規程本則第六十四條ノ規定ニ適合セシムルコト

四 裸電線ガ他ノ低壓架空被覆電線ト交叉スル箇所ニ於テハ工事上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外裸電線ヲ上部ト爲スコト

五 裸電線ト架空弱電流電線トハ交叉スル場合ヲ除クノ外水平距離一米以上ヲ離隔スルコト但シ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ之ヲ六十糎迄ニ短縮スルコトヲ得

六 架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ裸電線ヲ上部ト爲スコト但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ弱電流電線トノ混觸ヨリ生ズル危険ヲ防止スル爲電氣工作物規程細則第四十七條ニ規定スル施設ヲ爲ストキハ裸電線ヲ下部ト爲スコトヲ得

第十三條 低壓屋内配線ニハ一・二耗以上ノ軟銅線又ハ一・六耗以上ノ鐵線ヲ使用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ支那事變終了後一年内ニ之ヲ廢止スルモノ

トス

電氣工作物規程ニ依リ遞
信省ノ管理ニ屬スル通信
事業用工作物ニ關シ承諾
又ハ立會請求方ノ件

明治四十四年九月
逓信省告示第五十二號
(1) 大正二年六月
逓信省告示第五百五號改正
(2) 大正十年五月
逓信省告示第七百六十四號
改正

電氣工作物規程ニ依リ遞信省ノ管理ニ屬スル通信事業用工作物ニ關シ承諾又ハ立會ノ請求ヲナサムトスルトキハ其ノ所轄逓信局長ニ之ヲ爲スベシ

家庭用電熱器標準仕様 ニ關スル件

大正十三年三月
逓信省告示第百八十一號

第一章 總則

第一條 電熱器ノ大サハ電力消費量ノワット數ヲ以テ表スモノトス

第二條 電熱器ノ標準電壓ハ百ヅオルト及二百ヅオルトトス

第二章 構造

第三條 電熱器具ハ構造堅牢取扱簡便ニシテ熱ノ爲容易ニ變質セザルコトヲ要ス

第四條 電熱器及附屬器具ノ溫度上昇ハ連續使用狀態ニ於テ脚又ハ臺等ノ如キ可燃物ニ接觸スル部分ニ在リテハ攝氏五十度以下、把手ノ如キ人體ニ觸ル、部分ニ在リテハ攝氏三十度以下トス但シ電氣熨斗ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 電氣熨斗其ノ他之ニ類スル電熱器ハ適當ナル架臺ヲ備フルカ又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ

ル構造ヲ有スルモノトス

第六條 發熱要素ノ露出シタル電熱器ニ於テハ發熱要素ト器具ノ金屬部トノ距離ハ三ミリメートル以上トス

電熱器ニハ適當ナル箇所ニ接地線接続端子ヲ設クルモノトス但シ使用電壓百五十ヅオルト以下ニシテ移動シテ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 發熱部ノ構造ハ特殊ノモノヲ除キ容易ニ之ヲ取替ヘ得ルモノトス

第八條 發熱要素ノ導體ハ瑕疵缺點ナク其ノ切斷面積均一ニシテ容易ニ離脱セザル様絶緣體ニ固定スルモノトス

第九條 發熱部ニハ堅牢ニシテ耐熱性ヲ有スル陶磁器其ノ他ノ絶緣物ヲ用フルモノトス但シ電氣蒲團ノ如キモノニ在リテハ「アスベスト」布ヲ用フルコトヲ得

第十條 發熱要素ノ導體ノ接続端子ハ充分ナル電流量ヲ有シ構造堅牢ニシテ膨脹收縮ニヨリ弛緩セザルモノトス

第十一條 電熱器ト可撓紐線トノ接続部ノ構造ハ熱ノ爲可撓紐線ヲ損傷セザルモノトス

第十二條 移動シテ使用スル電熱器又ハ電熱器附屬ノ挿込型接続器ト可撓紐線トノ接続部ハ長サ三センチメートル以上ノ紐線保護螺旋ヲ附スル等適當ナル装置ヲ施スモノトス

第十三條 電熱器ニハ左記各號ノ一ニ該當スルモノノ外閉閉器ヲ裝置スルモノトス

(イ) 直流五百ワット交流一千ワット以下ニシテ電熱器ト可撓紐線トノ接続ニ挿込型接続器ヲ使用スル場合

(ロ) 直流二百五十ワット交流七百ワット以下ニシテ可撓紐線ニ紐線用閉閉器ヲ使用スル場合

(ハ) 湯沸用投入型電熱器等特殊ノ構造ヲ有スルモノニシテ之ニ近接シテ屋内配線ニ該電熱器專用ノ閉閉器ヲ裝置スル場合

第十四條 二千ワット以上ノ電熱器ハ可成簡單ナル加工ニ依リ百ヅオルト及二百ヅオルト何レニモ使用シ得ル構造ヲ有スルモノトス

第十五條 一千ワット以上ノ料理用電熱器及一千五百ワット以上ノ暖房用電熱器ハ電力加減裝置(二段又ハ三段ニ區分スル閉閉器ノ類)ヲ有ス

ルモノトス但シ特殊ノ用途ニ供スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 電氣炬燵、電氣蒲團等保溫電熱器ニハ人體ニ觸ルル部分ノ溫度攝氏七十度ヲ超エザル様溫度制限又ハ電流遮斷ノ裝置ヲ施スモノトス但シ危険ナル程度ノ溫度上昇ヲ爲サザル様遮斷裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 電熱器ニハ品名、電壓、ワット數(又ハ電流)及製造者名ヲ明瞭ニ銘記スルモノトス

第三章 試驗

第十八條 電熱器ハ定格電壓ヲ以テ其ノ使用狀態ニ於テ三十分間通電シ支障ヲ生ゼザルモノトス但シ煙草點火器ノ如キ特殊ノモノニ在リテハ通電時間ヲ短縮スルコトヲ得

第十九條 電力消費量ノ公差ハ左記ニ據ルモノトス

六百ワット以下ノモノハ上下二十パーセント

六百ワットヲ超ユルモノハ上下十パーセント

第二十條 二百五十ヅオルト未滿ノ電熱器ハ第十

八條ノ試験ノ直後一分間以上左記電壓ニ依ル絶縁耐力試験ニ耐ユルモノトス

一千ワット以下ノモノハ五百ヴォルト一千ワットヲ超ユルモノハ定格電壓ノ二倍ニ一千ヴォルトヲ加ヘタルモノ

發熱要素ガ直接水ニ接スル構造ヲ有スルモノニ在リテハ前項ノ試験ヲ行ハズ

第二十一條 電熱器(附屬品ヲ含ム)ノ絶縁抵抗ハ

第十八條ノ試験ノ直後ニ於ケル漏洩電流ガ定格電流ノ二萬分ノ一ヲ超過セザルモノトス但シ絶縁抵抗ノ最小限度ハ乾燥時ニ於テ一メガオーム以上ナルモノトス

發熱要素ガ直接水ニ接スル構造ヲ有スルモノニ在リテハ前項ノ試験ヲ行ハズ

第二十二條 發熱部ノ導體ハ二千時間連續使用ノ後定格電壓ニ於テ其ノ消費電力當初ノ値ノ九十パーセント以上ナルモノトス

第四章 附屬器具

第二十三條 電熱器ニ取付クル開閉器ハ左ノ各號ニ該當スルモノトス

- 一 速斷式ナルコト

一 導體ハ外部ヨリ接觸シ得ザルモノナルコト

一 文字又ハ記號ヲ以テ開閉ヲ表示スルモノナルコト但シ明瞭ニ開閉ヲ認知シ得ル構造ノモノハ此ノ限リニ在ラズ

電力加減開閉器ニ在リテハ其ノ開閉状態ヲ文字又ハ數字ヲ以テ表示スルモノトス(數字ヲ以テ表示スル場合ハ電力ノ遞増ニ從ヒ數字ヲ遞増セシメ零ヲ以テ開路状態ヲ表示スルコト)

第二十四條 電熱器ニ附屬スル挿込型接續器ハ兩極同時ニ開閉シ得ル構造ヲ有シ電氣ヲ通ジタル儘五百回以上連續抜挿スルモ接觸良好ナルモノトス

第二十五條 電熱器ニ接續スル可撓紐線ハ接續部分ノ溫度上昇攝氏五十度ヲ超ユル場合ニ於テハ接續部分ヨリ三十センチメートル以上ニ互リ編組被覆ノ下ニ厚サ〇・七五ミリメートル以上ノ石綿其ノ他ノ耐熱質物ノ編組ヲ各線心ニ施スモノトス但シ二百五十ワット以下ノモノハ此ノ限リニ在ラズ

第二十六條 電熱器(附屬可撓紐線ヲ含ム)ト屋内

配線トノ接續ニ用フル器具ハ左記ニ依ルモノトス

(イ) 直流二百五十ワット交流四百ワット以下ノモノニ在リテハ普通白熱電球用有鍵承口ヲ使用スルコトヲ得

(ロ) 七百ワット以下ノモノニアリテハ普通白熱電球用無鍵承口ヲ使用スルコトヲ得

(ハ) 七百ワットヲ超過スルモノニ在リテハ壁用挿込型接續器類ヲ使用スルカ、可撓紐線或ハ電熱器口出線ヲ屋内配線ニ熔著スルカ又ハ安全器開閉器若ハ接續器類ニ捻止メヲ以テ接續スルコト

豆變壓器標準仕様書及豆變壓器二次側配線工事方法ノ標準ニ關スル件

大正十五年九月
逓信省告示第六百八十五號

豆變壓器標準仕様書

第一條 本標準ハ電壓百五十ヴォルト以下ノ屋内電路ニ接続スル豆變壓器ニシテ二次電壓十ヴォルト以下二次短絡電流三アマペア以下ノモノニ適用ス

第二條 變壓器ハ單捲變壓器ナルコトヲ得ズ且一次線輪ト二次線輪トハ混觸ヲ生ゼザル構造ノモノトス

第三條 變壓器ハ其ノ一次側端子ガ直接入ノ觸レザル構造ノモノナルコト但シ適當ナル耐火耐火物質ヨリ成ル函内ニ藏ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 變壓器ノ絶緣耐力試験ハ電氣工作物規程本則第五條(改正規程本則第九條)ニ依ルモノトス

第五條 變壓器ハ其ノ二次回路ヲ長時間ニ互リ短絡スルモ最大温度上昇攝氏六十五度ヲ超過セザルモノトス

第六條 變壓器ニハ一次電壓、二次電壓、二次短絡電流及製造者名ヲ明記スルモノトス

第七條 變壓器ニハ其ノ一次側及二次側端子ヲ明白ニ區別シ得ル様適當ノ記號ヲ附スルモノトス

第八條 變壓器ノ一次側ニハ適當ノ場所ニ自働遮斷器ヲ裝置スルモノトス

第九條 變壓器ハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外引込開閉器又ハ分配盤ニ近ク且露出場所ニ之ヲ取付クルモノトス

豆變壓器二次側配線工事方法ノ標準

第一條 本工事方法ハ二次電壓十ヴォルト以下二次短絡電流三アマペア以下ノ豆變壓器ニ依リ電鈴、豆電球、無線電信電話用真空球等ニ電氣ヲ供給スル爲施設スル配線工事ニ適用スルモノトス

第二條 電線ハ電氣工作物規程ニ適合スルモノノ外其ノ使用場所ニ從ヒ左ニ掲グルモノヲ使用スルコトヲ得

(イ)裸線 ○・八耗以上ノ軟銅線

(ロ)「パラフィン」線 ○・八耗以上ノ軟銅線ヲ綿絲ヲ以テ右捲及左捲ノ二層ニ○・四耗以上ノ厚サニ纏捲スルカ又ハ綿絲ヲ以テ○・四耗以上ノ厚サニ編組シ「パラフィン」ヲ滲透シテ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノ

(ハ)裸「ゴム」線 ○・八耗以上ノ軟銅線ヲ純「ゴム」二十パーセント以上ヲ含有スル品質均一ナル「ゴム」混合物ヲ以テ○・八耗以上ノ厚サニ被覆シタルモノ

(ニ)編組「ゴム」線 ○・八耗以上ノ軟銅線ヲ純「ゴム」二十パーセント以上ヲ含有スル品質均一ナル「ゴム」混合物ヲ以テ○・五耗以上ノ厚サニ被覆シ更ニ綿糸又ハ之ニ準ズルモノヲ以テ○・三耗以上ノ厚サニ緊密ニ編組シタル被覆ノ上ニ絶緣性耐水塗料ヲ塗布セラルモノ

(ホ)押卸用可撓紐線 錫鍍シタル○・一四耗以上ノ軟銅線十五本以上ヨリナル導體ヲ純ゴム三十パーセント以上ヲ含有シ品質均一ナルゴム混合物ヲ以テ○・五耗以上ノ厚サ

ニ被覆シ其ノ上ヲ綿糸、カタン糸、絹糸又ハ之等ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シ且兩線ヲ撚合セタルモノ

第三條 乾燥セル場所ニ施設スル工事ハ使用電線ニ依リ次ノ區別ニ從フモノトス

一 「パラフィン」線ヲ使用スル場合ニハ電線ト造管材トノ間隔ヲ六耗以上ニ保ツコト

二 裸「ゴム」線又ハ編組「ゴム」線ヲ使用スル場合ニハ電線ヲ止革又ハ止金具ヲ以テ支持スル事

第四條 床下、軒下、家屋ノ外面、其ノ他濕氣多キ場所ニ施設スル工事ハ使用電線ニ依リ次ノ區別ニ從フモノトス

一 裸線ヲ使用スル場合ニハ電線相互ヲ三十耗以上電線ト造管材トノ間隔ヲ十五耗以上ニ保ツコト

二 「パラフィン」線ヲ使用スル場合ニハ電線相互ノ間隔ヲ十五耗以上、電線ト造管材トノ間隔ヲ十五耗以上ニ保ツコト

三 裸「ゴム」線又ハ編組「ゴム」線ヲ使用スル場合ニハ電線ト造管材トノ間隔ヲ六耗以上ニ保

ツコト

第五條 電線ヲ疊、其ノ他敷物下ニ施設スル場合ニハ編組「ゴム」線ヲ使用スルモノトス
線施工事又ハ金屬管工事ニ依リ施設スル場合ニハ第三種絶緣電線、編組「ゴム」線又ハ裸「ゴム」線ヲ用フルモノトス

第六條 電線相互間及電線ヲ造管材ヨリ離隔スル爲ニ使用スル材料ハ絶緣性不易燃質物ニシテ且濕氣ヲ吸收シ難キモノトス

第七條 電線ガ造管材ヲ貫通スル箇所ニハ碍管ヲ挿入スルモノトス但シ乾燥セル場所ニハ「ゴム」管又ハ「ゴムテープ」ヲ捲キ碍管ノ代用トナスコトヲ得

第八條 電線ノ接續ハ弛緩スル虞ナキ様堅牢ニ之ヲ行ヒ絶緣電線ノ場合ニハ其ノ上ヲ「テープ」等ニテ捲クヲ可トス

第九條 電線ハ他ノ電線、瓦斯管、水道管又ハ其ノ他ノ金屬體ト十五種以上離隔スルモノトス但シ電線ヲ碍管等ニ入レタル場合又ハ堅固ナル隔壁アル場合ニハ此ノ限ニ在ラズ
第十條 爆發若ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生製

造又ハ貯藏スル場所（電氣工作物規程細則第八十七條參照）ニ於ケル工事ハ電氣工作物規程細則第六十三條（改正規程本則第二百十條）ニ準ジ施設スルモノトス
第十一條 移動シテ使用スル電線ニハ押釦用可撓紐線ヲ用フルモノトス
第十二條 押釦用可撓紐線、電鈴、表示器及其ノ他ノ器具ハ乾燥セル場所ニ限リ施設シ得ルモノトス
第十三條 押釦ハ人ノ直接電氣導體ニ觸レ得ザル構造ノモノトス

電氣ニ關スル注意心得ニ關スル件

大正二年六月
逓信省告示第五百三十五號

電柱及電線ニ關スル注意

一 電柱及電線ニハ成ルベク接觸セザルヲ良トス殊ニ暴風雨、雪、雷鳴ノ際ニハ最モ注意スベシ、低壓電燈、電力線及電信電話線ハ通常危險ナシト雖モ暴風雨、雪、雷鳴並ニ事變ノ際ニハ電燈、電力用高壓電線又ハ電氣鐵道用電線ト混觸スルノ虞アレバ右等ノ場合ニハ總テ電柱、電線類ニ身體ヲ觸レザル様注意スベシ、電線ヲ支持スル碍子、腕木又ハ電柱ノ全部若ハ一部ヲ赤色ニ塗リタルモノ又ハ左ノ標示アルモノハ高壓又ハ特別高壓電氣ノ通ズルモノナレバ特ニ注意スベシ



注

意

一

二

二

二 電柱、電線ノ近傍ニ出火アリテ電柱類燒ノ虞アリトモ安リニ勿物ヲ以テ切斷シ又ハ電柱ヲ倒ス等ノコトアルベカラズ此ノ道ニ心得ナクシテ之ヲ試ムルトキハ意外ノ危險ニ陥ルコトアリ注意スベシ

三 電柱、腕木、電線又ハ之ニ接續セル物品ニ火花ヲ發シ又ハ異狀アルトキハ速ニ警察官又ハ電氣事業者ニ報知スベシ但シ電氣鐵道ニ於テ電車通行ノ際火花ヲ發スルハ通常ナレバ之等ハ別段トス

四 電線ノ切斷垂下セルモノアルモ安リニ之ニ觸ル可カラズ萬一已ムヲ得ズシテ切斷垂下線ヲ動カストキニハ乾キタル布ニテ厚ク手ヲ包ミ乾燥シタル長キ竹木ノ類ヲ以テ間接ニ之ニ觸ルベシ其ノ間乾キタル靴若ハ下駄類ヲ穿ツヲ良トス若シ洗足又ハ草鞋ノ儘ニテ勿物或ハ金棒類ヲ以テ電線ニ觸ルルトキハ電擊ヲ受クルコトアルベシ

五 室内用電力電燈線ニ關スル注意
室内用電線ハ電氣ノ漏泄ヲ防グ爲メ絲「ゴム」又ハ布ニテ包ミアルモ若シ缺損ノ箇所アルトキハ危險ノ虞アリ然ルニ往々電線ヲ戸障子間ノ如

キ開閉ノ爲メ摩擦セラルル所ニ挟ミ又ハ電燈球ヲ疎漏ニ上下ニ動カシ之ガ爲メ線ノ外包ヲ破損シ其ノ儘ニ放棄シ置クコトアリ此ノ如キハ不時ニ發火スル危險ノ虞アルモノナレバ室内用電線ハ決シテ損傷セザル様注意シ若シ損傷ノ箇所アラバ速ニ電氣事業者ニ報知シ修補セシムベシ

六 電線ヲ瓦斯管、水道管其ノ他ノ金屬體ニ接セシメ又ハ釘ニ懸クル等ハ其ノ外包ノ損傷ヲ來シ易ク電氣ノ漏洩ヲ惹キ起ス虞アルモノナレバ必ズ之ヲ避クベシ

七 電燈ノ點滅ハ電燈點滅器ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ際成ルベク電線電氣器具等ニ手ヲ觸ルベカラズ、電線其ノ他電氣器具ヲ濕ラストキハ電氣ノ漏洩ヲ導キ易ク危害ヲ招クノ虞アリ故ニ室内用電線電球其ノ他電氣器具ハ成ルベク濕ラザル様注意シ且決シテ濡手ニテ取扱フ可カラズ

電氣器具及室内電線等ヲ玩弄シ又ハ水氣アル手指ニテ扱ヒ或ハ跳足ノ儘土間ニ在リテ之ニ觸ルル等ハ電氣ニ感ジ易ク危險ナレバ電氣需用者ハ篤ク使用人等ニ教ヘ常ニ注意スベシ

八 室内電線其ノ他之ニ接続セル電氣器具ニ火花

ヲ發シ或ハ其ノ他異狀アリト認メタルトキハ引込口開閉器ヲ遮斷スベシ引込口開閉器ニハ麻繩ノ類ヲ付シ之ニヨリ容易ニ開閉器ヲ遮斷シ得ル様ニ裝置スベシ

觸電者ニ對スル應急取扱法

九 若シ電氣ノ爲メ氣絶シタルモノアラバ直ニ被害者ヲ其ノ電線ヨリ取離スカ又ハ電氣ノ傳ハラザル様便宜ノ方法ヲ施スベシ

十 電氣ノ傳ハラザル様ニナスニハ電氣事業者ヲシテ適當ナル方法ヲ採ラシムベキハ勿論ナルモ第八ニ記載セル方法ニ依リ引込口開閉器ヲ遮斷スルカ或ハ乾キタル竹木ノ長キ柄ヲ有スル刃物ニテ電線ヲ斷チ截ルベシ(注意ノ標示アル電線ヲ除ク)被害者ヲ電線ヨリ取離ス場合ハ勿論此ノ場合ニ於テモ素手ニテ爲サザル様注意シ必ズ乾キタル竹木或ハ布片類ノ如キ電氣ノ傳ハリ難キモノヲ用ヒテ之ヲ行フベシ

十一 人工呼吸ヲナスニハ被害者ノ頸及胸部ノ衣類ヲ弛メ且ツ其ノ上衣ヲ脱シテ之ヲ疊ミ肩ノ下ニ敷キ頸ノ後方ニ垂レシメ左記ニ法ノ一ニ依ルベシ、縱令蘇生ノ見込ナキ様見ユルトモ少クト

モ醫師ノ來ル迄ハ之ヲ繼續スベシ

甲法 手術者ハ假死者ノ頭ノ上方ニ於テ跪キ其ノ腕ヲ握リ第一圖ニ示ス如ク之ヲ頸ノ上方ニ充分引伸バシ(斯クスルトキハ胸部擴大セラレ空氣ハ肺中ニ進入ス)斯クシテ三四秒ノ後(一、二、三、ト數フル時間ノ後)第二圖ニ示ス如ク引伸バシタル兩腕ヲ前方ニ曲ゲ胸部ヲ強ク壓迫スベシ(斯クスルトキハ肺中ノ空氣體外ニ排出サル)此ノ方法ハ一分時間十五六回ノ割合ヲ以テ之ヲ繰返スベシ

乙法 手術者ハ第三圖ニ示ス如ク假死者ノ上ニ跨リ左右兩掌ヲ胸壁ノ下部ニ當テ(其拇指ヲ鳩尾(ミヅオチ)ノ邊ニ置ク様當ガフベシ)肺中ノ空氣ヲ排出スル爲メ其ノ部分ヲ緊縮シツツ前下方ニ向テ強ク壓迫ヲ加フベシ此ノ時手術者ハ第四圖ニ示ス如ク自己ノ身體ノ重ミヲ利用スベシ斯クシテ三四秒ノ後急ニ手ヲ離スベシ此ノ方法モ亦一分間十五六回ノ割合ヲ以テ之ヲ繰返スコトヲ要ス

十二 人工呼吸法ヲ行フ間ニ他ノ一人ハ舌挾ミヲ用ヒテ(若シ舌挾ミノ用意ナキ時ハ布片ノ類ニ

テ)氣絶シタル者ノ舌ヲ摘ミ空氣ヲ肺中ニ吸込マシムル際ハ之ヲ引出シテ空氣ノ肺ニ進入スルコトヲ容易ナラシメ又空氣ヲ肺ヨリ排出スル際ハ舌ヲ元ニ戻スベシ斯クシテ之ヲ繰返シ行フコトハ人工呼吸法ニ最モ必要ナルコトニシテ決シテ之ヲ忽ニスベカラズ故ニ若シ氣絶シタル者ガ堅ク口ヲ閉ヂテ舌ヲ摘ミ出スコト能ハザル時ハ棒、木片或ハ小刀ノ柄等ニテ強テ口ヲ開カシメタル上之ヲ行フベキモノトス又假死者ニ水其ノ他ノ飲料ヲ飲マシメント試ムベカラザルハ勿論苟且ニモ水ヲ吹掛クル等ノコトヲナスベカラズ是流動物ハ呼吸器ヲ閉鎖セシムルノ虞アルガ故ナリ尙手助ケアラバ「ガーゼ」又ハ綿ニ「アムモニア」水ヲ含マセ之ヲ氣絶シタル者ノ鼻ノ附近ニ置キ其ノ呼吸機能ニ刺戟ヲ與フルヲ可トス

十三 電氣事業者ハ常ニ發電所、變電所、蓄電所、開閉所及工夫散宿所等ニ人工呼吸法ニ必要ナル舌挾ミ竝ニ「アムモニア」水等ヲ備ヘ尙從事員ニ常時人工呼吸法ヲ習得セシメ置クヲ可トス

十四 本告示中電氣需用者ニ知悉セシムルノ必要アル事項ハ電氣事業者ニ於テ之ガ周知ノ方法ヲ講ズベシ (圖略ス)

第三篇 電氣事業關係

第一類 電氣供給事業及電氣鐵道事業

第四款 電氣事業主任技術者資格檢定規則及關係告示

電氣事業主任技術者資格檢定規則

(昭和七年十一月遞信省令第五十四號)

電氣事業主任技術者資格ノ試驗檢定ノ受験特例ニ關スル件

(昭和十四年一月遞信省令第五十三號)

電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依ル學校及其ノ卒業者ノ資格ノ件

(昭和七年十一月遞信省告示第二千百二十五號)

電氣事業主任技術者資格

檢定規則

昭和七年十一月
逓信省令第五十四號

第一條 電氣事業主任技術者ノ資格ハ第一種、第二種及第三種ニ區別シテ之ヲ檢定ス

第二條 檢定ハ試験又ハ銓衡ニ依リ逓信大臣ノ命ジタル檢定委員之ヲ行フ

第三條 前條ノ試験ヲ分チテ第一次試験及第二次試験トス

第一次試験ニ合格シタル者ニ非ザレバ第二次試験ヲ受クルコトヲ得ズ

第四條 第一次試験ハ一般電氣學術及其ノ應用ニ就キ之ヲ行フ

第一次試験ニ合格シタル者ニハ翌年及翌々年限リ第一次試験ヲ免ズ

第五條 第二次試験ハ筆記及口述トス但シ第三種ノ試験ニ付テハ口述試験ヲ行ハズ

筆記試験ニ合格シタル者ニ非ザレバ口述試験ヲ受クルコトヲ得ズ

第六條 第二次試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ但シ第三種ノ試験ニ在リテハ電氣理論、電力傳送及電氣鐵道ヲ除ク

- 一 電氣理論及電氣磁氣測定
- 二 電氣機器及附屬器具
- 三 電力傳送、配電及蓄電池
- 四 電燈、照明及電熱
- 五 電氣鐵道
- 六 發電所設計及原動力設備

第七條 大學令ニ依ル大學ノ工學部又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ電氣工學ヲ專修シ之ヲ修得シタル者ハ第一種ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

前項ノ檢定ハ受験者ノ修得セル學科目中ニ前條ニ掲グル科目ニ該當スル學科目ノ有無並ニ之ニ關スル實驗及實習ノ有無ニ付之ヲ行フモノトス但シ該學科目ノ一部ヲ修得セザル者ニ付テハ其ノ科目ノミニ就キ試験ヲ行フコトアルベシ

大學令ニ依ル大學ノ工學部又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ專門學校令ニ依ル實業專門學校ト同等以上ノ程度ニ於テ電氣工學ヲ修得シタル者ハ第二種ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

外國ノ學校ニ於テ大學令ニ依ル大學ノ工學部又ハ專門學校令ニ依ル實業專門學校ト同等以上ノ程度ニ於テ電氣工學ヲ專修シ之ヲ修得シタル者ハ第一種又ハ第二種ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得但シ必要アルトキハ前條ニ定ムル試驗科目ノ一部ニ就キ試驗ヲ行フコトアルベシ

第八條 第二種ノ資格ヲ有スル者滿四年以上電氣技術ノ實務ニ從事シ責任アル地位ニ在リタルトキハ第一種ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

第九條 試驗檢定ハ毎年一回之ヲ行ヒ其ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ官報ニ公告ス但シ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時ニ之ヲ行フコトアルベシ

銓衡檢定ハ隨時之ヲ行フ
第十條 試驗檢定ヲ受ケントスル者ハ指定ノ期日迄ニ履歷書^{第一號}式^{第二號}、戶籍ノ抄本及寫眞ヲ添ヘ檢定申請書^{第一號}式^{第二號}ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

銓衡檢定ヲ受ケントスル者ハ隨時ニ履歷書^{第一號}式^{第二號}及戶籍ノ抄本ヲ添ヘ檢定申請書^{第一號}式^{第二號}ヲ遞信大臣ニ提出スベシ但シ第七條ニ依リ銓衡檢定ヲ受ケントスル者ハ其ノ修得セル學科ニ關スル證明

書及必要アルトキハ説明書ヲ添附スベシ
外國人ニ在リテハ身分ニ關シ本國領事ノ證明アル書面ヲ以テ戶籍ノ抄本ニ代フルコトヲ得
第十一條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ檢定手数料ヲ納ムベシ但シ第七條第一項又ハ同條第三項ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ノ當該大學又ハ學校ノ課程修了後二年內ニ檢定ヲ申請スル場合ニ於ケル檢定手数料ハ二圓トス

- 第一種 十圓
- 第二種 六圓
- 第三種 四圓

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ檢定申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムベシ
既納ノ手数料ハ檢定ヲ受ケザル場合ト雖モ之ヲ還付セズ

第十二條 檢定委員ニ於テ檢定申請者ガ其ノ資格若ハ履歷ヲ偽リ又ハ試驗ニ際シテ不正ノ行爲アリタリト認メタルトキハ之ニ對スル檢定ヲ行ハズ
檢定合格決定ノ後前項ノ事實アリタルコト判明シタルトキハ其ノ檢定ハ之ヲ無効トス

第十三條 檢定合格者ニハ合格證書^{第三號}式ヲ附與ス

第十四條 檢定合格者ハ之ヲ官報ニ公告ス
第十五條 專門學校令ニ依ル實業專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニシテ遞信大臣ノ認定ヲ受ケタルモノニ於テ電氣工學ヲ專修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者ハ第二種ノ資格ヲ有スルモノトス

實業學校令ニ依ル實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニシテ遞信大臣ノ認定ヲ受ケタルモノニ於テ電氣工學ヲ專修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者ハ第三種ノ資格ヲ有スルモノトス

遞信大臣前二項ノ認定ヲ爲スニ當リテハ學科目、程度、設備其ノ他必要ナル事項ニ關スル檢定委員ノ審査ヲ經ルモノトス

認定ヲ受ケタル學校ニ付認定ヲ不適當トスル事實アリト認メラルトキハ遞信大臣ハ檢定委員ノ審査ヲ經テ將來ニ向ツテ其ノ認定ヲ取消スコトアルベシ

前二項ニ依リ認定シ又ハ認定ヲ取消シタル學校及資格ハ之ヲ告示ス

第十六條 前條ノ認定ヲ受ケントスルモノハ申請

書^{第四號}式及認定ニ必要ナル書類ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

認定ヲ受ケタル後前項ノ規定ニ依リ提出セル書類ニ記載セル事項ヲ變更セントスルトキハ遞信大臣ニ届出ツベシ

附則

本令ハ昭和七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
三年以上電氣技術ノ實務ニ從事シ且電氣事業取締規則ニ依ル主任技術者タリシ者ハ本令ニ依ル主任技術者ノ銓衡檢定ヲ受クルコトヲ得

大正十年五月九日以前ノ規定ニ依リ第一級ノ資格ヲ有スル者ハ第一種、第二級又ハ第三級ノ資格ヲ有スル者ハ第二種、第四級又ハ第五級ノ資格ヲ有スル者ハ第三種ノ資格ヲ有スルモノト看做ス

本令施行前ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當シ第一種ノ資格ヲ有シタル者ハ本令施行後ト雖モ其ノ資格ヲ有スルモノトス

一 大學令ニ依ル大學ノ工學部又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ電氣工學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者若ハ之ニ相當スル學士試驗ニ合格シタル者

二 電氣工學ニ關シ工學博士ノ學位ヲ有スル者
(第一號樣式)(用紙美濃紙)

收入 電氣事業主任技術者資格檢定
印紙 申請書

族籍

申請人 氏

(振假名ヲ附
スルコト) 名
年 月 日生

檢定ノ種別 第何種
受驗地 何々 括弧内ハ朱書ノコト
第一次試驗 何年何月
合格年月 何年何月
私儀電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依
リ前記種別ノ試驗(第七條ニ依リ前記種別ノ
銓衡)檢定相受度同規則第十條ニ依ル書類相
添へ申請候也

現住所

右

名印

逓信大臣 氏

名殿

(第二號樣式)(用紙美濃紙)

履歷書

氏

年 月 日生 名

學業

一 何年何月何日 何學校何科ニ入學
一 何年何月何日 何學校何科修業、卒業又
ハ退學(銓衡檢定ノ場合
ニ限リ卒業又ハ修業證書
ノ寫添附ノコト)

一 何年何月何日

電氣事業主任技術者資格
檢定ノ種別若ハ第何級ノ(試
驗檢定)(銓衡檢定)ニ合
格

一 職 務

何々

一 何年何月何日 何官廳(官職名記載)、何
會社又ハ何商店ニ於テ何
々ノ職務ニ從事
何々(銓衡檢定ノ場合ニ
限リ現ニ在職ノ者ハ其ノ
證明書添附ノコト)

電氣事業主任技術者資格檢定委員長ノ證明ヲ認
了シ茲ニ合格證書ヲ附與ス

年 月 日

氏

名印

(第四號樣式)(用紙美濃紙)

電氣事業主任技術者資格ニ關ス
ル認定申請書

何々學校

認定ノ種別 第何種

電氣事業主任技術者資格檢定規則第十五條ニ依
ル認定相受度別紙必要書類相添へ申請候也

年 月 日

申請者 何

某印

逓信大臣 氏

名殿

(第三號樣式)

電氣事業主任技術者資格檢定
合格證書

族籍

氏

年 月 日生 名

檢定ノ種別 第何種

右電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依リ(成
規ノ試驗ヲ經テ前記種別ノ資格ニ合格シタリ)
(檢定委員ノ銓衡ヲ經テ前記種別ノ資格ヲ有ス
ル者ト檢定ス)仍テ之ヲ證ス

年 月 日

電氣事業主任技術
者資格檢定委員長 氏

名印

電氣事業主任技術者 資格試驗ノ受驗特例 ニ關スル件

昭和十四年一月
逓信省令第五十三號

第一條 電氣事業主任技術者資格檢定規則第三條ノ第一次試驗ニ合格シタル者ニシテ支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルニ因リ第一次試驗合格ノ年ニ於テ行フ第二次試験ヲ受クルコト能ハザリシモノハ之ニ代ルベキモノトシテ召集若ハ徵用ノ解除ノ年又ハ其ノ翌年ノ何レカニ於テ第二次試験ヲ受クルコトヲ得

第一次試験合格ノ年ニ於テ行フ電氣事業主任技術者資格檢定規則第五條ノ第二次試験ノ筆記試験ニ合格シタル者ニシテ支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルニ因リ第二次試験ノ口述試験ヲ受クルコト能ハザリシモノハ之ニ代ルベキモノトシテ召集若ハ徵用ノ解除ノ年又ハ其ノ翌年ノ何レカニ於テ第二次試験ノ口述試験ヲ受クルコトヲ得第一項ノ第二次試験又ハ前項ノ口述試験

ニ合格セザリシ者ニ付テハ電氣事業主任技術者資格檢定規則第四條第二項ノ規定ニ拘ラズ其ノ翌年及翌翌年ニ限リ第一次試験ヲ免ズ

第二條 電氣事業主任技術者資格檢定規則第四條第二項ノ規定ニ依リ第一次試験ヲ免ゼラルル年ニ於テ行ハルル第二次試験又ハ第二次試験ノ口述試験ヲ支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルニ因リ受クルコト能ハザリシ者ニ付テハ前條第一項又ハ第二項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ第二次試験又ハ第二次試験ノ口述試験ニ合格セザリシ者ニ付テハ支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルニ因リ受クルコト能ハザリシ第二次試験又ハ第二次試験ノ口述試験ガ第一次試験ニ合格シタル年ノ翌年ニ行ハレタルモノナルトキハ電氣事業主任技術者資格檢定規則第四條第二項ノ規定ニ拘ラズ其ノ翌年ニ限リ第一次試験ヲ免ズ

第三條 電氣事業主任技術者資格檢定規則第十一條本文ノ檢定手数料ヲ納メタル後支那事變ノ爲召集又ハ徵用セラレタルニ因リ電氣事業主任技術者ノ資格ノ試験檢定ヲ受クルコト能ハザリシ

者召集若ハ徵用ノ解除ノ年又ハ其ノ翌年ノ何レカニ於テ試験檢定ヲ受ケントスルトキハ檢定手数料ヲ免ズ

第四條 第一條第一項若ハ第二項又ハ第二條第一項ノ規定ニ依リ電氣事業主任技術者ノ資格ノ試験檢定ヲ受ケントスル者ハ指定ノ期日迄ニ履歴書電氣事業主任技術者資格檢定規則第二號様式、戶籍ノ抄本及寫眞並ニ召集又ハ徵用セラレタルコト及其ノ解除アリタルコトヲ證スル書面召集又ハ徵用ノ年月日及其ノ解除ノ年月日ヲ記載シタル市町村長、職隊區司令官、職隊長等ノ證明書以下同シヲ添ヘ檢定特例申請書別記様式ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第五條 第一條第三項又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ第一次試験ヲ免ゼラルル者ハ電氣事業主任技術者資格檢定規則第十條ノ檢定申請書ニ其ノ旨ヲ記載スベシ

第六條 電氣事業主任技術者資格檢定規則第十條ノ規定ニ依リ檢定申請書ヲ提出スル者ニシテ第三條ノ規定ニ依リ檢定手数料ヲ免ゼラルルモノハ檢定申請書ニ召集又ハ徵用セラレタルコト及其ノ解除アリタルコトヲ證スル書面ヲ添付スベシ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(別記様式)

電氣事業主任技術者資格檢定特例申請書

第三條ノ規定ニ依リ檢定手数料ヲ免ゼラルル者ニ在リテハ收入印紙ノ貼附ヲ要セズ

収入印紙

檢定ノ種別	第何種第二次試験 (第二次口述試験)	何	何	何	何
受驗地	何	何	何	何	何
第一次試験	何年何月	何年何月	何年何月	何年何月	何年何月
第二次試験	何年何月	何年何月	何年何月	何年何月	何年何月
合格年月	何年何月	何年何月	何年何月	何年何月	何年何月
私儀昭和十四年逓信省令第五十三號ニ依リ前記種別ノ試験檢定相受度同令第四條ニ依ル書類相添ヘ					

申請候也
追而召集(徵用)セラレタルニ因リ受クルコト能
ハザリシ試験檢定ニ付提出セル檢定申請書ノ概要
竝ニ召集(徵用)及其ノ解除ノ年月日ハ左ノ通ニ
有之候

檢定ノ種別 第何種
受 驗 地 何 何
召集(徵用)ノ年月日
召集(徵用)ノ年月日
召集(徵用)ノ解除ノ年月日
年 月 日
年 月 日
年 月 日

現住所
右
氏 名 印

遞信大臣氏 名殿

電氣事業主任技術者資格
檢定規則ニ依ル學校及其
ノ卒業者ノ資格ノ件

- (1) 昭和八年三月十四日 遞信省告示第四百七十二號改正
- (2) 昭和八年四月二十二日 遞信省告示第九百十八號改正
- (3) 昭和八年八月十一日 遞信省告示第八百三十一號改正
- (4) 昭和八年十二月十二日 遞信省告示第七百七十二號改正
- (5) 昭和九年五月十八日 遞信省告示第五百七十九號改正
- (6) 昭和十一年五月二十一日 遞信省告示第五百三十九號改正
- (7) 昭和十一年五月二十二日 遞信省告示第五百四十四號改正
- (8) 昭和十四年六月二十六日 遞信省告示第八百九十號改正
- (9) 昭和十四年十一月二十日 遞信省告示第三百八十二號改正
- (10) 昭和十五年三月二十三日 遞信省告示第七百五十三號改正

- (11) 昭和十五年四月十八日 遞信省告示第五十四號改正
- (12) 昭和十五年八月九日 遞信省告示第六十號改正
- (13) 昭和十五年十月八日 遞信省告示第七百二十六號改正
- (14) 昭和十六年二月十七日 遞信省告示第三百七十八號改正
- (15) 昭和十六年二月二十一日 遞信省告示第四百十五號改正
- (16) 昭和十六年八月十三日 遞信省告示第七百七十二號改正
- (17) 昭和十六年九月三十日 遞信省告示第二千四百四十四號改正
- (18) 昭和十六年十一月十一日 遞信省告示第二千五百一十一號改正
- (19) 昭和十六年十月二十五日 遞信省告示第二千七百九十九號改正
- (20) 昭和十六年十二月二十七日 遞信省告示第二千五百二十八號改正
- (21) 昭和十七年一月二十九日 遞信省告示第二千五百二十五號改正
- (22) 昭和十七年三月二十五日 遞信省告示第四百六十六號改正

- 元東京高等工業學校(附設工業教員養成所ヲ含ム) 第二種
- 元大阪高等工業學校(附設工業教員養成所ヲ含ム) 第二種
- 熊本高等工業學校 第二種
- 仙臺高等工業學校 第二種
- 元東北帝國大學工學專門部 第一種
- 元早稻田大學工學部 第一種
- 元私立明治專門學校 第一種
- 明治專門學校 第一種
- 元旅順工科學堂 第一種
- 元旅順工科學堂 第一種
- 元旅順工科學堂 第一種
- 廣島高等工業學校 第二種
- 濱松高等工業學校 第二種
- 米澤高等工業學校 第二種
- 長岡高等工業學校 第二種
- 神戶高等工業學校 第二種
- 南滿洲工業專門學校 第二種
- 山梨高等工業學校 第二種
- 元東京工業大學附屬工學專門部 第二種
- 及元同業附屬工學專門部 第二種
- 元大阪工業大學附屬工學專門部 第二種
- 及元同業附屬工學專門部 第二種

三篇一類四款 學校及其ノ卒業者ノ資格ノ件

日本大學專門部工科

- 名古屋高等工業學校(附屬工業教員養成所ヲ含ム) 第二種 (3)
- 臺灣總督府臺南高等工業學校 第二種 (4)
- 東京電機高等工業學校 第二種 (16)
- 朝鮮總督府京城高等工業學校 第二種 (16)
- 早稻田大學專門部工科 第二種 (17)
- 橫濱專門學校 第二種 (19)
- 多賀高等工業學校 第二種 (20)
- 桐生高等工業學校 第二種 (20)
- 金澤高等工業學校 第二種 (20)
- 福井高等工業學校 第二種 (20)
- 盛岡高等工業學校 第二種 (20)
- 大阪高等工業學校 第二種 (20)
- 秋田鑛山專門學校 第二種 (21)
- 室蘭高等工業學校 第二種 (21)
- 新居濱高等工業學校 第二種 (22)
- 兵庫縣立工業學校(大正六年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種
- 宮城縣工業學校(大正七年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種

- 秋田縣立秋田工業學校(大正六年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種
- 廣島縣立廣島工業學校(大正七年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種
- 福岡縣小倉工業學校(大正六年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種
- 佐賀縣立佐賀工業學校(大正九年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種
- 元私立高知工業學校(大正七年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種 (2)
- 高知縣立高知工業學校 第三種 (2)
- 私立三井工業學校(大正六年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種
- 元南滿洲工業學校(大正八年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種
- 新潟縣立長岡工業學校(大正十一年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種
- 長野縣長野工業學校 第三種
- 大分縣立大分工業學校(大正十一年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種
- 神奈川縣立工業學校(大正十年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種
- 福岡縣八女工業學校 第三種
- 元大阪府立今宮職工學校(高級科卒業生ニ限ル) 第三種 (18)
- 大阪府立今宮工業學校(高級科卒業生ニ限ル) 第三種 (18)
- 山口縣立宇部工業學校 第三種
- 靜岡縣立靜岡工業學校(大正十四年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種

- 神奈川縣立商工實習學校 第三種
- 京都市立第一工業學校(第二本科卒業生及大正十二年以後ニ於ケル本科卒業生ニ限ル) 第三種 (14)
- 元大阪市立工業學校 第三種
- 大阪府立都島工業學校 第三種
- 北海道廳立苫小牧工業學校(昭和二年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種
- 臺北州立臺北工業學校 第三種
- 愛知縣工業學校 第三種
- 岐阜縣第二工業學校 第三種
- 元私立東京保養工業學校(本科卒業生ニ限ル) 第三種 (6)
- 私立安田工業學校(本科及第二本科卒業生ニ限ル) 第三種 (6)
- 富山縣立工藝學校(昭和八年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種 (1)
- 金澤市立工業學校 第三種 (3)
- 法政大學工業學校 第三種 (4)
- 山形縣立鶴岡工業學校(昭和九年三月以後ニ卒業セル者ニ限ル) 第三種 (5)
- 關西工業學校 第三種 (7)

- 東京市立藏前工業學校 第三種 (8)
- 元大阪府立城東職工學校(高級科及第二高級科卒業生ニ限ル) 第三種 (9)
- 大阪府立城東工業學校(高級科及第二高級科卒業生ニ限ル) 第三種 (18)
- 元大阪府立今宮夜間工業學校(高級科卒業生ニ限ル) 第三種 (9)
- 大阪府立今宮第二工業學校(高級科卒業生ニ限ル) 第三種 (18)
- 東京府立電機工業學校(本科及第二本科卒業生ニ限ル) 第三種 (10)
- 東京市立深川工業學校(第二本科卒業生ニ限ル) 第三種 (11)
- 日本大學工業學校 第三種 (11)
- 名古屋高等工業學校附設高等夜學部 第三種 (12)
- 大阪府立都島第二工業學校 第三種 (13)
- 東京市立麻布工業學校(第一本科卒業生ニ限ル) 第三種 (19)
- 岩手縣立黑澤尻工業學校 第三種 (20)
- 大阪府立西野田工業學校 第三種 (20)
- 大阪府立淀川工業學校 第三種 (20)

第三篇 電氣事業關係

第一類 電氣供給事業及電氣鐵道事業

第五款 電氣事業會計規程

電氣事業會計規程

(昭和七年十一月遞信省令第五十五號)

電氣事業會計規程

昭和七年十一月
逓信省令第五十五號

第一條 電氣事業法第一條第一號及第三號ノ事業
(以下電氣供給事業ト稱ス)ノ會計ハ本令ノ定ム
ル所ニ依リ之ヲ整理スベシ但シ特別ノ事由アル
場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケ本令ノ定ムル所ニ
依ラザルコトヲ得

第二條 電氣供給事業ノ事業年度ハ一年又ハ六月
トス

第三條 電氣供給事業ノ計算ハ別表ニ定ムル勘定
科目ニ準ジテ之ヲ區分整理スベシ

第四條 電氣供給事業者ハ別表ニ定ムル様式ニ準
ジ貸借對照表、損益計算書及利益處分書ヲ作成
シテ逓信大臣ニ提出スベシ

第五條 財産目錄ニ記載スル固定資産及貯藏品ノ
價額ハ取得價額又ハ製作價額ヲ超ユルコトヲ得
ズ

固定資産ノ減損額ハ之ヲ取得價額又ハ製作價額
ヨリ控除スルコトヲ要ス但シ減損額ノ控除ニ代
ヘテ之ニ相當スル銷却引當金ヲ計上スルコトヲ

三篇一類五款 電氣事業會計規程

得

第六條 商法第九十六條(改正法第二百九十一
條第一項及第二項)ノ規定ニ依リ配當シタル利
息及事業擴張ノ場合ニ於ケル電氣工作物施設ノ
費用ニ充テタル社債又ハ借入金ノ當該工作物ノ
使用開始前ニ屬スル利息ハ建設利息トシテノミ
之ヲ貸借對照表上資産ニ計上スルコトヲ得此ノ
場合ニ於テハ當該資金ヲ以テ施設シタル工作物
ノ耐用年限内ニ之ヲ銷却スルコトヲ要ス

第七條 電氣工作物使用開始前ニ於ケル雜收入ハ
之ヲ前條ノ利息配當及社債又ハ借入金ノ利息支
拂ニ充當スベシ

前項ノ規定ニ依リ利息配當及利息支拂ニ充當シ
タル金額ハ之ヲ建設利息ニ算入スルコトヲ得ズ

第八條 資本減少ニ因リテ生ズル差益金ハ缺損ノ
填補又ハ資産價額ノ銷却ニ充當スルノ外之ヲ處
分スルコトヲ得ズ

第九條 社債ヲ發行シタル場合ニ於テ社債總額ト
會社ノ手取額トノ差額ハ之ヲ貸借對照表上資産
ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ差額
ハ之ヲ當該社債ノ償還期限内ニ毎決算期ニ於テ

科目	款	目	解
路	側面及底面工事	舟雜	舟雜
		工保	工保
車	機	電壓器	電壓器
		變壓器	變壓器
水	發	主要配電	主要配電
		及開閉裝置	及開閉裝置
雜	費	檢修費	檢修費
		附屬費	附屬費
備	費	器具	器具
		備費	備費
備	費	電力	電力
		及通信設備	及通信設備
品	費	雜費	雜費
		運搬費	運搬費
總	費	運費	運費
		何	何
備	費	器具	器具
		備費	備費
備	費	電力	電力
		及通信設備	及通信設備
品	費	雜費	雜費
		運搬費	運搬費
總	費	運費	運費
		何	何

科目	款	目	解
路	側面及底面工事	舟雜	舟雜
		工保	工保
車	機	電壓器	電壓器
		變壓器	變壓器
水	發	主要配電	主要配電
		及開閉裝置	及開閉裝置
雜	費	檢修費	檢修費
		附屬費	附屬費
備	費	器具	器具
		備費	備費
備	費	電力	電力
		及通信設備	及通信設備
品	費	雜費	雜費
		運搬費	運搬費
總	費	運費	運費
		何	何
備	費	器具	器具
		備費	備費
品	費	電力	電力
		及通信設備	及通信設備
總	費	運費	運費
		何	何

器具	項目	款別	科目	説明
球器 器機 機具	電計 電扇 電路		電氣鐵道設備 何業設備 建設工事假勘定	變壓器其ノ他 電氣鐵道用ノ固定資産 當該事業用ノ固定資産 建設又ハ改良工事ニ對スル假勘定ニシテ費額確定セテ 各相當科目ニ振替整理ス 工出別ノ固定資産ノ「款」ニ準テ 内總ノ固定資産ノ「項、目」ニ準テ 電氣事業用ノ固定資産ノ「項、目」ニ準テ 又ハ何業ノ固定資産ノ「項、目」ニ準テ 内總ノ固定資産ノ「項、目」ニ準テ
器具	電計 電扇 電路	工事別	建設利息	
器具	電計 電扇 電路	會社別	關係會社有價證券	資本ノ大部分ノ所有ニ依リ支配シ得ル關係ニテアルモノハ勿論其ノ投資并事業 費ニ對シテノ關係ニテアルモノヲ含ム 有價證券中債券ノ買入レ等ノモノヲ含ムモノハ之ヲ明カトシテアルコト 種別整理 同
器具	電計 電扇 電路	會社別	關係會社貸付金	

科目	項目	款別	科目	説明
不動産	手形 貸付		何業 何業 何業	事業本來ノ目的ヲ以テ所有スルモノニ非ザルモノ 種別整理
科 目	特 定 資 産		何業 何業 何業	事業ノ所有ニ關スル直接營業ニ使用セズシテ特種ノ目的 ニシテノ利用ハ用途別及投資別ヲサス 其ノ科目ハ用途別及投資別ヲサス
科 目	流 動 資 産		何業 何業 何業	内課ハ流動資産ノ「預金」ニ準テ 内課ハ流動資産ノ「流動資産」ニ準テ
科 目	貯 蓄 品		何業 何業 何業	工事用品等ハ事業用品ニ對シテハ之ヲ「貯蓄品」ニシテ 貯蓄品ニシテ之ヲ「貯蓄品」ニシテ貯蓄スルモノハ「貯蓄品」 ニシテ貯蓄スルモノハ「貯蓄品」ニシテ貯蓄スルモノハ「貯蓄品」 同 本品、支店等營業單位別整理
科 目	事 業 未 收 入 金		何業 何業 何業	本品、支店等營業單位別整理

三篇一類五款 電氣事業會計規程(様式)

五二二

雜勘定			
科目	款	項目	目
假受金	本店 (又ハ何所)		解
前受金	本店 (又ハ何所)		解
外債爲替基金 借入有價證券 預リ有價證券	本店 (又ハ何所)		解
利 益			
前期繰越利益 当期純利益			解
三 損 失 部			
科 目	款	項 目	解
電 費	(何) 水力發電所費	給料手當	社員及準社員ノ給料 雇員以下ノ給料
			停電料

三篇一類五款 電氣事業會計規程(様式)			
科目	款	項目	目
		油 類 費	賞與及手當 油 類 費
		修 繕 費	建 物 修 繕 費 水 路 修 繕 費 調 整 池 又 池 修 繕 費 入 路 水 池 修 繕 費 機 械 器 具 修 繕 費 雜 設 備 修 繕 費 備 品 修 繕 費
		特 別 費	租 賃 料 公 物 使 用 料 火 災 保 險 料 借 地 及 借 入 料
			健 康 保 險 料 健 康 保 險 料 健 康 保 險 料 健 康 保 險 料
			地 租、水 車 稅、家 屋 稅、車 稅 等 附 加 稅 等 水 利 使 用 料、水 面 使 用 料、河 敷 料 等
			日 當、宿 泊 料、船 車 馬 賃 等

三篇一類五款 電氣事業會計規程(様式)

五二三

科目	款	項	目	解	說
	(何) (貯何) 汽力發電所費	給料手當	通信費	荷造費ヲ含ム	
			運搬費	一發電所ニ歸屬セザル場合ノ整理 内課ハ「水力發電所費」ノ「項、目」ニ準テ	
		燃料費	給料手當	社員及準社員ノ給料 雇員以下ノ給料 諸賞與金及在勤、特別勤務、時間外勤務、公休日出勤、宿 直等ニ對スル諸手當 運搬費ヲ含ム	
			俸與及手當		
			石炭費		
			燃料油費		
			油類費及用水		
			油脂類費及用水		
			汽機用水		
			汽機油費		
			汽機修理費		
			汽機修理費		
		特別費	物品修繕費	修繕專屬従事員ノ給料手當及修繕ノ爲ニ與スル人夫 賃、旅費、運搬費其ノ他ノ諸費ヲ含ム	
			稅地及借家料		
			借地及借家料		
			健康保險料		
			旅費		
			被服費		
			消耗品費		
			通信費		
			雜費		
			雜費		
	(何) 内燃力發電所費	給料手當	給料手當	社員及準社員ノ給料 雇員以下ノ給料 諸賞與金及在勤、特別勤務、時間外勤務、公休日出勤、 宿直等ニ對スル諸手當 運搬費ヲ含ム	
			俸與及手當		
			燃料油費		
			燃料費		
			石炭費		
			煤油費		
			煤油費		
			煤油費		
			煤油費		
			煤油費		

費電費	電費	電費	電費	電費	電費
旅被 消通 雜	服 品 運 雜	給 給 當	給 給 當	給 給 當	給 給 當
何造費ヲ含ム	他事業者ノ電線路ニ自己ノ送電線ヲ添架シタル場合等ノ使用料	社員及準社員ノ給料 雇員以下ノ給料 諸實與金及在勤、特別勤務、時間外勤務、公休日出勤、宿直等ニ對スル諸手当	修繕專屬従事員ノ給料手当及修繕ノ爲ニ要スル人夫賃、旅費、運搬費其ノ他ノ諸費ヲ含ム	地租、家屋稅、車稅等 附加稅ヲ含ム	給 給 當
日當、宿泊料、船車馬賃等					
線路使用料	線路使用料	線路使用料	線路使用料	線路使用料	線路使用料
給料手当	給料手当	給料手当	給料手当	給料手当	給料手当
油脂類	油脂類	油脂類	油脂類	油脂類	油脂類
修繕費	修繕費	修繕費	修繕費	修繕費	修繕費
特別費	特別費	特別費	特別費	特別費	特別費
稅	稅	稅	稅	稅	稅

科目	款	項	目	解	號
配電費	(何)受電所費 本(支、何所)	給料手当	健康保險料 旅被消通雜 服品運雜費 給給當	口當、宿泊料、船車馬賃等 修造費ヲ含ム 獨立セル場合ノ整理 内課「變電所費」ノ「項、目」ニ準テ 本店、支店等營業單位別整理 社員及準社員ノ給料 雇員以下ノ給料 諸實與金及在勤、特別勤務、時間外勤務、公休日出勤、宿直等ニ對スル諸手当 修繕專屬従事員ノ給料手当及修繕ノ爲ニ要スル人夫賃、旅費、運搬費其ノ他ノ諸費ヲ含ム 特約電力專用線ニ對スルセノ 地租、電柱稅、家屋稅、車稅等 附加稅ヲ含ム	
		特別費	給給當		

科目	款	項	目	弊	說
電力料	本何支店 (又、何所)		定額量時電燈料	燈	燈
			定額量時電燈料	料	料
電力料	本何支店 (又、何所)		不定時電燈料	料	料
			臨時電燈料	料	料
			停止器具	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
電力料	本何支店 (又、何所)		定額量時電燈料	燈	燈
			定額量時電燈料	料	料
電力料	本何支店 (又、何所)		不定時電燈料	料	料
			臨時電燈料	料	料
			停止器具	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料

科目	款	項	目	弊	說
電力料	本何支店 (又、何所)		定額量時電燈料	燈	燈
			定額量時電燈料	料	料
電力料	本何支店 (又、何所)		不定時電燈料	料	料
			臨時電燈料	料	料
			停止器具	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
電力料	本何支店 (又、何所)		定額量時電燈料	燈	燈
			定額量時電燈料	料	料
電力料	本何支店 (又、何所)		不定時電燈料	料	料
			臨時電燈料	料	料
			停止器具	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料
			電力損損	料	料

費 稅 當 息 知 此	係 業 收 引 當 息 知 此	所 得 稅 及 支 社 債 券 利 息 知 此	業 利 益	當 期 純 利 益	知 損 損 損	銷 發 價 損	費 能 券 偶 價 損	業 費 偶 價 損	定 價 損	創 固 有 何
益 金 息	利 及 配 當 金 息	給 事 業 利 息 及 配 當 金 息	益 益 益 入	益 益 益 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入
益 金 息	利 及 配 當 金 息	給 事 業 利 息 及 配 當 金 息	益 益 益 入	益 益 益 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入	業 債 權 券 利 取 還 金 戻 入

備考
 一 企業形態ノ相違ニ依リ本様式掲載名稱ノ適合セザルモノアルトキハ本様式ノ趣旨ニ則リ之ヲ改ムベシ
 二 本様式掲載外ノ事項アルトキハ本様式ノ趣旨ニ則リ之ヲ追加設定スベシ
 三 本様式ハ縦書シ日本數字ヲ用フルコトヲ得
 四 各区分計算ノ結果生シタル「供給事業利益(又ハ損失)」「他事業利益(又ハ損失)」「營業利益(又ハ損失)」及「當期純利益(又ハ損失)」ハ別項字體ヲ用フル等識別シ易キ方法ニ依リ之ヲ記載スベシ

第 何 期	自 昭 和 年 月 日	利 益 處 分 書
當 期 純 利 益	何 株 式 會 社	〇
前 期 繰 越 利 益		〃
何 積 立 金 戻 入		〃
合 計		〃
之ヲ處分スルコト次ノ如シ		
法 定 準 備 金		〇
別 途 積 立 金		〃
何 積 立 金		〃
役 員 賞 與 金		〃
配 當 金		〃
年 分	舊 株 一 株 = 付 〇	
	新 株 一 株 = 付 〃	
後 期 繰 越 利 益		〃

備考
 一 企業形態又ハ處分内容ノ如何ニ依リ本様式掲載名稱等ノ適合セザルモノアルトキハ本様式ノ趣旨ニ則リ之ヲ改ムベシ
 二 本様式ハ之ヲ縦書シ日本數字ヲ用フルコトヲ得
 三 優先株アルトキハ配當金ハ之ヲ普通株ニ依ルモノト區別表示スベシ

第三篇 電氣事業關係

第二類 自家用電氣工作物

自家用電氣工作物施設規則

(昭和七年十一月遞信省令第五十六號)

自家用電氣工作物施設規則第四十一條ノ規定ニ依ル電氣工作物施設狀況報告書

様式ニ關スル件

(昭和七年十一月遞信省告示第二千二百二十六號)

則 自家用電氣工作物施設規則

昭和七年十一月十六日
逓信省令第五十六號
昭和十四年四月
逓信省令第二十號改正

目次

第一章 總則

第二章 電氣工作物ノ施設及變更

第三章 電氣工作物使用

第四章 主任技術者

第五章 業務及保安上ノ業務

第六章 検査及監督命令

第七章 雜則

第八章 罰則

第九章 國ニ於テ施設スル電氣工作物

附則

自家用電氣工作物施設規則

第一章 總則

第一條 本令ハ電氣事業法第一條ニ掲グル事業ヲ除クノ外強電流電氣工作物ヲ施設スルモノニ之ヲ適用ス但シ左ニ掲グルモノハ此ノ限ニ在ラズ

三篇二類 自家用電氣工作物施設規則

一 電壓十ヴォルト以下ノ電氣ヲ使用スルモノ
二 電車線路其ノ他架空、地中又ハ水底電線路ヲ施設セズシテ車輛、船舶等ニ電氣ヲ使用スルモノ

第二條 本令ノ適用ヲ受クル強電流電氣工作物
以下單ニ電氣工作物ト稱スヲ分チテ左ノ二種トス

第一種
一 邸宅又ハ一構内ニ施設スル低壓ノ電氣工作物ニシテ左ニ掲グル場所以外ニ施設スルモノ
（イ） 爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生、製造若ハ貯藏スル場所
（ロ） 常設興行場、公會堂其ノ他公衆ノ來集ヲ目的トスル場屋

第二種
第一種以外ノ電氣工作物

第二章 電氣工作物ノ施設及變更

第三條 第一種電氣工作物ヲ施設セントスル者ハ工事着手前施設地ヲ管轄スル逓信局長ニ届出ツベシ
第二種電氣工作物ヲ施設セントスル者ハ電氣廳長官ニ認可ヲ申請スベシ但シ最大電壓三萬五千

ザオルト以下ニシテ全出力一千キロワット以下
(發電所又ハ特別高壓電線路ヲ有セザルモノハ
三千キロワット以下)ノモノニ在リテハ別段ノ
定アル場合ヲ除クノ外所轄遞信局長ニ認可ヲ申
請スベシ

第四條 産業組合ガ組合員各自ノ邸宅、作業場等
ニ於ケル電氣利用ノ目的ヲ以テ第二種電氣工作
物ヲ施設セントスルトキハ電氣廳長官ニ認可ヲ
申請スベシ

前項ニ掲グルモノト同一ノ目的ヲ以テ二十人以
上共同シテ第二種電氣工作物ヲ施設セントスル
トキ亦前項ニ同ジ

第五條 前二條ノ規定ニ依ル届出又ハ申請ニハ左
ノ書類及圖面ヲ具備スベシ

- 一 計畫書
 - 二 工事設計明細書
 - 三 實測圖
- 前項ノ届書又ハ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ
- 一 發電設備ヲ爲サントスルモノニ在リテハ電氣供給事業者ヨリノ受電ニ依ラザル事由ノ説

- 明書
- 二 水力ヲ原動力ニ使用セントスルモノニ在リテハ發電水力ノ使用ニ關スル當該官廳ノ許可書及命令書ノ謄本、未ダ其ノ許可ヲ受ケザルモノニ在リテハ其ノ申請書ヲ當該官廳ニ提出シタルコトヲ記載シタル書面
 - 三 他ヨリ受電スル電力ヲ使用セントスルモノニ在リテハ其ノ供給者トノ契約書ノ謄本
 - 四 工事落成期限書 届出ノ場合ニハ添附
- 前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲サントスル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ書類ヲ添附スベシ
- 一 施設ノ資金總額及其ノ出資方法ニ關スル説明書
 - 二 工事費概算書 電氣事業法施行規則第一號様式ニ準ジ調製スベシ
 - 三 施設ノ收支概算書 電氣事業法施行規則第二號様式ニ準ジ調製スベシ
 - 四 定款又ハ組合契約書ノ謄本
- 第六條 計畫書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 目的 電燈、電動力、電熱、電氣
 - 二 使用區域 (邸宅、工場其ノ他ノ使用場所ノ名稱及位置) (道府縣郡市町村名及地番ヲ記載スベシ)

- (一) 發電所ノ名稱及位置 道府縣郡市町村名及地番ヲ記載スベシ
- (二) 原動力 水力、汽力及内燃力ノ別、水カニ在リテハ河川又ハ湖沼名
- (三) 發電所ノ出力 常時出力、特殊出力、補給出力、尖頭出力(豫想負荷曲線圖ヲ添附スベシ)及最大尖頭出力ヲ記載スベシ
- (四) 周波數
- (五) 受電設備 受電地點毎ニ
(一) 受電地點 道府縣郡市町村名ヲ記載スベシ其ノ地點稱ヲ附記スベシ
(二) 受電地點ノ出力 前號(三)ニ準ズル出力及融通出力ヲ記載スベシ
- (三) 周波數
- (三) 送電設備 送電線路毎ニ

- (一) 送電線路ノ名稱、區間 連絡ヲ有スル發電所、受電地點、變電所等ヲ記載スベシ
 - (二) 電氣方式 直流、交流、相及及最大電壓 特別高壓、低壓ニ區別記載スベシ
 - (三) 電線路ノ種類 架空線、地中線、水底
- 第七條 工事設計明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 發電設備 發電所ノ名稱及位置(道府縣郡市町村名及地番ヲ記載スベシ)ヲ掲ゲ發電所毎ニ記載スベシ
 - (一) 發電所ノ出力 第六條第四號(三)ニ準ズ

(一) 原動力設備

(甲) 水力設備

- (イ) 河川又ハ湖沼名竝ニ取水口及放水口ノ位置
使用水量 單位毎秒立方メートルトシ常時、特殊等ノ區別ニ依リ記載スベシ
有效落差 單位メートルトシ計
算書ヲ添附スベシ
- (ロ) 理論水力 單位キロワットトシ左ノ
算式ニ依リ計算スベシ
理論水力 = 使用水量 × 有效落差 × 9.8
- (ハ) 引水方法 取水口ヨリ放水口ニ至ル
引水方法ヲ記載スベシ
- (ニ) 水路工作物
堰堤 取水口ニ於ケルモノ又ハ貯水池若ハ調整池
ニ於ケルモノノ別、構造、材料、施工方法
及地質竝ニ可動堰、捲上装置、土
砂吐、機械器具其ノ他附屬設備
- (ホ) 取水口 構造、制水門、塵除、流水除、水
雪除其ノ他取水口ニ於ケル施設
- (ヘ) 導水路 互長、隧道、開渠、蓋渠、樋、水路管、
水路橋等ノ長、勾配、構造及施工方法、
土砂吐、餘水吐、塵除、土
視孔、水量測定設備
- (ト) 沈砂池 構造、土砂ノ沈澱及排除ノ
方法、制水門、土砂吐等
- (チ) 水槽 構造、制水門、塵除、土
砂吐、餘水吐、餘水路
- (リ) 水壓管路 水壓管ノ構造、條數、太サ、長、厚、
水壓管路保安装置其ノ他附屬設備ノ大要、水壓

(乙) 汽力設備

- (イ) 管支持 施設
吸出管型式及
放水口 互長、勾配、構
造及施工方法
- (ロ) 堰堤、水路断面、調壓水槽、水壓管路
其ノ他特殊ノ工作物ノ大サ及強度ノ計
算書ヲ添附スベシ
- (ハ) 貯水池、調整池 全容量、有效容量、利用
ノ關係、湛水面積及使用水方法、餘水吐、
土砂吐、排水路、側壁、底面工事等
- (ニ) 有效容量ノ計算書ヲ添附スベシ
- (ホ) 水車 種類、型式、キロワット數、回轉數、調
工作物ノ構造及機械器具ノ裝置ハ別ニ圖
面ヲ以テ之ヲ表示スベシ
- (イ) 汽機 種類、キロワット數、汽壓、汽温、真空
度又ハ背壓、回轉數、蒸汽又ハ熱消費量
及條數(常用ト豫備トノ別)
- (ロ) 汽罐 種類、汽壓、汽温、蒸發量、加熱面積及
シテ記載スベシ(火爐壁ニ配置スルモノハ分割
積、給水温度及條數(常用ト豫備トノ別) 蒸汽貯
藏器種類、貯藏容量、使
用壓力ノ範圍及條數

汽機及補助機用ノ蒸汽又ハ熱消費量ニ
損失量ヲ加算シタル發電所總蒸汽又ハ
熱消費量ノ計算書ヲ添附スベシ

(ハ) 燃料燃燒裝置

- (イ) 給炭機 種類、火床ノ幅及長、汽罐一箇ニ
對スル摺付條數及設計燃燒容量
- (ロ) 微粉炭燃燒用機器 石炭乾燥器、石炭粉碎機、
ノ種類、容量及條數、原動機
ノ種類、キロワット數及條數
- (ハ) 汽罐給水「ポンプ」 種類、容量及條數、原
動機ノ種類、キロワット
數及條數

(ホ) 汽罐給水加熱及清淨裝置

- (イ) 節炭器、溫水器 種類、加熱
面積及條數
- (ロ) 淨水器、脫氣器 種類、容量、條數、附屬機器
及條數
- (ハ) 復水器 種類、冷汽面積、冷却水標準温度及條
數、冷却水「ポンプ」、空氣「ポンプ」
及復水「ポンプ」ノ種類、容量及條數、
原動機ノ種類、キロワット數及條數

(ト) 煙道内設備

- (イ) 空氣豫熱器 種類、加熱面積、豫熱
前後ノ空氣温度及條數
- (ロ) 煙道瓦斯集塵裝置 種類、條數、附屬機器ノ
種類、容量、キロワット

(チ) 通風設備

- (イ) 通風機 種類、通風量、風壓及條數、原動
機ノ種類、キロワット數及條數
- (ロ) 煙突 種類、口徑、地表及汽罐
火床上ノ高、柱ニ基數

(リ) 其ノ他附屬設備

機械器具ノ裝置ハ圖面ヲ以テ之ヲ表示シ
別ニ發電所及其ノ附近ノ狀況ヲ示ス縮尺
二萬五千分ノ一以上ノ圖面ヲ添附スベシ

(丙) 内燃力設備

- (イ) 内燃機 種類、キロワット數、回轉數、燃料
消費量及條數(常用ト豫備トノ別)
- (ロ) 瓦斯發生裝置 種類、發生
容量及條數
- (ハ) 消音裝置 構造、材料、
大サ及條數
- (ニ) 貯油槽、瓦斯溜 種類、容
量及條數
- (ホ) 内燃機冷却設備
冷却水「ポンプ」 種類、容量及條數、原動機ノ
種類、キロワット數及條數
- (イ) 冷却池又ハ冷却塔 構造、容量及條數、附屬
機器ノ種類、容量、キロ
ワット數
及條數
- (ハ) 其ノ他附屬設備

機械器具ノ裝置、内燃機ノ基礎及消音裝置ハ、圖面ヲ以テ之ヲ表示シ別ニ發電所ノ位置ヨリ凡百五十メートル以内ノ狀況ヲ詳細ニ示ス縮尺一千分ノ一以上ノ圖面ヲ添付スベシ

(三) 電氣設備

- (イ) 發電機 直流、交流ノ別、同期、非同期ノ別、アリテハキロワット數、交流ニ相、周波數、回轉數、結線法、勵磁法、筒數(常用ト豫備トノ別)及原動機下ノ連結方法
- (ロ) 勵磁機 種類、直流、交流ノ別、キロワット數、筒數、原動機トノ連結方法
- (ハ) 變壓器 キロヴォルト數、一次電壓、結線法、冷却法及筒數(常用ト豫備トノ別)
- (ニ) 電動發電機、廻轉變流機、周波數變換機、整流器 種類、直流、交流ノ別、キロワット數及筒數(常用ト豫備トノ別)
- (ホ) 調相機 同期、非同期ノ別、キロヴォルト數、筒數、周波數、筒數、勵磁法、勵磁機ノキロワット數、送電容量ヲ增加スル目的ヲ以テ設置スルモノニ在リテハ其ノ計算

(ロ)

架空電線路ノ構造
電線 線條數、回線數、太サ、電線及被覆絶緣物ノ種類、電線地表上ノ最低ノ高、電線相互ノ間隔及擔架ノ法方

架空地線 線條數、種
支持物 標準徑間、最大徑間、木柱(木材ノ種類、注人、不注人ノ別)、鐵柱、鐵塔又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ別及其ノ構造ノ大要、鐵柱、鐵塔又ハ鐵筋「コンクリート」柱ヲ使用スル場合ニ於テハ其ノ強度ニ關スル計算及重量

碍子(特別高壓ノモノニ限ル) 種類、大サ(懸垂型ノモノニ在リテハ一連ノ箇數ヲモ記載スベシ)、試驗電壓及試驗時間

其ノ他構造ノ大要 他ノ工作物トノ關係上施設スベキ河川、湖沼、海峡等ヲ横斷スル場合ニ於ケル工事等

六萬ヴォルト以上ノ送電線路ニ在リテハ電氣工作物規程本則第六十一條ノ規定ニ依ル靜電誘導電流ニ關スル計算書ヲ添付スベシ

(ハ) 地中電線路及海底電線路ノ構造
電線 種類、被覆絶緣物ノ種類、心線ノ種類、數及太サ
布設方法 引入式、直接埋設式等
其ノ他構造ノ大要 地中兩、接続兩等ノ構造及他ノ工作物トノ關係上施設スベキ工事等

(ト)(ヘ) 中性點接地方法 接地裝置ノオーム數、種類、電流容量等
制御裝置 手動式、自動式、遠方制御式ノ別、自動式又ハ遠方制御式ニ限リ其ノ大要

(チ) 保安裝置 種類及構造ノ大要(發電機、母機、變壓器、送電線等ノ保安裝置)ヲ以テ之ヲ表示スベシ

二 受電設備 受電地點ノ位置(道府縣郡市町村名及地番内ナルトキハ其ノ名稱ヲ附記スベシ)及供給者ヲ掲グ受電地點毎ニ記載スベシ 第六條第五號

(イ) 受電地點ノ出力(二)ニ準ズ
電氣方式 直流、交流、周波數、受電電壓
送電上ノ責任分界トナルベキ開閉器及受電電力ヲ遮斷シ得ベキ開閉器

(ニ) 保安裝置 種類及構造ノ大要
電線ノ接続及責任ノ分界ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スベシ

三 送電設備 送電線路ノ名稱、區間及互長(架空、地中、海底電線路ノ別)ヲ掲グ送電線路毎ニ記載スベシ
電氣方式 直流、交流、最大電壓

(ホ)

(ニ) 開閉所 名稱及位置(道府縣郡市町村名及地番ヲ記載スベシ)並ニ工事ノ大要
(ホ) 中性點接地方法 接地箇所、オーム數、種類及電氣工作物規程本則第六十一條ノ規定ニ依ル電磁誘導電壓ノ計算

(ヘ) 保安通信用電話設備 回線ノ方式、回線數、電話機設置場所(道府縣郡市町村名及地番並ニ發電所、變電所等ノ別)及支持物ノ種類

送電線路ノ構造、擔架ノ方法、開閉所ニ於ケル電線ノ接続及電話回線ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スベシ

消弧裝置 有スル送電線路ニ在リテハ當該裝置容量ニ關スル計算書ヲ添付スベシ

四 變電設備 變電所ノ名稱及位置(道府縣郡市町村名及地番ヲ記載スベシ)ヲ掲グ變電所毎ニ記載スベシ

(イ) 變電所ノ出力 電氣方式又ハ電壓ヲ異ニスルモ變電所ノ出力アルトキハ各別ニ記載スベシ

(ロ) 變壓器 發電設備ノ(三)

(ハ) 電動發電機、廻轉變流機、周波數變換機、整流器 發電設備ノ(三)

(ニ) 調相機 發電設備ノ(三)

(ホ) 中性點接地方法 發電設備ノ(三)